

在宅・福祉静岡ブロック

2025年度は、2024年度における各種報酬のマイナス改定や制度改正、あわせて過去に類のない物価高騰等、収益と費用のバランスに翻弄される1年間であった。その中、我々は日々刻々と変化を続ける「地域」を正確に把握し、今まさに発生している課題のみならず未来を見据えたニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに合致するサービスが提供できるよう効果的な事業のベストサイジングについて検証を進めた。さらに、社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践を改めて我々の原点と捉え、サービス提供が困難な地域や分野への介入についても検討を進め、他法人・他機関と連携や共同をしながら最適解を導き出す第一歩を踏み出した。一方、リスクマネジメントやコンプライアンスに対する組織対応力の脆弱さが顕在化した。この事実と真摯に向き合うことで、改めて『誰のために事業を行っているのか』の根拠を職員個々が自覚し、専門職としての責任と矜持をもって利用者に向き合う覚悟を問い掛けられた1年間であった。

2026年度は、ブレイクスルー（Breakthrough：現状の課題や困難、障害を適切に把握した上で突破すること）を第一義とし、今までの当たり前に潜むリスクを放置せず、今の当たり前に合致するマネジメントにアップデートを図っていく。その上で使命の『いのちと尊厳のために』を再確認した上で、自らが対応すべき「地域」において未来を見据えた地域課題をつぶさに検証し、個々のニーズに合致するサービスを適時適切に提供する。さらに、社会福祉法人としてサービス提供困難地域や分野等への積極的な介入も推し進める。そのためには、質の高いサービスを提供し続ける専門職はもとより、事業を支えるマネジャーの育成もスピードを増し、変容する地域課題に対応し得る人材の育成に注力していく。これらの対策を計画的に実践することで、変化を続けていく地域課題にフレキシブルに対応できる組織としての体力を醸成するとともに、地域実情に応じ介護・福祉と医療との事業を超えた連携をはじめ、法人内外の連携にも積極的に取り組むことにより、地域におけるより強固なセーフティネットを構築していくことを目指す。

【在宅・福祉静岡ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2026年度目標】

「ブレイクスルー（Breakthrough）～社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践～」

現在だけではなく未来を見据え、一手先の質の高い支援を実践する

【経営方針】

1. 現在だけでなく未来を見据えた地域課題を検証し、実現性のある計画を立案・実践する
2. 各事業の持続性を見極めた上で事業集約・分散等を図り、効果的な投資に繋げる
3. 専門職の働きやすさ、やりがいを追求したキャリア形成並びに業務革新を促進する

【事業計画】

1. 安全・安心につながるサービス提供体制のアップデートとサービスの質の向上

- (ア) 職務規範のアップデートと周知徹底を図る（理念、職業倫理、リスクマネジメント、法令遵守等）。実践にあたっては外部講師等を招聘し、世間の当たり前との合致を図る
- (イ) 適切なサービス提供がなされているかのセルフチェックを徹底するとともに、外部視点による客観的なサービス評価を実施しサービスの質向上を図る
- (ウ) ハインリッヒの法則に則り、1件の重大事故の裏の29件の軽微な事故、さらにその背景にある300件のヒヤリハットの早期発見、早期対処に努め、重大事故リスクを回避する
- (エ) 利用者・職員にとって安心・安全につながるICT化及びロボット化を推進する
- (オ) エリア軸、事業軸、職種軸、世代軸による多面的な確認を行い対策精度の向上を図る

2. 地域課題の抽出と未来を見据えた事業再編

- (ア) 地域実情を適切に予測し、他事業所との差別化を意識した我々だから担う事業の在り方（統合・分割・対象地域や規模の変更等）の再編成を推し進める
- (イ) 中山間地域における福祉・医療提供モデル事業を展開し対応力の拡大を図る
- (ウ) 地域ごとに「住民力」・「地域力」を引き出し、インフォーマルサービスとして活用するかかわりを促進する
- (エ) 老朽化した施設の大規模修繕等の具体的計画（不動産の利活用等）を立案する
- (オ) 各拠点で新たな食事提供体制（直営化、クックフリーズ、配食他）の具体化を図る
- (カ) 他法人・他機関と連携・共同し、当該地域における権利擁護体制を構築する

3. 専門職のキャリアプラン構築と多能工化、人材活用による働きやすさ・やりがいの追求

- (ア) 専門職としての矜持を保ち、地域における長期的なキャリアイメージが築け、多能工化が図れるように、各専門職のキャリアパスを形成する（職場体験・資格取得支援等）
- (イ) 現任マネジャーが「よき管理者」・「よき育成者」になるための研修体系を構築する。併せて、業務整理を図り、マネジャーが自施設・職場に注力しやすい環境を設定する
- (ウ) 「次世代マネジャー育成プログラム」を策定し、次世代のマネジャー候補を発掘・育成・擁立する（視察研修・海外研修等）
- (エ) 質の高い専門職が確保できるように新卒採用における新たなルートを確立する（大学・専門学校）。併せて、特定技能1号外国人等の新たな外国人材の雇用・活用を促進する
- (オ) ベテラン専門職やシニア世代、働く上で何らかの制限がある方、スポットワーカー等の多様な人材が活躍できる仕組みを検討の上、実践する
- (カ) 突発的な欠員等による負担感を軽減するための支援を「介護力機能向上部隊」が実践する。併せて、継続的かつ事業所横断的に展開できるような仕組みを構築する

4. 運営の安定化

- (ア) 報酬構造を精査し、適切な対応を実施するとともに新たな加算算定に努める
- (イ) 事業を永続するための方針並びに投資計画を策定する
- (ウ) 人件費や物価高騰等による経営への影響度を適時検証し、柔軟かつ迅速な対応を図る

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト
障害者支援施設みとす 和合愛光園デイサービスセンター
聖隷チャレンジ工房和合 浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉
聖隷こども発達支援センター和合 相談支援事業所くすのき

和合せいれいの里は、職員がやりがいを持ち働き続けられること、利用者へ質の高いサービスを提供できることを目標に AI や ICT、ロボット等の導入を進め業務効率化を図ってきた。一方、効率化によりできた時間を利用者に還元することや介護等支援内容の質の維持に課題が見られている。これは、介護テクノロジー活用による業務効率化と職員個々の成熟度に応じた育成体制の足並みが揃っていないことや、ご利用者のこれまでの生活に基づく介護支援等の理解に個人差があることが原因と考えられ、強い危機感を感じている。介護等支援の根幹である利用者の尊厳を守り利用者の人生に伴走させていただいていることを再認識する必要がある。利用者のこれまでの生活や思いが真に尊重され、安心した生活が営める介護等の支援を再度確認し、職場体制・人材育成の再構築を第1優先として取り組んでいく。あわせて、昨年度より取り組んでいる「地域」の再検証と再認識は継続し、社会福祉法人である和合せいれいの里として、過去と現在、未来を見据えながら地域に必要なサービスの創造・再構築・ベストサイジングに取り組んでいく。

【施設理念】

和合せいれいの里の全事業所および全職員は、和合せいれいの里の利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう常に利用者の視点に立ち、そのために必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく総合的に提供する。

【経営方針】

1. 利用者、家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
2. 地域共生の視点の下、複合施設としての利点を活かし、地域課題の抽出とライフステージの変化に応じた切れ目のない支援体制の構築を目指す
3. 専門職の多様なキャリアプランの構築と、AI・ICT・ロボット等の機器やシステムの具体的な活用を図ることで、専門職としての働きやすさとやりがいを追求する
4. 安定した運営が継続できるよう、適切な職員配置、コスト管理、設備改修等に努める
5. 防災・福祉拠点としての役割等を果たし、地域貢献に取り組む

【事業・運営計画】

1. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着
(ア) 利用者や家族、関係機関との対話を重要視し、利用者のこれまでの生活を大切にした支援を提供する。また、適時評価し状況の変化に応じた支援となっているか定期的に見直しサ

サービスの質の向上に努める。

- (イ) アクシデント・インシデントの分析を強化し、事故の発生予防に努めるとともに、利用者の状態変化に早期に気づき状態悪化、事故発生を防げるように取り組む。
- (ウ) こどもから高齢者まで世代を問わず支援困難な方や、医療ニーズの高い方等の受け入れについて積極的に協議・検討していく。
- (エ) 利用者のこれまでの生活を正しく捉え理解し、それらを基にした個別ケアに努め、利用者 と職員の生きがいややりがいを創造する。

2. ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築

- (ア) 地域ニーズを捉えなおし、ライフステージに応じた切れ目のない支援体制を構築する。
(事業のベストサイジング：通所介護事業・訪問看護事業・訪問介護事業・就労支援事業・リハビリテーション課)
- (イ) 制度の枠を超えた切れ目のない支援体制強化、地域への周知に継続して努める。
(聖隷福祉総合相談センター和合の地域における取り組みの機能強化、専門職の横断的な働き方 等)
- (ウ) 和合せいれの里内での地域連携に関する連絡会にて協議継続し、地域活動への参加、場所の提供等を実施しながら、地域課題を明確にしていく。

3. 新たな働き方・やりがい・役割の創造

- (ア) 利用者や家族、地域の方が訪れやすい和合せいれの里 PARK 化計画を進める。また、PARK 化計画には利用者や地域住民が参画できるよう計画、実践する。
- (イ) 専門職としてのキャリアがイメージできるような取り組みを検討・実践する。
(事業所説明会、職場実習 等)
- (ウ) 次世代リーダーの育成に注力する。あわせて、育成スキームを確立する。
- (エ) 支援の根拠を理解したうえで支援ができるよう、職員個々のレディネスレベル、成長速度に合わせたOJT体制等を再構築する。
- (オ) ICT 機器等の活用について評価し、業務効率化に伴う利用者・職員への還元方法について継続検討、実施、評価する。

4. 運営安定化の推進

- (ア) 大規模修繕に向け修繕計画の検討及び計画的な投資を図る。
- (イ) 施設・事業所の継続性を意識し、新たな価値を生み出す計画的な購入、改修を図る。
- (ウ) 適切な稼働、加算算定、効率的な職員配置が行えるように業務改善及び事業規模を検討する。
- (エ) 水光熱費、消耗備品の購入、及び外部委託業者の契約状況等を評価し、適正化を図る。
- (オ) 各職場での支援内容や制度上必要な記録、請求等の業務が正しく行われているかについて内部相互チェック等の再確認体制を実施していく。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の防災訓練等に参加し福祉施設の役割理解を促す。
- (イ) 小中学校や介護未経験者、近隣企業等を対象に、情報発信、介護相談、研修会開催等を通し、介護に対する理解促進に貢献する。
- (ウ) 学習支援事業へ聖隷キッチン和合の食事提供を継続する。
- (エ) 河川里親制度に登録し、隣接河川の環境美化活動を継続する。
- (オ) 地域の敬老会等の会場として施設を開放する。また、地域の清掃活動への参加など地域活動へ参画する。

【数値指標】

■高齢者入所・通所事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			
	特養入所		短期		通所介護			
	従来型	ユニット型	従来型 (障害含)	ユニット型	一般型 介護	予防	共生型 機能訓練 生活介護	認知症 対応型
利用者定員	62名	40名	27名	29名	75名			12名
利用者延数	22,273名	14,400名	9,360名	10,501名	8,761名	1,252名	725名	2,774名
一日平均利用者数	61.0名	39.5名	25.6名	28.8名	28.0名	4.0名	2.3名	8.9名
稼働率	98.4%	98.6%	94.9%	99.2%	46.2%			73.9%
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	310日			310日
単価（一人一日）	13,440円	15,864円	13,275円	16,210円	10,077円	5,861円	9,169円	14,278円
サービス活動収益	328,239千円	228,437千円	124,257千円	170,220千円	102,987千円			39,606千円
正職常勤換算数	41.2名	24.5名	9.9名	15.0名	8.5名			2.3名
パート常勤換算数	12.2名	7.4名	2.1名	6.4名	10.4名			4.1名

■障害者入所・通所・相談事業

■静岡ブロック

	障害者支援施設 みるとす			相談支援 くすのき	浜松市中障 がい者相談支 援センター	静岡ブロック 運営管理室	基幹型相談 支援事業
	施設入所 生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所	特定 児童	浜松市 受託		浜松市 受託
利用者定員	20名	20名	2名	—	—	—	—
利用者延数	7,229名	6,093名	1,137名	1,906名	—	—	—
一日平均利用者数	19.8名	19.8名	3.1名	—	—	—	—
稼働率	99.0%	98.9%	155.8%	—	—	—	—
稼働延日数	365日	308日	365日	—	—	—	—
単価（一人一日）	19,114円	15,429円	9,950円	—	—	—	—
サービス活動収益	144,845千円	94,020千円	11,907千円	37,200千円	48,660千円	9,944千円	6,500千円
正職常勤換算数	13.9名	8.9名	—	5.0名	8.0名	7.5名	1.0名
パート常勤換算数	5.1名	6.5名	—	—	—	—	—

■就労支援・障害児通所支援事業

	聖隷チャレンジ工房和合				聖隷こども発達支援センター和合		
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	かるみあ	はなえみ	かるみあ
利用定員	6名	20名	10名	—	30名	20名	—
利用者述べ人数	1,446名	4,815名	1,928名	156名	7,460名	4,925名	408名
一日平均利用者数	6.0名	17.3名	8.0名	—	31.1名	20.8名	—
稼働率	100.0%	86.6%	80.0%	—	103.6%	103.9%	—
稼働日数(延べ)	241日	278日	241日	—	240日	237日	—
単価(一人一日当り)	10,495円	10,381円	7,878円	—	20,162円	8,794円	—
サービス活動収益	19,759千円	62,621千円	49,498千円	4,584千円	169,957千円	43,932千円	8,708千円
正職常勤換算数	12.9名				28.6名		
パート常勤換算数	14.5名(うち、A型利用者7.6名)				9.7名		

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
	328名	1,686件	20,235件		10,577円		214,763千円	28.4名
聖隷ヘルパーセンター	介護給付		予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(時間)		
		月間	年間	月間	年間		円	円
54.6名	624件	7,493件	92件	1,106件	4,550円	3,500円	68,436千円	9.8名
聖隷ケアプランセンター和合	年間請求件数			平均単価			サービス活動収益	常勤換算職員数
	介護	予防	予防A	介護	予防	総合A		
2,452件	240件	60件	19,550円	4,700円	4,700円	51,639千円	6.2名	
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防単価	サービス活動収益	常勤換算職員数	
	37,267千円		4,290件	3,720件	4,471円			
	日常生活支援総合事業の予防プラン							
	種別	ケアマネジメント請求件数		うち再委託件数	ケアマネジメント単価		66,085千円	8.6名
	ケアマネジメントA	2,070件		1,740件	4,471円			
ケアマネジメントB	72件		36件	3,246円				
ケアマネジメントC	0件		0件	2195円				

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生

2025年度は、地域における事業継続を見据え、地域の実情、ニーズに基づきそれぞれの事業で何をすべきかを考え実践する一年間であった。デイサービスにおいては、栄養マネジメントの他、在宅生活継続のための支援として持ち帰り食の提供を開始、法人内デイサービスとの合同送迎の本格運用、法人内近隣事業所との連携強化等を行った。特別養護老人ホームでは、担当職員による計画書立案と個別支援、ICT機器等を活用したリスクアセスメントによる介護の質の向上、ボランティア受け入れの再開、ショートステイ1床の稼働安定等を実践できた。ケアセンター初生の強みを生かした事業運営が出来たと考える。

2026年度は、地域から必要とされるセンターであるために、自分たちが何をすべきかを聖隷の理念に立ち返り、考え、行動していく。特別養護老人ホーム、デイサービス、それぞれの事業で構築してきた運営フレームの最適化、基本的介護方法の見直しと徹底、地域課題・ニーズを根拠とした地域に必要とされるサービスの提供に繋げていく。また、未来を見据えた支援を実践すると共に、施設の集約や再編についても検討していく。

【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

【事業・運営計画】

1. 利用者、地域のニーズに沿ったサービスの見直しによる質の向上

- (ア) 利用者の意思決定支援について学び、他事業所とも連携し、身寄りのない方への支援を検討、実践する
- (イ) その人の人生に合わせた計画の立案・サービスの提供を実施する
- (ウ) ショートステイ事業を通して、聖隷ケアセンター初生内の事業連携を推進する
- (エ) 地域課題・ニーズについて自治会と連携し、聖隷ケアセンター初生の強みが最大限活かせるようサービスの検討・実施をしていく

2. 聖隷DXの深化によるサービスの質向上・業務の効率化と人材育成の推進

- (ア) 事業計画を軸にした役割の分担、リーダー職員への一定の権限委譲と管理、OJTを通して次世代リーダーの育成に注力する
- (イ) ICT機器等の活用を図り、業務の効率化、業務負担軽減をし、サービスの向上を目指す。
- (ウ) 目標参画システムを推奨するにあたり、職員への動機づけ、目標設定、達成への指導、支援を実施する
- (エ) 職員のメンタルヘルスや腰痛等の対象者を減少させるための取り組みを行う

3. 感染症対応、災害時など、いかなる状況においても事業継続ができる体制を構築する
- (ア) 職員個々が役割を遂行できるように、センター内で定期的な訓練、勉強会を実施する
 - (イ) センターにおけるBCP(事業継続計画)を更新し、非常時に地域と相互支援体制が構築できるように地域と会話をしていく
4. 安定した運営の推進
- (ア) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る
 - (イ) 新規利用者獲得のためのICTを活用した広報活動の推進
 - (ウ) 業務の見直しを行う中で、業務委託契約等の状況を評価し、適正化を図る
5. 地域における公益的な取組
- (ア) 福祉避難所の役割を果たすことを念頭に、地域防災拠点としての組織作りに取り組む
 - (イ) 地域包括支援センターと協力し、地域に対しての講義等に専門職を派遣し、地域福祉の向上に貢献する
 - (ウ) 各専門職の実習、小・中学校からの福祉体験、特別支援学校の実習受け入れを行い、施設機能を提供する

【数値指標】

	和合愛光園 初生サテライト	和合愛光園 初生サテライト ショートステイ	聖隷デイサービスセンター初生	
			介護給付	総合事業
利用者定員	29名	1名	50名	(50名)
利用延数	10,415名	292名	9,572名	723名
一日平均利用者数	28.5名	0.8名	31.0名	2.3名
稼働率(%)	98.4%	80.0%	66.6%	
稼働延日数	365日	365日	309日	
平均介護度	3.57	1.72	1.64	—
単価	15,690円/日	11,767円/日	10,566円/回	6,705円/日
サービス活動収益 (千円)	163,415千円	3,436千円	105,988千円	
職員数(正職)	14.3名		5.2名	
職員数(パート)	10.0名		11.8名	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザ IN 高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

2025年度は、地域住民のフレイル予防を目的とした施設開放・相談会「ケアセンター高丘祭り」の継続に加え、ケアセンターのインスタグラム開設など地域の方へ施設の機能を知っていただく機会を大切にしたい1年となった。

2026年度は、地域でも増え続けている「身寄りのない方」がその人らしく地域で生活し続けられるような取り組みをケアセンター全体で実施する。また ICT 化の更なる活用により業務の効率化を図る。これらの活動を通し、働く職員にとっても魅力のある施設を目指す。

【施設理念】

わたしたちは地域に根ざしその人らしく自立した生活を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者特性をつかみ、地域の中で、質の高いサービスを展開できる
 - (ア) 訪問看護ステーション高丘は医療依存度の高い方、障害福祉、精神疾患、引きこもり等様々な疾患や課題を抱える家庭に対して、包括的に支援できるステーションを目指す。
 - (イ) 聖隷リハビリプラザ IN 高丘はデジタル機器や運動機器を活用し業務の省力化を行い、必要などころに人員を注力できる体制を整える
 - (ウ) 地域包括支援センター高丘は認知症啓発に加え、他包括、多機関と連携し、身寄りのない方への意思決定支援等の多様化する地域課題に取り組む
 - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は法令順守と根拠に基づいたケアマネジメントをチームとして実践できるような仕組みを作る。「適切なケアマネジメント手法」を活用し複雑化したケース課題や在宅看取りに対応する
 - (オ) 各事業ともに法人内を問わず近隣の病院との連携構築を進める
2. ケアセンター高丘内の連携を強化することでセンター全体として利用者・地域の方々を多角的に支援する
 - (ア) 身寄りのない方への支援についてセンター全体で課題を明らかにし、支援方法を具体化した「ケアセンター高丘モデル」を確立する
 - (イ) 交互の職場実習を行い、各事業についての理解を深める
 - (ウ) 施設開放、ケアセンター祭りなど地域の方との関わり、インスタグラム、広報誌、係活動、職員全体会等を通し、地域とのつながりを意識した活動ができる

3. 職員1人ひとりがやりがいを持ち、働きやすい職場風土を醸成する

- (ア) AI 議事録活用、リハケア帳票の簡略化、合同送迎による業務の効率化を図る
- (イ) 多様な働き方に合わせ研修参加できるような体制をつくる
- (ウ) サロンや地域の活動に積極的に出向く

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 自治会の防災訓練やクリーンデー等、地域行事に積極的に参加する
- (イ) ロコモーショントレーニングサロン活動を継続する
- (ウ) 各専門職の実習や中学生の職場体験、ボランティアなどを積極的に受け入れる

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動 収益（千円）	職員数 （常勤換算）
181 人	936 件	11,226 件	9,623 円	110,867 千円	13.9 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ IN 高丘）

介護給付			予防給付		共生型		サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数		
25.7 名	660.8 名	7,930 名	96.4 名	1,157 名	18.1 名	216.8 名	83,427 千 円	15.3 名
単価 （円）	6,277 円		27,676 円		8,808 円			

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）		
48,091 千円	4,402 件	3,454 件	4,471 円			79,371 千円	8.7 名
日常生活支援総合事業の予防プラン							
種別	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	79,371 千円	8.7 名		
ケアマネジメント A	2,457 件	1,531 件	4,471 円				
ケアマネジメント B	187 件	0 件	3,277 円				
ケアマネジメント C	0 件	0 件	0 円				

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
2,386 件	424 件	17,550 円	4,725 円	12 件	4,400 円	45,234 千円	5.8 名

聖隷コミュニティケアセンター

2025年度は、ニーズを多角的に捉えたサービスの質の向上を目指し、開設以来初となる利用者アンケートの実施と関連事業所への訪問をルーティーン化した。利用者及び事業所の声を聞き、ニーズに合わせたサービスの拡充と職員意識の向上が図れた。また、職員に対して目的を持った役割付与を行い、成長を促すことが出来た。

2026年度は、引き続き利用者及び事業所からニーズを満たすべく、情報の収集と分析を継続し、サービス内容の改善と進化を目指す。また、高丘配送センターの運営・運用を再考し、移転計画を実行する。

1. ニーズを多角的に捉えたサービスの拡充と質の向上

- (ア) 利用者アンケートを継続し、変動する利用者ニーズの恒常的な理解とサービスの質の向上に努める
- (イ) 法人内外を問わず関連事業所への訪問と会議への参加を積極的に行い、事業所のニーズを把握しサービスの拡充を図る
- (ウ) WEB販売サイト「Lea（レア）」の運用を再考し、販売対象者・商品を見直す
- (エ) 店舗ニーズの可視化と分析を行い、店舗の在り方を再考する

2. 高丘配送センターの移転

- (ア) 高丘配送センターの移転計画を検討・実行し、新拠点を構える

3. 職員の意識向上と新たな働き方の創出

- (ア) 業務分担の変更や新たな役割の付与により、次世代職員を育成する
- (イ) 福祉用具及び接遇研修に加え、介護保険に関する研修へも参加し、専門職としての知見を深める。また、内部共有する仕組みを構築し、職員全体の知識・技能の向上に努める

4. 運営の安定化を推進

- (ア) レンタル・住宅改修・販売の目標管理を継続し、安定した収益確保に努める
- (イ) 業務内容や支援体制を見直し、職員配置の適正化を図る
- (ウ) エビデンスに基づいた運営管理を行い、組織力を強固にする
- (エ) マニュアル等の整備を行い、端末にデータ格納することで訪問時のサービスのフラット化を図る
- (オ) 既存システム「SmartShake（スマートシェイク）」を活用し、レンタル及び販売の訪問スケジュールを一元管理することで業務効率化を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 行政機関や法人内外の在宅サービス事業所が行う地域活動へ参画する
- (イ) 有事の際の福祉用具・防災用品等の貸し出しを継続する

【数値指標】

	レンタル件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	職員数 (常勤換算)
コミュニティーセンター	15,412 件	208,937 千円	253,400 千円	14,520 千円	29.4 人

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

医療・介護・福祉分野を取り巻く環境は、制度改正や社会的ニーズの変化により継続的に変化している。こうした状況を踏まえ、当センターでは、法令遵守と経営基盤の安定化を根幹に位置づけ、安心・安全な事業運営の確立に取り組んでいきたい。

また、当センターが担う地域においては、高齢化の進行や医療・介護ニーズの多様化、他法人による事業展開の進展などにより、求められるサービス内容にも変化が生じている。このような環境変化を踏まえ、2026年度は、訪問看護ステーション、ケアプランセンター、デイサービスセンターの複合事業所としての強みを活かし、法人内外の関係機関との連携を強化するとともに、利用者一人ひとりの生活背景や価値観を共有した切れ目のない支援を通じて、地域で暮らす方々の「その人らしい、望む暮らし」を支え続ける体制づくりを目指していく。

【拠点理念】

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【経営方針】

1. 法令遵守と内部統制を徹底し、安心・安全な事業運営を確立する
2. 法人内外連携を強化し、「三方原圏域」での支援体制を整える
3. 利用者一人ひとりの望む暮らしに寄り添い、質の高いサービス提供を行う

【事業計画】

1. コンプライアンス遵守と内部統制の徹底
 - (ア) 運営基準・業務手順・記録体制の再点検を行い、遵守状況の確認を徹底する
 - (イ) 相互チェック体制を整え、コンプライアンス意識の向上を図る
 - (ウ) 職員研修等を通じて、理念・倫理観に基づいた実践を体現する
2. 法人内連携を軸とし、他法人との協力により、「三方原圏域」での支援の充実を図る
 - (ア) 訪問看護、ケアプラン、デイサービス間の情報共有と連携を強化する
 - (イ) 法人内他事業所との連携を進め、切れ目のない支援体制を構築する
 - (ウ) 近隣の医療機関や事業所との連携を通して、事業スキームを検討する
3. その人らしい望む暮らしを支える支援の実践
 - (ア) ICTを活用し、利用者やご家族・関係者が目標に向けた変化を実感できる支援を行う
 - (イ) 利用者の生活背景や価値観を踏まえた支援を行う

(ウ) ACP や早期からの意思決定支援を意識した関わりを進める

4. 働きやすい職場づくりと災害時に備える

(ア) 業務の標準化・効率化を進め、職員の負担軽減を図る

(イ) センターとしての業務継続計画を立案し、法人内連携施設と協力体制を整える

5. 地域における公益的な取組

(ア) 三方原圏域協議体への参加を行う

(イ) 地域活動（地域のお祭り、認知症高齢者声掛け訓練・防災訓練等）に積極的に参加する

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
141 人	614 件	7,719 件	10,351 円	84067 千円	10.0 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1652 件	552 件	16,000 円	4,700 円	12 件	4400 円	30,797 千円	4.0 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (日)	予防 (月)		
31.3 人	804 件	612 件	84 人	1008 人	6,654 円	27,446 円	77,171 千円	10.9 人

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
1.3 人	33 人	401 人	8,965 円	3,600 千円	10.9 人

浜松市生活自立相談支援センターつながり

当事業所が開設され10年以上が経過したが、その間、相談者の有する課題や背景は社会情勢にあわせて大きく変化した。近年、地域における支援機関の拡充に伴い、複雑化する相談課題に対して多職種・多機関が有機的に連携する体制構築が加速している。

2026年度は地域において当事業所が担うべき役割を改めて見つめ直す。過去の支援内容や他機関との連携を振り返るとともに、慣例にとらわれることなく、行政を含む事業団内外の関係機関や地域住民と新たな連携体制の構築を進めることで、生活困窮者への早期支援と再発防止に取り組む。

【施設理念】

全ての相談に心を傾け、受け止め、伴走しながら『生き活きと生きる』ことを支えます

【経営方針】

1. 様々な背景を持つ利用者を理解し、自立に向けた個別支援を実践する。
2. 生活困窮世帯の子どもへの支援を通じ、貧困の世代間連鎖防止に取り組む。
3. 職員が働きやすく、育まれる環境を整える。
4. 地域における公益的な取り組みを実施する。

【事業計画】

1. 様々な背景を持つ利用者を理解し、自立に向けた個別支援を実践する。
 - (ア) 各事業（自立相談支援、就労準備支援、家計改善支援、キャリア形成支援、居住支援、生活支援居場所）が担う役割を再定義し、他機関との機能分化と補完関係を明確にする。
 - (イ) 積極的に個別支援プランを立案し、各事業が連動してチーム支援を行う。
 - (ウ) 蓄積されたデータをDX化により活用し、相談者の課題や特性に応じた支援の在り方を検討する。
 - (エ) (ウ)をもとに連携が必要な機関の整理と開拓を行う。
2. 生活困窮世帯の子どもへの支援を通じ、貧困の世代間連鎖防止に取り組む。
 - (ア) 小学生～中学生に対して、学習支援を含む居場所支援を実施する。
 - (イ) 子どもへの支援を入口として世帯に関わり、課題の早期発見、支援につなげる。
 - (ウ) 外国にルーツのある子どもに対し、日本で暮らし続けるための必要な支援を検討する。
 - (エ) 中学生を対象に就業意識の向上・醸成を図るための職業体験等を開催する。
 - (オ) 教室に通えない生徒や家庭に課題のある世帯に対して訪問支援を行い、学習支援及び生活相談支援を実施する。
3. 職員が働きやすく、育まれる環境を整える。
 - (ア) 経験ある相談員を中心にチーム体制をとり、相談、助言しやすい環境をつくることで、

職員の負担軽減を図る。

(イ) チーム内で事例検討会を行い、事業理解の深化と実践力の向上を図る。

(ウ) 他機関の理解を深めるために意見交換会を開催する。

4. 地域における公益的な取り組みを実施する。

(ア) 地域ニーズにあわせて学習教室の拠点と支援内容の変更を検討する。

(イ) 聖隷キッチン和合と連携し、学習教室を利用する子どもたちへ食事支援を行う。

(ウ) 学習教室卒業生を対象とした学習サポート事業を実施し、高校定着や就労支援等、必要な支援を継続する。

(エ) 住まいに関する課題を整理し、居住支援協議会の立ち上げに参画する。

【数値指標】

	浜松市生活自立相談支援センターつながり			
	生活困窮者自立支援事業 (自立相談支援・就労準備支援 家計改善支援・キャリア形成支援 居住支援事業)	生活支援 居場所事業	ホームレス 巡回相談 事業	学習サポート 事業
サービス 活動収益	97,551 千円	5,997 千円	384 千円	-千円
常勤換算 職員数	16.0 名			0.3 名

聖隷ケアセンター浅田

訪問看護ステーション浅田

聖隷ケアプランセンター浅田

地域では訪問看護事業所の乱立が進み、利用者や関係機関から「選ばれる事業所」であり続けることが難しい状況となった。実際に、地域包括支援センターや医療機関からの紹介件数は減少傾向にあり、訪問看護の新規依頼も伸び悩んだ。一方で、複合事業所としての強みを活かし、訪問看護と居宅介護支援が密に連携することで、利用者・家族に寄り添った支援を継続して提供することができた。特に居宅介護支援では、例年に比べて在宅で最終段階を迎えるケースが増え、積極的に担当することでターミナル加算の取得にもつながった。看取りに至らないケースも多い中で、医療特化型施設への入所・入院が増えている現状を踏まえつつ、在宅での最期を希望する利用者に対しては、複合事業所ならではの情報共有と迅速な対応により、より安心感のある支援を実現できたと感じている。

2026年度は、これらの経験を通して、特定の分野に偏らず、幅広いニーズに応えられる「オールマイティでタイムリーに動ける複合事業所としての役割」を果たすべく、引き続き複合事業所としての強みを最大限に発揮し、地域全体を支える存在として活動を継続していく。

【施設理念】

地域のニーズに柔軟かつ迅速に対応し、「困ったときにまず相談される事業所」「質の高い支援が受けられる事業所」として、地域から選ばれる事業所となることを目指す。

【経営方針】

1. 対応力の強化
2. 複合事業所としての機能強化
3. 地域連携の再構築
4. 質の担保と人材育成

【事業計画】

1. 対応力の強化
 - (ア) 医療依存度の高い利用者から生活支援ニーズの高い利用者まで幅広く対応できる体制を整備する
 - (イ) 緊急時・突発的な依頼にも迅速に対応できるオンコール体制・情報共有体制を強化する

2. 複合事業所としての機能強化

- (ア) 他サービス（介護、相談支援等）との連携を密にし、切れ目のない支援を提供する
- (イ) ターミナル期においても在宅での選択肢を提示できる支援体制の構築を行う

3. 地域連携の再構築

- (ア) 医療機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所との関係性強化
- (イ) 定期的な情報発信・顔の見える関係づくりを通じ、信頼される事業所を目指す

4. 質の担保と人材育成

- (ア) スタッフ教育・研修の充実による看護・支援の質の向上を目指す
- (イ) サービスの標準化と振り返りを行い、常に質を担保する仕組みづくりに取り組む

【数値指標】

訪問看護ステーション浅田

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
163 人	871 件	10,456 件	(医療) 11,803 円 (介護) 8,858 円	112,224 千円	13.5 名

聖隷ケアプランセンター浅田

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,730件	530件	17,210 円	4,868 円	8 件	4,400 円	33,643 千円	4.0 名

聖隷こども園ひかりの子

2025年度は、園児一人ひとりの育ちを保障し適切な関わりを追求していくために、クラス編成の見直しを実施し、保育実践を行ってきた。その中でも異年齢児の関わりの中で育ち合う主体的な子どもの姿を大切に、園内研修での学び合いを続けている。キリスト教の精神が基本理念であることを前提に、職員一人ひとりが「育ってほしい子どもの姿」を明確にして2026年度も引き続き実践を通しての学び合いを継続していく。

また、地域の老人会とのつながりを再構築し、多様な人との関りや出会いを通して生活の中で人と関わる喜びを感じられるようにしていくと共に、園が地域の中でできることを確認し将来を見据えた取り組みをする一年とする。

そして、2026年度は「乳児等通園支援事業」の取り組みを開始する。改めて保育制度や園が求められていることを理解し、地域に信頼される園を目指し、在園児だけでなくすべての子どもたちの育ちを支える役割を担っていききたい。

【施設理念】

『ひかりの子らしく歩みなさい』～エフェソ信徒への手紙5:8～

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 子どもの姿、心の動きを多角的に捉える視点を学ぶため、園内外での積極的な保育士交換や、コドモンカレッジ等で経験年数にとらわれない園内勉強会を継続していく。
- (イ) 子どもの非認知能力を培うため、異年齢保育や少人数保育等必要に応じて保育の形態を工夫し、日々の生活や遊びの中で他者との交流が図れる環境（空間・時間・物等）を整える。
- (ウ) 子どもが自分でやりたいことを見つけ、方法を考えて達成していく「子ども主体の保育」を実現し、一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践に結び付けていく。
- (エ) 定期的に教育・保育を見直す視点を持つ。各種自己評価チェックリストを基に子どもの最善の利益を最優先に考えて、職員が互いに質を高め合うことができる職場環境を実現する。

2. 教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備

- (ア) 保育職ラダーや自己評価を通じて、それぞれの段階で求められる資質を明らかにし、キャリアステージに応じた内外の研修に参加する。

(イ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担えるようにする。具体的な業務の改善や見直しを図ることで、問題解決に取り組む。

(ウ) 園児・職員の安全、安心のために園内外に見守りカメラの導入を検討していく。

3. 地域・他機関との連携

(ア) 小学校への接続をふまえ、与進小学校・与進北小学校との交流を深める。

(イ) 医療的ケア児の受け入れに向けて、法人内訪問看護ステーションと検討を始めていく。

(ウ) 市野与進こども園等、近隣の施設との連携・交流を深める。

(エ) 行政・民生児童委員・発達医療センター等の職員との情報交換・共有を図る。

(オ) 地域の美化活動・子育て会議等の地域の交流会に参加し、地域の方々との繋がりを大切にし、園の教育・保育内容について知ってもらう機会を増やす。

4. 安全・危機管理に対する取り組み

(ア) 大きな事故を未然に防ぐために、日常の「ヒヤリハット」に気付き、その分析・報告・共有ができる体制を強化する。

(イ) 見守りカメラの導入検討のため、園児が死角になる箇所等の把握や、出入り口の再確認を行っていく。

(ウ) 感染症に関する正しい知識や情報を共育すると共に、有事には関係機関とスムーズに連携できるように体制の整備、研修の充実を図る。

(エ) 防災委員会を中心に災害・不審者対策の見直しを行い防災力の強化を図る。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域の子育て家庭に、集い・交流の場所を提供する。(親子ひろば・園庭開放)

(イ) 中高生の職場体験学習やボランティアを受け入れ、次世代育成に貢献する。

【数値目標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	27名	36名	36名	40名	40名	41名	220名
利用定員(1号)	—	—	3名	4名	4名	4名	15名
利用定員合計	27名	36名	39名	44名	44名	45名	235名
一日平均入所者数	15名	35名	38名	44名	42名	39名	211名
年間入所延人数	180名	420名	456名	528名	504名	468名	2556名
入所率	55.5%	97.2%	97.4%	100%	95.4%	86.6%	90%
開所日数(延べ)	292日(教育週数 44週)						
サービス活動収益	320,755千円						
職員数(常勤換算)	50.2						

【提供保育事業】

延長保育事業

障がい児保育事業

乳児等通園支援事業

一時預かり事業(一般・幼稚園型)

外国人児童保育事業

親子ひろば

類似型学童保育事業

聖隷こども園めぐみ

確実に進む少子化、貧困や虐待等複雑な家庭環境の増加など、こどもを取り巻く社会情勢は依然として厳しく多くの課題を抱えている。一方で不適切保育や危機管理等の問題が頻発し子どもを預かる施設への社会の受け止めも厳しい。そういった中で子どもの育ちを支えるこども園として、子どもの最善の利益を保証することが強く求められている。キリスト教の精神を基本理念とし安心安全な保育の提供を継続しながら、地域のニーズをとらえ必要とされる園児の受け入れを積極的に行い、地域への貢献を果たすとともに、経営の安定に繋げたい。特に障害児、医療ケア児等の保育ニーズに応えるためには地域資源の活用と連携が不可欠となる。隣接する聖隷こども発達支援センター和合や地域の療育施設との連携体制作り、強化を目指す。また、すべての子どもの育ちを応援し、保護者の就労要件を問わず時間単位で柔軟に園を利用できる「乳児等通園支援事業」の取り組みを開始し、遊びと体験を通して、子どもの成長を支援する環境を整えたい。

園内では子どもの安全を守る視点から園内の事故報告書をもとに事故防止に繋げていくための取り組みを行い聖隷保育学会の発表に繋げていく。また発達に即した教育・保育内容の充実を図るため、園外研修への参加や、園内の学習会を通して保育環境の見直しに取り組む。職員の学びの機会を積極的に作り、保育者一人ひとりの専門性の向上を目指し「保育の質の向上」に繋げる。

また、職員がモチベーションを高く持って、長く働き続けられるように仕事と家庭の両立支援等のサポート体制を活用すると共に、保育支援システム（コドモン）を有効活用することで、職員の業務省力、職員個人の保育のスキルアップに繋げたい。さらに主任・副主任保育士等を中心として、職員自身が保育の魅力を言語化し発信できるような、語り合う職場風土作りに取り組む。

【施設理念】

キリスト教の精神に基づく「隣人愛」

「隣人を自分のように愛しなさい」 マタイによる福音書 22 章 39 節

「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

ヨハネによる福音書 13 節 34 節

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業計画】

1. 教育・保育の質の向上

(ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して保育を展開していく。園の資源を有効活用し保育環境の見直しを行う。

(豊かな戸外環境を活かした保育・モンテッソーリの教具等を活用した室内遊びの充実等)

(イ) 保育支援システム（コドモン）の各種機能を活用し、保育ドキュメンテーション等を通して子どもの育ち、保育の可視化を行い、保護者へ発信する。

- (ウ) 保育職ラダーや自己評価を通して、自身を客観的に評価できるようにする。またキャリアステージに応じた研修に参加する。
2. 聖隷こども発達支援センター和合との連携を図るとともに、地域との交流の一步として和合愛光園との交流の機会を再構築していく。
- (ア) 職員間の日常的な交流や連携体制作りを構築する。
- (イ) 発達に課題のある子どもや医療ケアの必要な子ども等のニーズに対し、並行通園を含め両施設で支えられるよう職員間の連携を密に行なう。
- (ウ) こども園、児童発達支援施設、訪問看護ステーションの職員が共同で学び合う研修の機会を活用し、それぞれの専門性向上を図る。
- (エ) 和合愛光園との交流の機会を再構築し地域との交流の機会を広げ、地域への発信を行う。
3. 安全・危機管理に対する取り組み
- (ア) 職員一人ひとりが安全・危機管理に対する意識を高められるよう、ディスカッションの機会の活用や事故報告書の検証を通し、事故予防とリスク発生時の対応の周知を図る。
- (イ) 危機管理委員会を中心に災害・不審者対策の見直しを行い防災力の強化を図る。
- (ウ) 見守りカメラ導入のための情報収集等、準備に取り掛かる。
4. 子育て支援と地域における公益的な取り組み
- (ア) 在園家庭、及び地域の子育て家庭への育児に関する情報発信を強化する。
- (イ) 中高生の職場体験やボランティアの受け入れを継続し、次世代育成に貢献する。
5. 保育支援システム（コドモン）による業務省力・働きやすい職場環境づくり
- (ア) コドモンを有効活用し、業務省力につなげる。
- (イ) 園内の主任・副主任会議やクラス会議等を継続し、職場内の課題解決に向けて取り組み、現場の声が活かされる風土づくり、働きやすい職場の環境づくりを目指す。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	18名	36名	36名	40名	40名	40名	210名
利用定員（1号）	-	-	-	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	18名	36名	36名	42名	42名	42名	216名
一日平均入所者数	13.0名	35.8名	36.0名	37.0名	40.0名	40.0名	201.8名
年間入所延人数	157名	430名	432名	444名	480名	480名	2,430名
入所率	72.6%	99.5%	100%	88.0%	95.2%	95.2%	93.7%
開所日数（延べ）	保育日数 292日・教育週数 44週						
サービス活動収益	304,415千円						
常勤換算職員数	42.0名						

【提供事業】

- | | | |
|--------|-------------------|-----------|
| 延長保育事業 | 一時預かり事業（一般型・幼稚園型） | 外国人児童保育事業 |
| 親子ひろば | 病児保育事業（病後児型） | 乳児等通園支援事業 |

聖隷浜松病院ひばり保育園

キリスト教保育を基盤とし、構成論の根拠に基づく保育実践をこれまで6年積み重ねてきた上で、2025年度は今までにない数の職員の入れ替えりをしてスタートした。子どもが安心して、また主体的な生活と遊びを支えるための私たちの保育・教育を2026年度も継承し、それを言語化・可視化できるための取り組みを行っていく。

子ども・子育て支援法が2026年4月に改正され、子どもを取り巻く環境が様々な視点から検討される中、国の動向を把握することと併せて、私たちの事業所内保育所としての存在意義を明確にしつつ、子どもの育ちの支援や保護者支援のために役割を果たしていくことが求められると考える。これまで行ってきた、職員同士が学び合うことのできる関係性を一層構築し、職員が安心して、やりがいをもって働くことのできる環境を整えたい。

また、地域との関わりが希薄化しつつある現状を踏まえ、在宅・福祉静岡ブロック内の各施設と連携を図り、地域課題に取り組むことで、児童福祉施設としての役割も見出していく。

【施設理念】

キリスト教精神を基本理念として関係法令を遵守し、新保育所保育指針やキリスト教保育指針にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指す。

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業計画】

1. 質の高い保育の実践

- (ア) 0、1歳児クラスでは、個々の子どもの情緒の安定を図るため、また子ども自身が生活に見通しを持ち主体的に生活を進められるための、ゆるやかな育児担当制保育を行う。2歳以上児クラスではコーナー遊び中心の保育、サークルタイム、子ども会議を実践し、一人ひとりが主体的に遊び、考え、行動していく力を育む保育を継続していく。
- (イ) 子どもの興味関心を捉え、全体的な計画をもとに発達連続性をもった保育を展開する。
- (ウ) 保育支援システム（コドモン）の機能を活用し、保育ドキュメンテーションによる子どもの育ち、保育の可視化を継続し、保護者の保育理解や参画へとつなげる。
- (エ) 施設内の各種マニュアルを、職員一人ひとりが遵守し、より遂行しやすいものとなるよう、運用方法を見直し、整備していく。

2. 専門性の向上を図る。

- (ア) 研修計画に沿ってWEB研修を含めた園外研修への参加を促進し、学びの機会を増やす。

- (イ) 保育職ラダーや目標参画システムを活用し、個々の課題を明確にして目標達成に向けて取り組むことを通しスキルアップを図る。
- (ウ) 継続的な園内研修を通して、構成論の根拠に基づく保育や子どもの育ちを支える保育者の在り方を学ぶ中で、これらの保育実践を言語化する力を育む。

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 保育支援システム（コドモン）を継続して取り入れ、サービスの向上と業務効率化の両面から、更なる活用方法についても追求する。
- (イ) 浜松地区の主任・副主任会を継続し、職場の課題改善に取り組む。園全体で、互いの業務の可視化を通して、業務改善と質の高い保育実践を並行して進め、職員一人ひとりの働きがいにもつなげる。
- (ウ) コミュニケーションの活性化、定期的な面談、業務の見直し等、心身両面の支援をリーダー層がチームとなって行い、離職防止に取り組む。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 法人内のネットワークを活かし、多職種が連携して地域課題に取り組むことで、児童福祉施設としての役割を地域の中で見出す。
- (イ) ボランティアや学生の実習を受け入れ、次世代の育成に貢献する他、学生の社会参加の場としての可能性も広げていく。
- (ウ) 自治会はもとより近隣小中学校や公共施設等、地域との連携を深めて相互理解、自助共助につなげる。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（従業員枠）	30名	30名	30名	30名	30名	30名	180名
利用定員（地域枠）	6名	7名	7名	-	-	-	20名
利用定員合計	36名	37名	37名	30名	30名	30名	200名
一日平均入所者数	14.1名	34.1名	28.8名	26名	18名	20名	141名
年間入所延人数	169名	409名	345名	312名	216名	240名	1691名
入所率	39.2%	92.2%	77.8%	86.7%	60.0%	66.7%	70.5%
開所日数（延べ）	292日						
サービス活動収益	253,668千円						
常勤換算職員数	35.5名						

【提供事業】

- 延長保育事業
- 乳児保育事業
- 学童保育事業

聖隷のあ保育園

開設7年目を迎えた2025年4月は、定員を上回る順調なスタートとなった。しかし近年の少子化の影響と育児休業取得家庭増による0歳からの園児の入園希望数の減少状況は否めず、歳児毎の定員数にばらつきがあった。年度前半は「余裕活用型一時預かり事業」を有効活用し、この事業と共に地域子育て家庭の支援（問い合わせや相談）を通して新入園に繋げることができた。更に、自園の強みである特定妊婦や要支援児童の受け入れと入園希望者のニーズに合わせた募集により、2025年11月以降は歳児毎の定員数の平均的な確保ができた。

2026年度も特定妊婦や要支援児童の受け入れと入園希望者のニーズに合わせた募集を行い、安定した経営に繋げていく。特定の家庭だけでなく保護者支援に重点を置き、子育て家庭の健やかな成長の柱となっていきたい。引き続き「余裕活用型一時預かり事業」を活用し地域の子育て支援に貢献していく。また、法人内の園と情報を共有し、安心安全な保育・教育が提供できるようにする。特に連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」とは、3歳以降の受入れ状況について密な連携を図る。保育の質の向上を目指し、子ども理解を深め、子どもの成長発達に合わせた援助の在り方を探り、小規模園の利点を活かした保育を提供していく。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるよう支援する。

【経営方針】

1. キリスト教保育を基盤に、心身共に豊かな成長発達ができるよう一人ひとりに合わせた丁寧な保育を行う。
2. 定員19名という小規模園の特性を活かし、乳児期の心身の発達に必要な十分に養護の行き届いた環境を整え、安心安全な保育を行う。
3. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行う。

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上を目指し、質の高い保育と保護者支援を行う。
 - (ア) キリスト教保育を基盤に小規模園の利点を活かし、子どもの最善の利益を考え、「一人ひとりを大切にする教育・保育」を実践する。
 - (イ) 園内勉強会で自園の研究を深め、職員のスキルアップを目指し保育に活かしていく。
 - (ウ) 養護と教育が一体となった保育を行うために、子ども理解に努め、個々の成長発達を援助していく。保育環境と保育内容を子どもの成長発達に併せて、常に見直していく。
 - (エ) 特定妊婦や要支援児童だけでなく、どの家庭も保護者支援が必要であることを理解し支援に努める。
2. 働きやすい職場環境づくり、業務省力化を目指す。

- (ア) 保育支援システム（コドモン）の導入により業務省力化を目指す。（基本作業の習得）
- (イ) レイバー表・ホワイトボードを用いて職員の動きを可視化して職員間の報告、連絡、相談を徹底し、コミュニケーションを図ることでお互いの業務を意識し、業務省力化を目指す。
- (ウ) 職員が働きやすい環境（勤務体制、休憩、仕事量等）を整え、心身の健康維持に努める。
- (エ) 連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」との共同保育等で大規模園での保育を経験し、保育士としてどの園でも活躍できるよう支援する。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 市との連携の中で地域の子育て家庭の相談に応じながら、特定妊婦や要支援児童の受け入れに努める。
- (イ) 「余裕活用型一時預かり事業」を活用し、子育て支援に努める。
- (ウ) 隔月の老人会（常和会）、近隣学校、公共施設との交流を通して地域とのつながりを深める。
- (エ) 洪水等の防災区域であることを発信し、地域との連携を深め、万一の時に備える。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
利用定員（3号）	6名	6名	7名	19名
一日平均入所者数	4.2名	7.8名	9.3名	21.3名
年間入所延人数	50名	93名	111名	254名
入所率	70.0%	130.0%	132.9%	111.6%
開所日数（延べ）	292日			
サービス活動収益	74,797千円			
職員数（常勤換算）	8.8名			

【提供事業】

- ・延長保育事業
- ・余裕活用型一時預かり事業
- ・特定妊婦・要保護児童受入れ

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園

いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)

いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)

ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)

聖隷ケアプランセンターいなさ

いなさ愛光園在宅介護支援センター

ひとり暮らし高齢者等配食サービス

2025年度は、「地域」を軸としたサービス強化に注力し、現課題のみならず未来を見据えたサービスを実践した。地域の超高齢化はしばらく続くものの、将来は人口が減少する地域である。昨年度から進めてきたオンライン診療は一般高齢者へも範囲を拡大し、中山間地域において必要性の高い取組みができた。今後は持続可能な仕組みへと深化させていく。事業運営については、特に入所稼働率が100%を維持し堅調な運営ができた。一方で、開設28年が経過し老朽化が深刻な為、修繕や設備更新に迫られた一年であった。

2026年度は、最高のサービスを提供する為の挑戦であり、未来を見据えた変遷を遂げる年とする。地域において私達が最後の砦である。全職員が自覚と深い思いやりをもって仕事をする為に、利用者や地域の変化に気づき、事業種別にとらわれない支援が提案できる職場風土を醸成する。経営面においては、物価高により給食委託費の高騰が予測され、それらに対応すべく給食業務を直営化し、費用の抑止を図る。そして、末永く事業が継続できるように、大規模な修繕を実施する。また、新たな利用者獲得に向けて、医療依存度が高い方などが利用できる体制を構築したい。更には人材確保の安定化に向けて、特定技能1号外国人を5年間で職員全体の10%超の雇用を目指す。私達は今一度足元を見直し、課題に真摯に向き合うことで信頼される事業運営を目指す。

【施設理念】

利用者の尊厳保持を援助の基本に捉え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

【経営方針】

1. 充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体が濃密な連携を図る
2. 地域において信頼されるサービスを提供するため、職員資質の向上に努める
3. 未来を見据えた地域課題を検証し、地域ニーズに対応できる施設になる

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 中山間地域で働く者として、多様なニーズに応えられる職員を育成する
(ア)全職員が地域での生活支援を体験し、福祉に携わる者として原点に立ち返る取組みを行う
(イ)施設内階層別研修をブラッシュアップし、各々のレベルに応じたスキルアップを行う
(ウ)職員が見出した課題に対し、一時的なチームを発足し課題解決手法を学ぶ機会をつくる

- (エ) 若手職員が中心となり、接遇改善に向けた取組みを企画・実施する
- (オ) 中堅職員が中心となり、介護技術向上に向けた取組みを企画・実施する
- (カ) リーダー職員が中心となり、重度のBPSDに対応できる職員育成を企画・実施する
- (キ) 相談系職員が中心となり、身寄りのない利用者支援について検討する
- (ク) 役職者が中心となり、医療依存度の高い利用者受入れについて検討する
- (ケ) 特定技能1号外国人の技術や心身のサポート及び介護福祉士取得を目指す者の支援を行う

2. 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した支援をする

- (ア) 利用者のなりたい姿を実現するために、意向や尊厳を尊重するケアを追求する
- (イ) 利用者の変化に気づき、迅速な対応を意識付ける
- (ウ) 施設の特性を生かし、利用者が季節を感じ喜んでもらえるイベントを開催する
- (エ) 在宅から入居まで一貫したサービスを提供する為、在宅・施設部門の連携強化に努める
- (オ) 在宅から入所に至るまでの相談業務を一本化し、利用者と伴走する仕組みを構築する

3. 中山間地域における多機能型施設として、引佐地区全域で切れ目のない支援体制を構築する

- (ア) 聖隷ケアセンターいなさ・三ケ日、さくまの里との連携を進める
- (イ) オンライン診療を定着化し、持続可能な運営方法を模索する
- (ウ) 地域のサロンや地域ケア会議等に参加し、地域課題を発掘する
- (エ) 遊休モビリティに関する、地域調査及び自治会への働きかけを行う
- (オ) 通所介護の短時間利用（聖隷リハビリプラザいなさと連動）を開始する

4. 安定した施設運営をする

- (ア) 給食業務を委託から直営に切り替え、評価と課題を見出す
- (イ) 施設の大規模修繕を実施する
- (ウ) 訪問介護の営業範囲について、三ケ日地区も含めた検討を行う
- (エ) オンライン診療に関する、補助金や助成金について模索する
- (オ) 法令を遵守し、各種加算等の請求ミスが無いように定期確認する

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 家族介護者教室の企画運営やサロン活動等の運営を支援する
- (イ) 自治会の防災訓練に参加し、連携を図る
- (ウ) 福祉避難所として必要時に開設想定できるよう準備する
- (エ) 引佐地区社会福祉協議会の活動に参画する

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所		通常規模型通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防
利用者定員	30名	40名	20名	2名	35名	
利用者延べ人数	10,950名	14,600名	5,912名	292名	8,785名	816名
一日平均利用者数	30.0名	40.0名	16.2名	0.8名	28.3名	2.6名
稼働率	100.0%	100.0%	81.0%	40.0%	88.5%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日	310日	
単価 (一人一日当り)	13,387円	16,014円	14,802円	13,065円	10,543円	
サービス活動収益	146,619千円	233,841千円	87,511千円	3,815千円	101,244千円	
常勤換算職員数	50.9名		14.6名	0.4名	15.7名	
	認知症対応型 共同生活介護	訪問介護		居宅介護 (障害)	認知症対応型通所介護	
		介護	予防		介護	予防
利用者定員	9名				12名	
利用者延べ人数	3,249名	2349名	921名	549名	3,162名	0名
一日平均利用者数	8.9名	6.5名	2.6名	1.5名	10.2名	0名
稼働率	98.9%				85.0%	
稼働日数(延べ)	365日		361日	361日	310日	
単価 (一人一日当り)	14,864円		4,898円	3,880円	13,715円	
サービス活動収益	48,293千円		16,175千円	2,130千円	43,368千円	
常勤換算職員数	8.2名			5.2名	7.7名	
	居宅介護支援		配食 サービス	在宅介護 支援センター	合計	
	介護	予防				
利用者延べ人数	2,070名	550名	647名			
一日平均利用者数			2.2名			
稼働率						
稼働日数(延べ)		365日	294日			
単価 (一人一日当り)	18,446円	5,287円	802円			
サービス活動収益		41,748千円	519千円		725,263千円	
常勤換算職員数		5.0名			107.7名	

聖隷ケアセンターいなさ

聖隷リハビリプラザいなさ

地域包括支援センター細江

浜名区（旧引佐三町）地域は、高齢者が増加する一方で生産人口の減少、病院の閉鎖や診療所の医師の高齢化による地域医療の先細りが懸念されている。また社会資源も乏しく、高齢者のみならず、その家族に支援を必要とする方がいるといった多問題世帯も多い。これらは数年来の課題であり、今後高齢者が住み慣れた地域で生活することが、ますます困難になることが予想される。

2026年度は、いなさ愛光園、聖隷ケアセンター三ケ日と一体となり、地域住民や地域の関係機関とも繋がることで、この住み慣れた地域で高齢者やその家族が望む暮らしを継続することができるよう支援する。

【拠点理念】

隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる

【経営方針】

旧引佐三町において、住民が住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現を目指して、地域で支援を必要とする要援護者及びその家族等の人権・自立心・価値観等を尊重し、柔軟で包括的な支援を実施する

【事業・運営計画】

1. 住み慣れた地域での暮らしを継続するための支援体制づくり

(ア) 聖隷リハビリプラザいなさ

- ①リハビリテーション・看護・介護の専門性を活かし、心身機能の評価、個別性を重視したプログラム作りを行う
- ②運動・口腔・栄養に関する支援について取り組みを始める
- ③「居場所」としての役割も重視し、楽しみ活動・役割活動、認知症ケアに取り組む
- ④短時間デイの特性を活かし介護サービスの「入り口」としてその後のサービスに繋げる

(イ) 地域包括支援センター細江

- ①障がい福祉サービス事業所との連携を深め、他問題世帯への対応を強化する
- ②開業医、商工会と協働し、サロン訪問などへの積極的なアウトリーチを行う
- ③地域包括支援センターの活動を幅広い年代の方に知っていただくため、学校や回覧やホームページを活用し、広報活動を行う
- ④地域の小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関を中心に認知症サポーター養成講座及び認知症ひとり歩き模擬訓練を実施する
- ⑤引佐郡医師会と協働し、地域向け市民フォーラムを開催する

2. 拠点機能の強化

(ア) 法人内他事業所との連携の強化

- ①いなさ愛光園、聖隷ケアセンター三ヶ日と情報共有し、一体となって地域住民を支援する
- ②スタッフ教育やマンパワーについて協働する
- ③聖隷三方原病院、地域障がい者総合リハビリテーションセンターとの連携を継続する

3. 運営の安定化

- (ア) 聖隷リハビリプラザいなさの待機利用者への対応として、サテライト三ヶ日の在り方を検討する
- (イ) 経験年数の浅いスタッフに対し、個々に応じたスキルアップが図れるようチームとして支援する体制づくりを行う
- (ウ) 職員が働きやすい職場環境づくりに取り組む

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 自主運営のノルディックウォーク愛好会への継続的な活動支援を行う
- (イ) 学習支援教室継続へ会場提供を通じた支援を行う
- (ウ) さんさん倶楽部（ロコトレサロン）の運営、専門職の派遣など地域のサロンへの協力を
行う

【数値指標】

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
1日平均 利用件数	月間 利用件数	年間 利用件数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
30.8名	770名	9,037名	112名	1,353名	7,429円	26,094円	102,633千円	18.8名

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

市受託収入	予防支援等件数	内再委託件数	予防マネジメント 単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
54,439 (千円)	介護予 3,740件	2,568件	4,512円	85,481 (千円)	11.5人
	マネA 2,432件	1,620件	4,512円		
	マネB 888件	—	3,277円		

聖隷ケアセンター三ヶ日

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

聖隷ケアプランセンター三ヶ日

三ヶ日地区においては高齢化が進み、独居・認知症・老々世帯が増加しているため、家族内に支援を必要としている世帯も多い。また、開業医の高齢化による地域医療の先細りなどの課題も多く、医療・介護資源も乏しい現状にある。

2026年度は、それらの地域課題に対応するために、新たなサービスの導入を検討・検証していく。「住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らしたい」という思いに寄り添い、ケアセンター内の連携強化と共に、エリア内の他事業所とも協働していく。

【施設理念】

利用者と家族に寄り添い、住み慣れた地域で「自分らしく安心して暮らせること」を支え続ける

【経営方針】

1. 地域連携を強化し、住み慣れた地域で暮らし続ける事を支援する
2. 質の高いサービスを提供する
3. 職員が疲弊しない職場環境を整備する
4. 次世代を見据えた人材を育成する

【事業・運営計画】

1. 地域で長く暮らし続けるために必要な支援体制作り

(聖隷訪問看護ステーション三ヶ日)

- (ア) 自助（防災・疾病予防など）向上を目指し、広報誌作成や出前講座の開催を行う
- (イ) 早い段階から切れ目のない支援ができるよう、エリア内他事業所との連携を強化する
- (ウ) 地域ニーズに合わせた自費サービスを導入する
- (エ) 障害分野へのアプローチに取り組む

(聖隷ケアプランセンター三ヶ日)

- (ア) ケアセンター内で定期的な共有会を開催し、利用者を支援する体制を強化する
- (イ) 地域の居宅介護支援事業所と定期的な事例検討・意見交換を行い、連携強化を図る
- (ウ) ニーズに見合った介護、医療サービスの早期導入を目指す

2. 質の高いサービスの提供

(ア) カンファレンス・職場会の定期開催と充実

- ①事例検討会（良いケースの振り返り・倫理カンファレンス）や定期的な勉強会を企画

する

(イ) ケアセンター全体で ACP を意識し、早期からの意思決定支援を推進する

(ウ) スケジュール管理を徹底し、係活動の活発化を推進する

3. 職員が疲弊しない職場環境の整備

(ア) 気持ちのゆとりが持てるスケジュール管理を行う

(イ) 職員間でワークバランスの均衡が図れるよう、定期的に職場会を開催する

(ウ) 通勤時間が長い職員が多いため、直帰を推奨する

(エ) 職員の研修参加や、やりたい活動を支援する

4. 次世代を担う管理者の育成

(ア) スタッフ教育・研修の充実を図る

(イ) 定期的な振り返り面接を実施する

5. 地域における公益的な取組

(ア) 聖隷ケアセンターいなさ、いなさ愛光園と連携し、地域に向けた定期的なイベントを開催する

(イ) 地域活動（サロン活動・防災訓練等）へ積極的に参加する

【数値指標】

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
110 人	548 件	6,587 件	9,344 円	65,082 千円	7.2 名

聖隷ケアプランセンター三ヶ日

年間請求件数			平均単価(円)			サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防 (直営)	予防 (委託)	介護	予防 (直営)	予防 (委託)		
2,189 件	410 件	108 件	16,631 円	4,939 円	4,092 円	39,525 千円	4.8 名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園 浜北愛光園デイサービスセンター
聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜
訪問看護ステーション貴布祢 聖隷チャレンジ工房浜北

2026年度は、引き続き複合施設の強みを生かし、利用者の思いを実現できる支援に努める。また、職員個々のキャリア形成を意識した人材育成の取り組みを推し進めるとともに更なるマネジメント強化を図る。各事業においては、2027年度の介護報酬改定に向けて必要となる準備を進めつつ人口減少等による影響や地域の実情を踏まえ、持続可能な適正規模を模索する。施設内外の活動や関係機関との連携にも積極的に取り組み、地域で必要とされる福祉ニーズに応えられる事業運営を目指す。

【施設理念】

わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切に施設づくりを追求します

【経営方針】

1. 誰一人もれることが無いよう複合施設としての利点を活かした、サービスを追求・実践する
2. 地域や利用される方のニーズや思いを大切にできる職員を育成する
3. 個人やチームの創造力や専門性を高め、質の高いサービスを継承、発展させる
4. クリーンで健全な運営を行い、安定と発展ができる経営を行う
5. 地域貢献と地域の公益的な取り組みを行う

【事業計画】

1. 複合施設の強みを生かした、利用される方のニーズや思いが実現できる支援を行う
 - (ア) 事業種別を超えた連携により、切れ目のない支援体制を推進する
 - (イ) アセスメント力の向上を図り、専門的見地で根拠を持ったケアを提供する
 - (ウ) 利用者の意思決定を支援し、その思いが実現できるよう取り組む
 - (エ) 利用者の幅広いニーズに応えられるよう、各事業の対応力の向上を図る
2. 高い専門性を備えた人材育成と各専門職のキャリアプラン支援を行う
 - (ア) 施設内人材育成方針に基づき、意図的・計画的に職員育成に取り組む
 - (イ) 現任マネジャーを中心とした研修を体系化し、マネジメント強化を図る
 - (ウ) 交換研修（職場体験）・人事交流を積極的に行い、職員個々がキャリアデザインを描ける環境を整備する
 - (エ) 職員個々のキャリアデザインから、必要な資格取得や計画的な研修参加を促し、将来を見据えたスキル取得を支援する

3. 健全運営の推進

- (ア) 法令等を遵守したサービス提供が維持できるよう内部統制の強化を図る
- (イ) 職員が健やかに働けるよう職場環境を整備し、働きやすい職場風土を醸成する
- (ウ) 経営状況や地域の実情を踏まえ、各事業のベストサイジングを模索する
- (エ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新、利用料の見直しを計画的に実施する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 福祉講座や清掃活動、施設催事等を通し、地域の中の施設として広報と地域貢献活動に取り組む
- (イ) 施設内の防災対策を整備するとともに福祉避難所として地域の防災訓練等に参加し、災害発生時に協力できる関係づくりを行う

【数値指標】

■高齢者入所・短期入所・通所事業

	浜北愛光園				デイサービス	
	特養入所		短期入所		通所介護	
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防
利用者定員	50名	100名	20名	20名	35名	
利用延数	18,250名	36,500名	5,990名	6,005名	7,493名	618名
一日平均利用者数	50名	100名	16.4名	16.5名	24.2名	2名
稼働率	100%	100%	82.0%	91.4%	74.8%	
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	310日	
平均介護度	4.0	3.7	3.1	2.9	2.0	
単価 (一人一日)	13,507円	15,476円	12,053円	14,786円	10,533円	
サービス活動収益	249,513千円	564,866千円	72,193千円	96,065千円	85,434千円	
常勤換算職員数	37.3名	63.0名	10.0名	9.7名	12.8名	

■居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜北）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
介護	予防	介護	予防		
2,088件	360件	16,700円	4,700円	38,261千円	5.7名

■地域包括支援事業（地域包括支援センター北浜）

浜松市受託収入	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
37,411千円	1,980件	540件	4,471円	57,335千円	6.9名

■訪問看護事業（訪問看護ステーション貴布祢）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
162名	837件	10,048件	10,076円	101,944千円	13.0名

■聖隷チャレンジ工房浜北

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
就労移行	6名	848名	54.4%	260日	12,748円	15,168千円	14.1名
就労継続	24名	5,713名	76.5%	311日	10,322円	76,808千円	
就労定着		127名			26,432円	3,357千円	
生活介護	10名	2,321名	96.3%	241日	7,677円	17,832千円	

聖隷厚生園

障害者支援施設聖隷厚生園信生寮	救護施設聖隷厚生園讃栄寮
聖隷厚生園まじわりの家	生活訓練事業所ナルド
訪問看護ステーション細江	地域活動支援センターナルド
聖隷ケアプランセンター細江	障害者相談支援事業所ナルド
聖隷ヘルパーセンター浜松北	福祉共同住宅ファーストステップ
聖隷厚生園ナルド工房	

2026年度は、聖隷厚生園が展開する各事業のさらなる連携強化を図り、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療・介護・福祉の一体となった事業展開を推進していく。「利用者自らの意思決定」を尊重し、心身の状態や生活環境に応じた個別支援を展開することで、より質の高いサービス提供を目指していく。特にライフステージに応じた多様なニーズに的確に応えることが出来るよう、医療、介護、相談、通所、就労、入所といった各事業所が提供するサービスを切れ目なく効果的に提供できる体制の構築を行う。在宅部門においては、地域ニーズが多様化・複雑化する中で、他法人・他機関との連携と協働を積極的に進め、地域課題に柔軟に対応できる事業運営を目指す。

【施設理念】

- 一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
- 一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者の意向に添い、安心して尊厳のある生活ができる支援を行う
2. 地域課題の解決に向けた取り組みを行う
3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の整備をする
4. 介護・福祉人材の確保と育成に取り組む
5. 災害・感染症対策・地域における公益的な取り組みを行う

【事業・運営計画】

1. 個別支援を基本とした生活支援の実施
 - (ア)意思決定支援の取り組みを進め、希望や要望を反映・実現できるような個別支援計画の作成と実践を行う。
 - (イ)身体機能の低下や生活意欲の減退を防ぎ、利用者が主体的にリハビリテーションに取り組めるよう、専門職と協力し、支援方法を個別支援計画に盛り込んでいく。
 - (ウ)苦情受付や処遇困難ケースについて、困難となっている原因を職員同士で分かち合い、聖隷厚生園が一体となり、利用者との関わり方法を模索する。
 - (エ)虐待防止の手引きに基づいた、利用者の尊厳を守る取り組みや、理念の継承、倫理綱領の再確認等を行う。

- (オ)口腔内環境を整え、オーラルフレイル予防・窒息予防に取り組むことで、「口から食べる食事」、「美味しい食事」の提供を継続していく。
- (カ)給食委託業者と協働し、給食のオペレーションの見直しを行いつつ、物価高騰に対応できる、安定、効率的な食事提供のあり方を導入する。
- (キ)各事業が指定基準に沿った運営が出来るよう、聖隷厚生園で一体的なチェック体制を構築していく。

2. 在宅事業所の地域・医療連携の取り組み

- (ア)訪問看護ステーション細江では、基幹病院である聖隷三方原病院・浜松医科大学医学部附属病院と連携を強化する。また、地域包括支援センター細江と連携を図り、高齢者の独居世帯の増加が進む引佐地区への積極的な介入を行い「地域で暮らす」を支えていく。
- (イ)聖隷ヘルパーセンター浜松北では、細江、引佐、三方原、都田4地区を中心に地域ニーズに応じていく。特にヘルパーセンターいなさと訪問エリアの分担を整理し、効率化を図る。
- (ウ)聖隷ケアプランセンター細江では、職業倫理、法令遵守の意識を高め、担当ケースについての関りと理解を深めていく。
- (エ)聖隷厚生園まじわりの家では、変化する利用者の状態（医療情報等）の把握に努め、他部署・他事業所との連携を強化し、タイムリーな情報の伝達と共有化の仕組みを整備する。
- (オ)障害者相談支援事業所ナルドでは、地域の利用者がサービス利用しながら生活が充実できるよう機能強化事業所として、北エリアを中心に関係機関と連携強化を図り、地域生活を支援する。
- (カ)地域活動支援センターナルドでは、パンフレット配布などの情報提供や浜松市北エリア連絡会「つながろう部会」に参画し、関係機関・事業所と連携し、地域支援強化を図る。
- (キ)生活訓練事業所ナルドでは、将来的に就労を目的とし、就労支援事業との連携強化を図る。就労に結び付くためのプログラムの提供と、地域ニーズに合わせた聖隷厚生園内の事業の組織体制の整備を行う。
- (ク)福祉共同住宅ファーストステップでは、移行支援住居の開設を協議する。若年層の日常生活訓練の機会を提供し、将来的な一人暮らしに向けた支援の強化を図る。
- (ケ)聖隷厚生園ナルド工房では、利用者の仕事へのやりがいを引き出し、地域の企業や事業所と協働してステップアップできる取り組みを行う。

3. 安全・安心・快適で働きやすい施設環境の整備

- (ア)最新の介護・福祉機器を導入し、「介護・福祉支援の自動化」を推進させる。
- (イ)「ノーリフティングケア」を継続し、職員が長く働き続けることができる職場づくりに努める。
- (ウ)ケア記録システム等におけるICTの活用を進め、業務省力化を図る。
- (エ)カスタマーハラスメント防止において、指針に基づいた相談受付や研修を行う。
- (オ)レクリエーション機会を通じて、職員同士の交流を活性化させる。

4. 介護・福祉人材の確保と育成の取り組み

- (ア)各専門職ラダー、コンピテンシー指標を活用し、職員の人材育成を図る。
- (イ)聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、留学生・実習生・インターンシップの受け入れを積極的に行い、養成校とともに将来の介護・福祉人材の育成に貢献する。
- (ウ)SNS等を活用した人材確保・育成対策を講じる。

5. 災害・感染症対策、及び地域貢献活動

- (ア)大規模災害時や感染拡大時にも事業が継続できるように、BCP研修及び訓練を行う。また要請に応じて応援職員の派遣や、福祉避難所としての機能を整備する。
- (イ)地域団体と協働し地域清掃活動など利用者が活躍できる場を設け、利用者・施設・地域団体が一緒に地域貢献ができるよう取り組む。

【数値指標】

■入所事業

	聖隷厚生園信生寮		聖隷厚生園讃栄寮		福祉共同住宅 ファーストステップ
	障害者 支援施設	短期入所	救護施設	短期入所	共同生活援助
利用者定員	60名	10名	60名	2名	13名
利用者延べ人数	21,718名	3,749名	23,360名	696名	4,465名
一日平均利用者数	59.5名	10.3名	64.0名	1.9名	12.2名
稼働率	99.2%	102.7%	106.7%	95.3%	94.1%
稼働日数（延べ）	365日	365日	365日	365日	365日
単価（一人一日当り）	18,726円	10,810円	12,657円	7,589円	4,034円
サービス活動収益	406,684千円	40,528千円	296,672千円	5,282千円	18,010千円
常勤換算職員数	56.4名		31.1名		2.8名

■通所事業

	聖隷厚生園 まじわりの家	生活訓練事業所ナルド		聖隷厚生園ナルド工房		
	生活介護	生活訓練	生活介護	就労移行	就労継続B	就労定着
利用者定員	20名	10名	10名	10名	30名	—
利用者延べ人数	4,992名	1,885名	2,920名	1,967名	6,172名	108名
一日平均利用者数	19.5名	7.7名	11.9名	7.5名	23.4名	—
稼働率	97.5%	76.6%	118.7%	74.5%	77.9%	—
稼働日数（延べ）	256日	246日	246日	264日	264日	—
単価（一人一日当り）	16,403円	10,440円	8,762円	5,007円	9,990円	40,778円
サービス活動収益	81,884 千円	19,680 千円	25,584 千円	11,989 千円	61,658 千円	4,404 千円
常勤換算職員数	12.0名	5.8名		10.7名		

■訪問事業

	訪問看護ステーション細江			聖隷ケアプランセンター細江	
	医療	介護	予防	介護	予防
月平均訪問件数	386.5件	494.2件	159.5件	192.1件	48.0件
年間訪問件数	4,638件	5,930件	1,914件	2,305件	576件
単価（一件当り）	12,508円	9,263円	9,263円	16,631円	4,092円
サービス活動収益	132,993千円			41,621千円	
常勤換算職員数	18.8名			5.5名	

	聖隷ヘルパーセンター浜松北			障害者相談支援事業所ナルド	
	介護	予防	障害	特定相談	障害児
月平均訪問件数	37.8件	23.0件	37.8件	250.9件	43.5件
年間訪問件数	453件	276件	453件	3,011件	522件
単価（一時間当り）	4,536円	—	4,250円	—	—
単価（月一人当り）	—	23,182円	—	—	—
単価（一件当り）	—	—	—	20,143円	21,184円
サービス活動収益	39,617千円			60,651千円	11,058千円
常勤換算職員数	4.6名			9.5名	

浜松学園

障害者支援施設 聖隷チャレンジ工房浜松学園
就労継続支援 A 型事業所 聖隷ワース工房浜松学園
生活介護事業所 聖隷ステップサポート

2025年度は「地域ニーズへの対応」「利用者の自立支援の向上」の2つを柱に、それぞれの事業が地域で求められていることを捉え、ご利用者の地域とのつながりを持つ社会参加支援やデジタル技術を活用した支援プログラムの導入を図り、企業就職15名の輩出や就労定着率95%以上など、サービス向上を着実にした1年であった。2026年度は、浜松学園が担っている「支援する目的」を今一度、法人理念・施設理念と結びつけながら利用者も職員も「浜松学園で働くことに誇りが感じられる」施設運営を目指す。また地域課題や制度改正に合わせて未来を見据えたニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに適合するサービスが提供できるよう、事業の見直しを図り、核となる専門職の獲得・人材育成に力をいれていく。

【施設理念】

『働く』・『暮らす』 — その人らしい未来を描けるようともに歩む —

【経営方針】

1. 「働く」平均工賃30,000円/月、6か月就労定着者15名を目指す
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる
4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み
5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化
6. 地域における公益的な取り組みを行う

【事業・運営計画】

1. 就労支援の質の向上
 - (ア)全作業の業務マニュアルを整備し、作業活動の効率化と標準化を図る
 - (イ)新たな就職につながるための作業訓練を創出する（クラウドワークスの活用）
 - (ウ)就労定着支援では就労支援員だけでなく、ケース担当者も就職先へ出向き、多くの職員が就職後も利用者につながることで、離職防止につなげる支援を行う
 - (エ)デジタル技術を活用したアセスメントツール（シームレスボディ）を活用し、標準的に就労能力評価と職業マッチングができるようにする
 - (オ)就労選択支援の施行に伴い、今後の入園選考会の在り方を検討する
2. 生活支援の質の向上
 - (ア)特別支援学校等の教育支援計画の内容を引き継ぎ、ケース担当者が利用者の障がい特性に基づくアセスメントを行い、PDCAサイクルによる“チーム”で課題解決できる支援をする

- (イ) 地域生活で自立した生活を送るための生活講座（金銭管理・服薬管理）を実施する
- (ウ) 働くために必要な体力・健康管理ができる力を身に着けるための生活講座を実施し、また筋力トレーニングのための環境を作る。
- (エ) 利用者による自治会運営では、利用者自身が生活の仕方やルールをグループで考え、自ら決めて生活できることを支援し、自立を促進する
- (オ) 就職後に暮らすグループホームの開設に向けての事業計画を作成していく

3. ご利用者の社会生活能力の向上

- (ア) 就労している先輩の体験談や職場見学、職場実習の経験を基にグループワークを行い、利用者個々に“仕事する上で大切なことは何か？”を考える機会を提供する
- (イ) 通勤に必要なスキルの獲得（自転車訓練、自動車免許取得）支援を行う
- (ウ) DX を活用したコミュニケーションスキル向上のための学びプログラムを実施する

4. 地域課題の解決に向けた各事業の取り組み

（聖隷ワース工房浜松学園）

- (ア) filo では菓子製造において地元の食材を使ったコラボ商品の開発、filo でのイベント販売を地域の関係者と共同して行い、地域社会とのつながりを実践する
- (イ) 生産活動、支援力の向上、地域連携活動を強化し、スコア値の維持・向上を目指す
- (ウ) 一般就労に結び付く新たな職業訓練の創出としてオフィスハマガクの活用を図る
- (エ) 下半期に 1 名以上の就職 6 カ月定着者を輩出する

（聖隷ステップサポート）

- (ア) 五感を刺激する ICT 機器の導入を行い、重度の肢体不自由者が楽しめる活動を充実させる
- (イ) 家族会や当事者団体との意見交換を行い、ニーズや業務改善を行う
- (ウ) パラスポーツ活動やデジタルアートなどの活動を地域機関と共同して実施し、社会とのつながりを作っていく
- (エ) 医療的ケアの必要な人に対する支援の体制を構築するための専門職の獲得・人材育成をおこなう

（短期入所）

- (ア) 土日祝日の開所を行い、多くのニーズに応えることのできる体制を整える
- (イ) 中学・高校生に短期入所の定期利用を勧め、入園後の生活イメージを育む支援を行う
- (ウ) 事業の継続性を意識し、新たな価値を生み出す事業再編を行う

（全事業）

- (ア) 障がい者虐待防止に関する研修会を行い、定期的な自己チェックを行い職場内で共有する
- (イ) 浜松学園祭を行い、地域交流と新規利用につなげるための情報公開をする取り組みを行う
- (ウ) インスタグラム等の SNS を活用し、保護者・関係者に情報発信を行う
- (エ) 地域連携協議会にて事業所の公平な評価と地域連携の在り方を模索する
- (オ) 給食では食材料費や人件費の高騰を鑑みて、今後の食事提供の在り方について検討する
- (カ) AI 議事録・ケアコネクト等の業務効率化につながるデジタル技術を活用する

5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化

- (ア) BCP（事業継続計画）の周知徹底を行い、非常災害時に備える
- (イ) 講師を招き、定期的に職員の理念・倫理観を養う研修を行う

- (ウ) 職員個々のキャリアデザインから、必要な資格取得や計画的な研修参加を促し、将来を見据えたスキル取得を支援する
- (エ) 新人・異動職員勉強会を開催し、個別支援計画の作成について理解できるようにする
- 6. 地域における公益的な取り組みを行う
 - (ア) 民間企業に対して、体験利用や宿泊体験などを通じて社員研修の機会を提供し、障がい者就労支援の啓発につとめる
 - (イ) 地域の環境美化に関するプロギング活動に参加、社会貢献活動を行う
 - (ウ) 地域のスポーツ活動・余暇活動を行う様々な団体に体育館・グラウンド等の活動の場を提供する

【数値指標】

	聖隷チャレンジ工房浜松学園					
	施設入所	短期入所	就労移行	就労継続 B	就労定着	就労選択支援
利用者定員	60名	10名	30名	30名	1名	10名
利用者延べ人数	12,565名	707名	7,755名	8,095名	406名	126名
一日平均利用者数	37.7名	2.1名	29.0名	30.4名	1名	0.5名
稼働率	62.8%	21.2%	97%	101.2%	1%	4.9%
稼働日数(延べ)	333日	333日	267日	267日	1日	261日
単価(一人一日当り)	3,364円	7,571円	18,286円	14,850円	1円	12,857円
サービス活動収益	42,273千円	5,353千円	141,811千円	120,215千円	17,924千円	1,620千円
常勤換算職員数	31.4名					
	聖隷ステップサポート	聖隷ワース工房 浜松学園				
	生活介護	就労継続 A				
利用者定員	20名	15名				
利用者延べ人数	5,174名	3,358名				
一日平均利用者数	20.2名	13.7名				
稼働率	100.7%	91.4%				
稼働日数(延べ)	257日	245日				
単価(一人一日当り)	13,427円	50,130円				
サービス活動収益	69,476千円	168,338千円				
常勤換算職員数	10.1名	6.3名				

軽費老人ホーム もくせいの里

「平均的な勤労者でも安心して老後を過ごせる老人ホームを」という県内労働者の夢を叶えるために、1978年、もくせいの里が開設された。2026年の事業計画では、軽費老人ホームA型として地域福祉活動の推進と利用者満足の上昇に努める一方で、築47年を経過して建物・設備の老朽化が著しい現状に鑑み、将来計画の検討を継続する。そのため、静岡ブロック内の関連事業所・関連プロジェクトと連携・協働し、できるだけ投資を抑えた方法での計画の具体化を目指す。

また、「もくせいの里でいつまでも安心して暮らしたい」という利用者の願いに応えるため、セラピストによる機能訓練・健康増進活動の継続・充実、職員による簡易認知機能検査及び必要に応じてサービスを活用するなど、フレイル予防対策を強化する。併せて、アドバンス・ケア・プランニングを通じて将来の意向を確認すると共に、現在抱えている課題を発見し、もくせいの里で生活できるレベルを維持しながら充実した毎日を暮らせるよう、個別課題の解決を図っていく。加えて、職員の業務削減と健康増進活動に継続して取り組み、ワークライフバランスの改善を目指す。これらの取り組みを通じて、利用者と職員が共に幸せになれる福祉拠点づくりを推進する。

【施設理念】

私たちは、入居者の自由と尊厳を重んじ、穏やかで明るい生活づくりを目指します

【経営方針】

1. 施設内・事業所間の連携を強化し、入居者が安心して生活できるように支援する
2. 入居者・利用者が食を通じて健康増進と楽しみを感じることでできる食事提供を行う
3. 老朽化している施設の設備更新をはかり、安心して利用できる施設を目指す
4. 入居者と職員が協力して地域との交流を図り、地域貢献を積極的に行う

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスの追求と提供

- (ア) 日常生活や各種レクリエーション等、入居者自らが考え自分の生活を創っていくように、自己決定の機会の提供をしていく。
- (イ) より有効なフレイル予防のため、法人内外のリハビリ専門職との連携を継続するとともに、オーラルケアの実施を目指す。
- (ウ) 日々のアセスメントを強化し、得意な分野で入居者自身が役割を持てるように支援する。
- (エ) 食事サービス嗜好調査や日々の意見の反映、希望者参加型レクリエーションを継続すると共に、食事原価高騰に伴う食材費と献立の最適化を図る。

2. 健全経営の推進

- (ア) 法人理念と施設理念の継承と実践を重ね、地域の一員として魅力のある施設であり続けるために、聖隷らしさを発揮できる組織づくりと人材育成に取り組む。

- (イ) 光熱費や食材料費等の物価高騰に対し、光熱費及び食材料費については 2025 年度実績と同程度を目指す。
- (ウ) 軽費老人ホーム事業の今後の在り方について、事業規模のベストサイジングや投資抑制の観点を考慮しつつ、在宅・福祉静岡ブロック内で協議を継続し、計画を推進する。
- (エ) 配食サービスの今後の在り方について、在宅・福祉静岡ブロック内での協議に継続して参画する。
- (オ) 防災・感染対策強化のため、BCP(事業継続計画)の勉強会及び訓練を計画的に実施し、入居者と職員の安全確保とサービス提供体制の継続・強化とを図る。

3. 職員の資質の向上

- (ア) 職員のスキルアップのため、コミュニケーション力及びアセスメント力の向上に重点を置いた研修等に積極的に参加する。
- (イ) アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）に継続して取り組むとともに、入居者の将来の変化に対応し、継続的に参加する機会を個別に進めていく。
- (ウ) 各部署や職種間の業務内容の相互理解を促進し、連携力を高めていくと共に、業務の総量削減・簡素化を前提とした業務改善を行い、ワークライフバランスの改善を図る。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託し、利用者の安全と安心の確保に貢献する。
- (イ) 浜名区細江町湖東地区住民ともくせいの里入居者の交流と健康増進のため、毎月開催される湖東公民館サロン及び運営委員会に参画する。
- (ウ) 浜名区細江町湖東地区の地域総合防災訓練に職員・利用者が参加し、地域の一員としての役割を果たすとともに、地域住民との交流や地域貢献を継続する。

【数値指標】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利用者定員	50	—	
利用者延べ数	18,220	13,620	
1日平均利用者数	49.9	44.2	
入居率（％）	99.8%	—	
稼働日数（延べ）	365日	308日	
単価（一人一日当り）	6,346円	707円	
サービス活動収益（千円）	115,630千円	9,636千円	125,266千円
職員数	15.7名	1.4名	17.1名

聖隷こども園わかば

2026年度は0歳児・2歳児の定員変更を行ない、定員数を減らすことによって安定した運営を図る。利用者の地域の枠にとらわれず、自園の強みを分かりやすく発信していくと共に、多様化する保護者のニーズを理解し、地域に信頼され、選ばれる園となる為に保育の質の向上に力を入れていく。また、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、子どもたちそして保護者にとって今何が必要か、大切かを常に考えながら、教育・保育を実践していく。

2025年度も地域の子育ての拠点施設として園を開放し妊婦支援、多世代支援、事業団内の他施設職員と連携をし、発達支援プログラム等を実施した。子育て中の親子に寄り添い、個々に必要な支援を提供できるよう、こども園併設型の支援ひろばのメリットを今後も活かしていく。職員一人ひとりが地域の子育ての拠点施設として求められていることの理解を深め、こども園併設型の支援ひろばの在り方を考えていく。また、少子化が進んでいく中で病後児保育事業、統合保育の推進等、関係機関・地域との連携を図った取り組みを進めていきたい。現在の園舎となり20年を超え、老朽化による修繕が発生していく為、安全且つ安心して過ごせるよう整備をしていく。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指す

『子ども自身に生きさせよ～自分で考え、判断し、行動する子ども～』

キリスト教の精神を基本理念におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む

【経営方針】

1. 地域の枠にとらわれず、入所希望のニーズに応えることで安定した運営を図る。
2. 職員一人ひとりが施設理念・園目標をもとに、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を提供する。
3. 子育て世代に求められる幅広い子育て支援を知り、積極的に取り組むことにより、地域での存在の意義を深める。
4. 計画的に施設設備の修繕を行い、安心と安全を保つ。

【事業・運営計画】

1. より質の高い教育・保育を実践する
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して全体的な計画を作成し、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく
 - (イ) 保育実践の学びを深めながら、子どもたち一人ひとりをよく理解し、保育者同士が語り合いながら保育の楽しさや、面白さが実感できる機会を増やし、保育の質の向上を図る
2. 保育職としての専門性を高める
 - (ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践

(イ) 保育職ラダー・目標参画・自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を
実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげる

(ウ) 職員一人ひとりが専門性の向上のため研修等に積極的に参加できるよう支援する

3. 職員の働きやすい環境づくり

(ア) 業務の見直しを行ない、働きやすい職場環境の再構築を図る

(イ) 若手職員の人材育成を行ない、組織内での育成体制を整える

4. 様々な視点から保育環境の充実を図る

(ア) 食育の推進

管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキングなどの体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れる

(イ) 子育て、親育て支援

園だより・ドキュメンテーション・懇談会等を通して教育・保育の内容や、子どもの姿を保護者に分かりやすく発信し、子どもの成長を共有する

5. 安全・危機管理に対する取り組み

(ア) 事故発生防止のため、危機管理マニュアルの確認、救急法等の訓練を定期的実施する。

(イ) 防災委員会を中心とし、様々な災害・不審者を想定した訓練を実施し、対応の強化を図る

6. 地域における公益的な取り組み

(ア) 子育て支援ひろばの充実、また、地域に出向く出張ひろばを通し、子育てに悩みを抱える家庭の相談に応じ、安心して過ごせる場の提供を行なう。子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長を実感することでより良い親子関係を築けるよう支援する

(イ) 乳児等通園支援事業を通して、地域内で子育て中の親に対しての支援を行なう

(ウ) 中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の高齢者との世代間交流を積極的に図り次世代を担う若者の支援や高齢者の生きがい作りに貢献する

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	18名	30名	30名	34名	34名	34名	180名
利用定員(1号)	-	-	3名	4名	4名	4名	15名
利用定員合計	18名	30名	33名	38名	38名	38名	195名
一日平均入所者数	13.3名	29.4名	30.0名	35.0名	37.0名	34.0名	178.7名
年間入所延人数	160名	353名	360名	420名	444名	408名	2,145名
入所率	73.9%	98%	90.9%	92.1%	86.8%	89.5%	91.6%
開所日数(延べ)	保育日数 292日 / 教育週数 44週						
サービス活動収益	283,456千円						
職員数(常勤換算)	47.1名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業(一般型・幼稚園型)

地域子育て支援拠点事業

病後児保育事業(病後児型)

乳児等通園支援事業

聖隷こども園桜ヶ丘

2026年度は安心・安全な保育を第一に考え、施設理念のもと、改めて職員一人ひとりが専門職としての自覚を持ち、保護者や地域から求められていること、期待されていることを正しく理解し、リスクマネジメント強化を図るとともに一人ひとりに寄添う保育に取り組む年度としたい。ゆるやかな育児担当制保育を継続し、一人ひとりの情緒の安定を図り、子ども自身が生活に見通しを持ち生活リズムを基本に主体的に生活が送れる保育を展開していく。

現状の地域における就学前児童数の動向や入園状況を踏まえ、定員を170名から160名に変更し経営と運営の安定を図る。

【施設理念】

「わたしはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である」ヨハネによる福音書15：1-5

1. 子どもたち一人ひとりが愛され、受け入れられて、愛することを知る
2. あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばしていく

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いに大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業計画】

1. 安全・危機管理に対する取り組み強化
 - (ア) 業務の標準化やマニュアル整備、職員体制等の再構築を行う
 - (イ) 大きな事故を未然に防ぐために、日常の「ヒヤリハット」に気付き、その分析・報告・共有ができる体制を強化する
 - (ウ) 正しい知識や情報を共有するとともに、危険予知や救急法等の訓練を強化し、事故防止の意識と対応力の向上を図る
 - (エ) 見守りカメラの設置等、園児と職員にとって安心・安全につながる環境づくりを行う
2. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 子どもの主体的な遊びを豊かに展開させるため、子どもの姿から人的環境と物的環境等の多角的な視点で捉え、発達段階に見合った環境構成を実践する
 - (イ) 個々の発達段階に見合った「運動遊び」や「リトミック」を継続して行い、体づくりや感性等の育成に取り組む
 - (ウ) セルフチェックと外部視点による評価を実施し、取り組みの改善や充実を図ると共に、職員の資質や専門性の向上に努める

3. 専門職としての成長と働きやすい職場環境づくり

- (ア) キリスト教保育のテキストや保育オンライン研修等の活用とグループディスカッションを多く取り入れ、相乗的成長を図る
- (イ) 専門機関等による定期巡回やケース会議を通し、発達に課題等を抱え、個別の支援が必要な園児の理解を深める
- (ウ) 業務の平準化や職場環境の整備に取り組み、働きやすい職場風土を醸成する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 親子ひろばにて、地域の子育て家庭の相談事業や遊びの提供をして安心して子育てができるように支援する
- (イ) 地域の自治会や近隣施設(都田南小学校・都田図書館・浜松学園等)と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する
- (ウ) 施設見学や実習生・中高生のボランティアを積極的に受け入れ、次世代の育成に貢献する
- (エ) 浜松市障がい者自立支援協議会(北エリア連絡会・こども部会)と連携を図り、障害のある(疑いのある)子どものライフステージに沿った切れ目のない支援をつなげていく

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	15名	29名	29名	29名	29名	29名	160名
一日平均入所者数	9名	20名	29名	29名	30名	25名	142名
年間入所延人数	108名	240名	348名	348名	360名	300名	1704名
入所率	60.0%	68.9%	100%	100%	103%	86.2%	88.7%
開所日数(延べ)	292日						
サービス活動収益	207,995千円						
常勤換算職員数	34.8名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業(一般型)

親子ひろば

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園 森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター 森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町

2025年度は老朽化した施設・設備の大規模修繕工事や多床室のプライバシー保護のための改修工事を2026年7月までの2ヶ年にわたる計画で着手し、利用者をはじめ行政や地域の理解を得ながら全職員協力のもとすすめることができた。一方で業務体制やマニュアル等ルールの形骸化による諸問題、不適切なケア等施設内のソフト面における課題も露呈した年度となった。

2026年度森町愛光園は、大規模修繕を安全にすすめながら、この機会を単なる老朽化に対する修繕ではなく、今後も地域の方々が安心して暮らし続けることのできる地域づくりに寄与する拠点となるための契機とし、サービス内容・ケアの質・働き方の刷新にこだわり取り組む。

【施設理念】

わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします

【経営方針】

1. わたしたちは、利用者の尊厳を守ることを第一とし、一人ひとりのQOLの向上をめざし、誠実かつ献身的に仕えます
2. わたしたちは、福祉・介護サービスを通して、地域の人々が安心して住み続けられる社会づくりに貢献します
3. わたしたちは、質の高いサービス提供に必要な人材の確保と育成に努め、「安心と効率の追求」と「働きやすくやりがいのある職場環境」の両立を実現します
4. わたしたちは、これらのことに継続的に取り組み、創造性・持続性・実現可能性を高めてゆくことができる組織づくりを目指します

【事業計画】

1. 大規模修繕や設備投資を契機としたサービス提供体制と質の刷新
 - (ア) 大規模修繕について事業を止めることなく、利用者・職員の協力のもと安全に実施する
 - (イ) 各種マニュアルや手順、新規利用者受け入れ体制等について、「これまでの方法が現在の最善か？」という視点での見直しに取り組み、刷新とその周知徹底を図る
 - (ウ) 各事業において機器等の活用を促進し、更なる効率化と満足度の向上効果を可視化する
 - ① 特別養護老人ホームにおいて、見守りシステム・インカムの活用を再促進し、職員の不安の軽減と相互協力の仕組みづくり、利用者の事故対策の強化に取り組む
 - ② AI議事録の活用を開始し、各種会議や紐づく業務の生産性を向上する
 - ③ 通所介護において、介護DX化をサポートするツールとしてWAN-かいごの活用と新規入浴機器の導入による、サービス提供体制の刷新と満足度向上を図る
 - ④ 訪問介護において、記録ツール(けあピアノート)を導入し、働き方の変革に取り組む
 - ⑤ 改修後の入浴提供体制について事業の枠を超えた運用の検討、試行を行う

2. 職員一人一人の資質向上と未来を担う人材育成、確保

- (ア) 各事業、各専門職の倫理と法人理念に基づいた行動や接遇、職場風土の見直し
- (イ) 役職者やリーダーを中心とした指導力の向上を図り、各現場における育成体制や確認体制を強化する
- (ウ) 介護補助、運転手等補助系職員の管理と育成を見える化して再編し、効率化を図る
- (エ) 職場間の交換研修を計画的に行い、多角的な視点の育成と応援協力体制を構築する
- (オ) 外国人介護職員の育成体制の再構築に取り組む
- (カ) 設備更新と移乗機器等の活用を推進し、スタッフの身体的な負担軽減を図る

3. 経営の安定化と未来予測を含めた地域分析

- (ア) 森町における地域状況の可視化と分析を行い、中期戦略の検討や森町福祉計画への提案
- (イ) 修繕後の設備やサービスについてアピール活動を行い、稼働率や待機者数の向上を図る
- (ウ) 新規受け入れ体制の見直しや事業間連携体制の再編による利用しやすい事業所を目指す
- (エ) 設備更新に伴う、既存設備や費用の取捨選択を行う

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の学校の福祉体験、実習や地域住民のボランティア活動への協力を継続する
- (イ) 森町行政、町内各団体の事業や近隣自治会の福祉活動、地域防災訓練等活動の継続
- (ウ) 静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）からの要請に基づき登録員を派遣する

【数値指標】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防
利用者定員	60名	20名	29名	12名	42名	
利用者延べ人数	21,301名	7,097名	10,263名	3,929名	8,008名	646名
一日平均利用者数	58.4名	19.4名	28.1名	10.8名	26.0名	2.1名
稼働率	97.3%	97.2%	97.0%	89.7%	64.7%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日	308日	
単価	13,304円	16,182円	15,228円	12,579円	9,700円	6,867円
サービス活動収益	283,402千円	114,849千円	156,285千円	49,423千円	88,842千円	
職員数(常勤換算)	37.3名	15.2名	20.3名	5.9名	15.2名	
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護		
		介護	予防	介護	予防	障害
利用者定員	—	—	—	—	—	—
利用者延べ人数	—	2,160名	660名	4,120名	1,000名	396名
一日平均利用者数	—	—	—	11.4名	2.8名	0.9名
稼働率	—	—	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	365日	365日		359日		
単価	—	17,800円	4,400円	4,500円	3,500円	3,500円
サービス活動収益	—	41,587千円		23,997千円		1,188千円
職員数(常勤換算)	0.1名	5.0名		5.3名		0.1名

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田
相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田
磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび
磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター
磐田市地域活動支援センター

2025年度は、「利用者まんなか支援」を基軸に、利用者の想いに寄り添う取り組みを継続した。各事業所が横断的な会議や話し合いの場を持ち連携し、地域の状況を共有することで、必要な支援を迅速に届けられる体制が強化された。地域の方々を招待した行事や地域交流も進み、地域に開かれた施設として一步前進できた。また、安全・災害対策の見直しを重ね、利用者と職員が安心して過ごせる環境づくりを進めた。2026年度は、聖隷ぴゅあセンター磐田開設10年を迎える。地域の皆さまはじめ、多くの方々の温かいご支援とご協力があったからこそ、歩み進めることができた。一方で、地域を取り巻く環境やニーズは日々変化している。これまでの取り組みを検証し、各事業所の役割や方向性を再考する一年と位置づけ、こども・保護者・高齢者・障がいのある方など誰もが安心して過ごせる「支え合える拠点」としての機能をさらに高めたい。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
 - (ア) 聖隷こども発達支援センターかるみあ
 - ① こどもの想いに共感し、安心して自己表現できることで「挑戦」できる意欲を育む
 - ② 安心した移行支援ができるよう、情報交換の場をつくり、先を見通した支援を行う
 - ③ 職員がチームとして横断的に支える体制をつくり、家族の想いを丁寧に汲み取る
 - ④ 磐田市の発達支援の基盤づくりに参画するため、磐田市や他機関と協働する
 - (イ) 聖隷放課後クラブはなえみ磐田
 - ① こども会議等を定期的で開催し、意思決定支援と共にこどもの楽しいを引き出す
 - ② 体験活動や地域の人・場所・機関との繋がりから、社会と繋がる機会を創出する
 - ③ 磐田市特別支援学校（仮称）の開校に向けて、受け入れ体制の準備を進める
 - (ウ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ① 利用者の「働きたい」をかなえるため、テーマ別グループワークで働くスキルを獲得する
- ② 就労選択支援の開始に向けて、磐田市や自立支援協議会と連携し、実施時期や方法を具体化する
- ③ 利用者の想いを可視化・共有を図るため、ICTを活用したカンファレンスを行う
- ④ 仕事の見通しが持てるよう、特別支援学校や高校の進路担当者と情報交換を行う
- (エ) 磐田市発達支援センターはあと
 - ① 幼少期から他者へ興味を持ち大人と信頼関係を築けるよう、家族へ子どもの行動理解のための助言を行う
 - ② 関係機関と役割分担しながら相談後の相談者へのフォロー体制を強化する
 - ③ 2027年度の5歳児健診開始に向けて、磐田市等と情報交換し体制を構築する
- (オ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ
 - ① 8050世帯のリストを活用し、多職種協働による支援体制強化と想いの共有を図る
 - ② その人らしい生活が送れるよう地域リハビリテーション総合支援事業を活用する
 - ③ 多様化する家族等に支援が行き届くよう、関係機関と情報交換の場をつくる
 - ④ 義務教育終了後のこども・保護者の支援充実のため、関係機関との連携を強化する
- (カ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび
 - ① ニーズに応じたテーマ別の親子座談会を実施し、仲間づくりの機会をつくる
 - ② 悩みや経験を共有できるよう、新たにお父さん向け講座や居場所づくり等を行う
 - ③ 子育て支援講座を開催し、ファミリーサポート事業の援助会員増員に繋げる
- (キ) 磐田市地域活動支援センター
 - ① 利用者の“やってみよう”を引き出し、地域移行へのロールモデルをつくる
 - ② 利用者の目標に応じた生産・創作活動を行い、人と接する機会や楽しさを提供する
 - ③ 地域の方に情報が広く行き届くよう、SNS等で活動紹介の動画を発信する

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

- (ア) マニュアルや支援手順書等を点検し、利用者支援の「安心・安全」を再構築する
- (イ) 想いや意見を伝えやすくするため、職場会議等でテーマ別検討会を行い、共有を図る
- (ウ) 職員の業務分掌の見直しを行い、属人的にならない仕組み化と共有を進める
- (エ) 職員の困りごとが素早く対応できるよう、情報共有と役割の明確化を行う
- (オ) 様々な危険場面を想定した訓練とアクションカードを活用した防災訓練を実施し、利用者・職員の安全確保を強化する

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の方が参加・体験できる招待イベントや園庭開放を通して、地域の方同士や施設との繋がりを作る
- (イ) 来所が難しい親子が安心して遊べるよう、土曜日に施設を活用した出張親子ひろばを開催し地域の子育て力向上に寄与する

- (ウ) 地域防災や地域イベントへの参加を通して、施設の情報を発信する
- (エ) 一時預かり事業において、緊急性の高い親子のお預かりを積極的に行う
- (オ) 研修講師・施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利用者定員	30名	—	—	—	14名	15名	6名
利用者延べ人数	7554名	385名	—	—	3503名	4471名	465名
一日平均 利用者数	31.3名	—	—	—	13.5名	17.3名	2.0名
稼働率	104.4%	—	—	—	96.6%	115.1%	32.6%
稼働日数(延べ)	241日	234日	—	—	259日	259日	238日
単価 (一人一日当り)	17,546円	18,847円	—	—	10,777円	9,711円	8,224円
サービス 活動収益	132,545 千円	7,256 千円	9,171 千円	19,521 千円	37,751 千円	43,416 千円	3,824 千円
常勤換算職員数	25.4名	1.3名	4.7名		4.8名	7.6名	1.0名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談	磐田市 地活
利用者定員	—	20名	—	—	—	—	—
利用者延べ人数	—	5222名	—	—	—	—	—
一日平均 利用者数	—	20.9名	—	—	—	—	—
稼働率	—	104.4%	—	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	—	250日	—	—	—	—	—
単価 (一人一日当り)	—	12,590円	—	—	—	—	—
サービス 活動収益	3,224 千円	65,747 千円	47,675 千円	27,000 千円	29,553 千円	12,938 千円	17,614 千円
常勤換算職員数	0.2名	10.2名	9.9名	6.3名	4.5名	2.0名	2.7名

こうのとりの保育園

近年、保育を取り巻く環境は、少子化の進行、共働き世帯の増加や家庭状況の多様化、子ども一人ひとりに応じた丁寧な関わりへの期待など、大きく変化している。こうした社会的ニーズを考慮し、2026年度も引き続き遊びの中での直接的・具体的な体験の一層の充実に向け、0歳児から就学までの発達や学びの連続性を踏まえた、内容の改善・充実の在り方を探り、幼児教育と小学校教育の円滑な接続につなげ、保育の質をより一層高めていく。また、家庭や地域との連携を一層深め、子どもを中心とした温かい育ちの環境づくりを推進し、子育て支援機能の充実や園の魅力発信に取り組むことで、安定した定員確保と園運営を目指す。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』マタイ福音書 22:39

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13:34

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質向上への取組み

(ア) 教育、保育理念を理解し実践する

- ①子どもの気持ちや発達段階を受け止め、流れる日課を通して、一人ひとりが安心して落ち着ける場所、食事や睡眠、排泄のための心地よい生活空間を確保する。
- ②子どもの姿を丁寧に捉え、子ども一人ひとりがもつ興味・関心や「やってみよう」という内発的な意欲となる気づきや思いを見逃さず、十分に遊び込める環境や時間を保障する。
- ③記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に常に自らの保育を振り返り、職員間で子ども理解を深める共有の場を設ける。
- ④感染症や事故、災害時の対応と安全確保について責任、手順（マニュアル・BCP）等を明確にし、対応と連携を職員周知し、強化する。

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ①子どもの健全な成長を見守るため、園での様子や育ちを日々のドキュメンテーション、懇談会等を活用して保護者に解りやすく伝え、相互理解を図る。
- ②保護者の保育参加を実施し、園での子どもの様子を直接見る機会を設け、面談を通して育ちを共有し、保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設ける。

2. 働きやすい職場環境づくり

- (ア) 保育支援システム（コドモン）の知識を深め、保護者アプリを活用し、円滑なコミュニケーションを行うことで、園への安心感、満足度を向上させる。
- (イ) 副主任を中心に明るい未来を描き、職員が自ら動き、考え、成長できるような環境や育つ空気を整える。

3. 統合保育の実践

- (ア) 障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」は、在園児との交流を図り、保護者や子どものニーズを踏まえ、専門機関と連携し計画的に保育を行う。
- (イ) 磐田市の巡回相談や訪問言語相談を利用し、並行通園先の児童発達支援事業所等と連携を深めながら、子どもへの関わり方や保護者へのアプローチ方法を学び、個別・集団における保育（療育）の実践に繋げる。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 子育て支援センター「エンジェル」では保育園併設の利点を活かし、利用の中で自然な相談対応を行い、定期利用家庭への声かけ、成長共有、入園検討時期を見据えたタイミング支援等、安心感を活かした継続的支援を行い「最初の相談窓口・信頼形成の場」と位置づける。また交流・体験を通して保育を見える化し、園見学や保育園入園につなげる。
- (イ) 幼児期の遊びを通じた経験を、小学校の学習活動につなげていけるよう、教育実践を見合い、相互の共通理解を図ることで、幼児教育と小学校教育の連携を一層深め、育ちの連続性を意識した実践を積み重ねる。
- (ウ) 地域住民や小中高校生との世代間交流を推進し、子育て支援活動、体験学習を積極的に受け入れ、子育てに関わる機会を創る。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	20名	20名	20名	20名	20名	20名	120名
一日平均入所者数	12.3名	25.0名	25.0名	25.0名	25.0名	25.0名	137.3名
年間入所延人数	147名	300名	300名	300名	300名	300名	1,647名
入所率	61.3%	125.0%	125.0%	125.0%	125.0%	125.0%	114.4%
開所日数（延べ）	292日						
サービス活動収益	234,028千円						
職員数（常勤換算）	42.9名						

【提供事業】

延長保育事業	一時預かり事業（一般型）
地域子育て支援拠点事業	学童保育事業
休日保育事業	病児保育事業（病後児型）

聖隷こども園こうのとり東

2025年度は、職場での対話と学びの文化を構築する為に、リーダー的な役割を担う職員が中心となり継続的な園内研修や職員の茶話会等を企画・運営し、コミュニケーションの活性化や主体的な学びへと繋げることが出来た1年間であった。2026年度は、未来を見据え、新たな挑戦として3, 4, 5歳児の異年齢保育を始める。少子化が加速する中、こども園において年齢の異なるクラス編成（理念的異年齢保育）を行うことで、年齢の低い子どもが高い子どもの姿を模倣し、生活習慣や学びの伝承が成される等、兄弟的な関わりができる環境を整える。異年齢保育研究者である外部講師の継続的な指導により、実践に対する丁寧な振り返りや職員同士の語り合いを計画的に行い、教育・保育の質の向上を目指す。園の教育・保育理念に繋がる実践を地域や保護者の方にICTを活用して可視化し、共に子どもの健やかな成長を支える仲間となるようにしていく。

放課後児童クラブについては、登録児童が幅広い学年での構成となる。縦割りの学年集団を活かしながら子ども同士の育ち合いを保障するように導き、児童も保護者も安心できる場を作る。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイによる福音書 22:39

【経営方針】

1. 一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る。
2. 生活、あそび等の豊かな経験を通し創造性や意欲を育てる。
3. 保護者、日本キリスト教中遠教会、地域の高齢者・民生委員、子育てサークル、多文化交流センターとの繋がりの中で、豊かな人間関係や感謝する心を育成していく。

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質の向上

(ア) 「いたくなるような居場所」作りを実践する。

①乳児は、ゆるやかな担当制保育、幼児は異年齢保育を実践し、成長や日課に幅を持たせ園児一人ひとりが、その子らしく安心して過ごすことができるような環境作りを行う。ゆったりとした生活の流れの中で保育者との情緒的な絆を深め丁寧な援助を行っていく。

②教育・保育の様子を地域や保護者にICT コドモン等を活用して可視化していき、子どもの健やかな成長のために共に考え見守っていけるように繋がりのある体制づくりを構築する。

③懇談会や保育参加後の面談を計画的に実施し、保護者の悩みを共有しながら、保護者にとっても園がいたくなるような居場所となるようにしていく。

2. インクルーシブ保育・他機関との連携

(ア) 障害の有無や国籍の違いや高齢者等に関わらず、誰もが自分らしく生きられるように教育保育の中で互いの状況や文化等について知る機会をつくり、互いの違いを認め合いながら多様性を育む教育・保育を実践する。

①世界のアミーゴス(通訳によるポルトガル語で遊ぼう)、ブラジル文化を尊重した行事作り、行事や日常的な地域の高齢者との交わり等

(イ) 配慮が必要な園児について児童発達支援センターと定期的な情報共有を図ることで各施設の状況に応じた援助が適切に行えるようにする。

(ウ) 聖隷の第4エリアの施設との情報共有や連携を図り、各施設の特徴を活かした支え合いや学び合いができるようにする。

3. 人材育成と多様性の推進

(ア) 主幹保育教諭と共にリーダー的存在(副主任、専門リーダー)である職員が教育・保育についての課題を見出し、定期的な学びの場とプログラムを計画し実践していく。

(イ) 職員一人ひとりがタラントを活かし認め合ったり支え合ったりする中で、誰もが安心して自分の想いを表出し、受容できるような職員にとっても居たくなるような職場作りを行う。

4. 地域における公益的な取組

(ア) シニアスポーツ大会や南御厨文化祭等に園児が参加したり、畑や田んぼ活動を通して地域の方々とのつながり、世代を超えた交流の機会をもつ。

(イ) 地域の親子を対象としたベビープログラム(年4回開催)、園庭開放(年12回程度)、育児相談等の場を提供し、地域の子育て世帯の支援を行う。

(ウ) 乳児等通園支援事業を通して、地域内で子育て中の親に対しての支援を行なう。

5. 放課後児童クラブ“オリーブ”

縦割りの学年集団を活かしながら児童自らが主体的に学習やあそび等、生活スケジュールを決めて行動することができるような環境を整える。その際は社会性も意識しながら子ども同士の育ち合いの文化を大切にしていく。

定員：40名

対象児童：市内1年生～6年生 登録児童予定数：通常42名(長期休み：51名)

対象小学校：(原則)東部小、田原小、福田小 *田原小・福田小については送迎車利用

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業(一般型) 乳児等通園支援事業(余裕活用型)

外国人児童保育事業 病児保育事業(病後児型) 学童保育事業

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	28名	28名	36名	36名	36名	36名	200名
利用定員(1号)	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	28名	28名	36名	41名	41名	41名	215名
一日平均入所者数	17.7名	26.1名	32.8名	39名	38名	41名	194.6名
年間入所延人数	212名	313名	393名	468名	456名	492名	2334名
入所率	63%	93%	91%	95%	93%	100%	90%
開所日数(延べ)	292日(教育週41数週)						
サービス活動収益	291,332千円						
職員数(常勤換算)	44.2名						

聖隷こども園こうのとり豊田

2026年度、聖隷こども園こうのとり豊田は、地域に根差し開かれたこども園として、家庭や地域との繋がりを大切にしながら子ども一人ひとりの育ちを支えていく。多世代交流を重視し、園を中心とした地域の子育て支援の場としての役割をより発揮していくことを目標とする。女性の社会進出による未満児保育需要の高まりや核家族化の進行による子育てに対する不安や負担が増していることが予想される。未満児保育、延長保育、一時預かり保育などの保育のニーズに応じていくとともに、選ばれる園となるために地域への発信を積極的に行い園の教育・保育理念、運営方針、事業活動等を様々な方法で明快に伝え保護者や地域の方の伝聞の力も活用していく。園児や保護者からの信頼をさらに高めていくために、教育・保育の質の向上を目指して園内研修等の充実を図り、専門職としての知識や能力を高め組織力強化に繋げる。指導計画を基に『子どもの発達』に視点を置きながら保育を省察し園児一人ひとりに応じた保育環境や保育者の関わりを見出し、子どもの自ら育とうとする力を伸ばし情緒の安定を図っていく。

【施設理念】

キリスト教を基本理念とし

『わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13 : 34

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在である事を知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質向上への取り組み

(ア) 教育・保育理念を理解し実践する

- ① 乳児保育で、ゆるやかな育児担当制保育の方法を継続する中で、『子どもの発達』を視点を保育を省察し保育環境や保育者の関わりを考え実践する。
- ② 子どもと保育者、子ども同士等の対話を大切にした「こども会議」等の手法も取り入れながら、こどもの理解を深める。
- ③ 異年齢児交流、地域の高齢者との交流、異文化交流等、様々な人との交わりを通して互いの違いに気づき認め合う心を育む。

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ① 保育支援システム（コドモン）を通して、日々の保育の様子や教育及び保育の意図や子どもの発達について丁寧に伝えることで保護者との共有や相互理解を深める。
- ② 保育参加や行事を計画し、子どもの様子や友達との関わり、教育・保育の可視化を行う。個別面談等を行い子どもの育ちを共有する。

2. 保育の専門性の向上と働きやすい職場環境の構築

(ア) 副主任や専門リーダーの知識や技術を活かし、職員全体で学び合う為の計画実践を行う。

外部研修に積極的に参加する。(キャリアアップ研修・実技研修・給食研修・衛生管理研修等)

(イ) 雇用形態の違う職員同士の園内研修を計画し実践を行う。職員同士が教育・保育について定期的に語り合う環境を作り施設目標に向けて協同性を持って進める。

(ウ) 教育・保育準備や記録業務・環境整備等の振り返りを定期的に行い業務効率の改善に取り組みと共に職員一人ひとりが高い視座で周りの状況を見る力を養い、園児の対応や保育準備の手伝い等、互いに支え合う関係性を構築する。

3. 統合保育・専門機関との連携

(ア) 発達の気になる子や「こひつじ保育」(発達に偏りのある子どもを対象とした一時預かり)の広報を積極的に行い、利用者の増加に繋げる。子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえて、個別の支援を実施する。

(イ) 必要に応じて磐田市の保健師、「磐田市発達支援センターはあと」や「聖隷こども発達支援センターかるみあ」と連携を図り、子どもへの関わり方や環境設定の配慮等を学ぶ。

(ウ) 小学生と園児の交流や小学校とこども園双方の参観会を実施し、情報交換を通して教育の理解を深め、小学校教育との更なる円滑化を図る。

4. 地域に根ざした取り組み

(ア) 地域の子育て家庭への助言や相談を行う機会を設ける。入園を視野に入れている親子へ保育公開日等を設ける。

(イ) 学童保育を継続し、在園児との交流を深めながら学習する習慣を身に着ける。

(ウ) 地域ふれあいクラブを園に招いて手作り玩具の作成や環境整備等を依頼し交流を図る。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域の子育て家庭を対象に、保育教諭等の専門的育児講座を企画する。

(BP プログラム (親子の絆づくりプログラム) 等)

(イ) 小学校、中学校、高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流に、こども園が積極的に協力し、次世代育成支援の一端を担う。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員 (2・3号)	18名	23名	24名	25名	25名	25名	140名
利用定員 (1号)	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	18名	23名	24名	30名	30名	30名	155名
一日平均入所者数	13名	25名	28名	34名	33名	33名	166名
年間入所延人数	155名	297名	332名	408名	396名	392名	1980名
入所率	71.8%	107.6%	115.3%	113.3%	110%	108.9%	106.5%
開所日数 (延べ)	292日 (教育週数 41週)						
サービス活動収益	265,617千円						
職員数 (常勤換算)	43.5名						

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業 (一般型・幼稚園型) 親子ひろば 学童保育事業

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘
聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘
聖隷訪問看護ステーション富丘

2025年度は地域とのつながり作りに取り組むことで、複合施設としてのニーズを捉えた、より質の高い利用者支援を目指して取り組んできた。2026年度も地域や利用者の声を聴く機会を設けることでニーズに沿ったサービスの展開を行う。また、各事業の役割を明確化し、豊かな専門性を活かした連携の強化を図ることで、より質の高い事業の展開を目指す。さらに、職員が主体的に働ける環境を整えると同時に、施設設備や安全管理の見直しを計画的に行うことで、利用者や職員が安心安全な環境の中でサービスを提供できるよう取り組んでいく。

【施設理念】

子どもたちの“今”が未来を創る～“その人らしく・その家族らしく”未来を描けるように～

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていると感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 施設運営

- (ア) 役割を明確化し、多職種の専門性を活かした連携を強化することで、利用者支援の充実を図る
- (イ) 施設で職員の意見を実現させる場を設け、主体的に働ける職場を目指す
- (ウ) 法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、専門職としてのスキルアップを図る
- (エ) 適切且つ柔軟な職員配置やコスト管理を実現し、安心安全な環境の中で運営強化を図る

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

- (ア) 施設理念に基づいた保育研究や実践を行い、保育の質向上へとつなげる
- (イ) 保護者支援として講話や座談会を企画し、子育てについて共に考え学ぶ機会を提供する
- (ウ) 専門性に基づいた職員の「やりたい」を実現させる場を設定し、主体的に働ける職場を目指す
- (エ) 複合施設の強みを活かし、子どもの発達や興味関心に沿った保育・教育を行う

3. 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

- (ア) 複合施設の特徴を活用し、子どもの状況、発達年齢や生活年齢に沿った体験を提供する
- (イ) 行事や交流の場を通し家族全体で喜びや充実感を感じられるよう支援する。
- (ウ) 地域、病院、各種サービスなど、ライフステージを見据えた支援のつながりを作る。
- (エ) 職員が互いの専門性を尊重し学び合いながら自己有用感とやりがいを持ち、支援力の向上につなげられる職場づくりを目指す。

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

- (ア) 情報共有方法の工夫、記録を充実させ、訪問看護の質を向上させる
- (イ) 福祉サービスや病院とのつながりを再構築し、利用者のケアを充実させる
- (ウ) 職員自ら健康や職場環境に注意し、訪問看護へのモチベーションを維持する

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 多世代を対象とした施設開放を実施し、地域の家庭が安心して子育てができるように支援する
- (イ) 施設見学、職業体験やボランティアを積極的に受け入れたり、近隣施設を訪問して地域と交流したりすることで、多世代・多文化の方が子育てに関わる機会を作る
- (ウ) 地域の防災訓練への参加を通して災害時の地域における施設の役割を検証し、検証結果をもとに、地域防災への参画に着手する

【数値指標】

■聖隷こども園こうのとり富丘

【提供事業】延長保育事業 ・一時預かり事業（一般型・幼稚園型） ・病児保育事業（病後児型）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	18名	20名	20名	20名	21名	21名	120名
利用定員（1号）	-	-	-	3名	3名	3名	9名
利用定員合計	18名	20名	20名	23名	24名	24名	129名
一日平均入所者数	15.5名	20名	22名	26名	27名	26.0名	136.5名
年間入所延人数	186名	240名	264名	312名	324名	312名	1638名
入所率	86.1%	100%	110%	113%	112.5%	113%	105.8%
開所日数（延べ）	292日（教育週数 41週）						
サービス活動収益	248,430千円						
職員数（常勤換算）	41.4名						

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

■聖隷訪問看護ステーション富丘

利用者定員	10名
利用者延べ人数	2,790名
一日平均利用者数	11.6名
稼働率	115.3%
稼働日数（延べ）	243日
単価 （一人一日当り）	21,259円
サービス活動収益	59,315千円
常勤換算職員数	10.6名

平均利用者数	105名
月間訪問件数	494件
年訪問件数	5920件
単価	10,525円
サービス活動収益	58,876千円
常勤換算職員数	9.7名

在宅・福祉関東ブロック

2025年度は、横須賀の看護小規模多機能型居宅介護の経営が軌道に乗り、松戸でのICT活用が厚生労働大臣表彰奨励賞を受賞する等各施設が事業計画に基づき着実に成果を上げていく一方、各地区での取り組み状況に温度差を感じることもある。その温度差の要因を明確に特定はできないが、各施設、各職場で役職者と職員とともにつくる働く環境〔空気感・風習等〕が少なからず影響していることが推察される。

2026年度は、各地区の事業計画に基づいて取り組む中で、現場第一線の職員を我が事として参画すること、困っている職員を独りぼっちにしないこと等、可視化は難しいが各職場のつくる空気感をより良い環境となるよう、管理者からの声掛けを意識してともに事業計画に挑戦したい。

【在宅・福祉関東ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2026年度目標】

1. 利用者が最期まで自分らしく暮らすことができる支援
2. 介護テクノロジーの活用による働きやすさとサービスの質の向上
3. 聖隷の理念の継承と次代を担う人材の育成
4. 多様な人材が安心して働き続けられる職場づくり

【浦安市高州高齢者福祉施設】

1. 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う
 - (ア) 特定技能1号外国人をはじめ、すべての職員が相互理解し安心して業務に携われるよう受け入れ体制を整備する
2. 経営の安定化
 - (ア) 多職種による利用前の自宅訪問とICT活用により、個別ニーズに応じたサービス提供と利用者増加を図る
 - (イ) ショートステイとの合同送迎を実現し、両サービスを利用される方を包括的に支援することで、効率的な事業運営を目指すとともに、新規利用者獲得につなげる
 - (ウ) 職員個々のスキルアップを図り、医療ニーズのある利用者等中重度者の受け入れ体制を整備する
3. 利用者個々のニーズに合ったサービスの提供
 - (ア) 多職種が連携してアドバンス・ケア・プランニング（ACP）を実践し、入居者の望む生活を支援する。

【浦安せいいいの里】

浦安愛光園

1. 安心・安全なサービスの提供

(ア) ACP を実践することで、「その人らしい」暮らしの提供

2. やりがいをもって働き続けられる職場環境の整備

(ア) ICT を効率的に活用し、業務の省力化・簡素化を図る

(イ) 外国人材の受け入れ体制を整え、介護職員の人材確保・育成をしていく（高洲地区）

(ウ) 事業団・施設理念の継承、介護福祉士の倫理綱領について定期的に考える場を設け、自身のケアを振り返る

浦安ベテルホーム

1. 全職員がやりがいをもって働き続けられる職場づくり

(ア) 職員同士が自然に支えあう心理的安全性の高い職場づくりに取り組む

(イ) 介護テクノロジーを最大限に活かし職員の負担軽減に取り組む

2. 質の高いサービスを提供し常に、選ばれる施設になる

(ア) 各専門職が内外の研修参加を通じて専門性を高め、サービスの質の向上に取り組む

(イ) 医療・介護・福祉・行政機関との顔の見える関係づくりと利用者の積極的な受け入れ

(ウ) 入所、短期入所、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションのシームレスなサービス提供を進め、利用者の在宅療養を支援する

【松戸愛光園】

1. 安心・安全で自分らしい暮らしを支える

(ア) 利用者一人ひとりの生活歴や価値観を尊重した個別ケアを推進する

(イ) 日々の生活における選択や意思決定を大切に利用主体のサービスを提供する

2. 職員が安心して長く働ける職場づくり

(ア) 施設内外での職員交換研修を行い、広い視野を持った人材育成を進める

(イ) 職種別やリーダー層を地区で育成する仕組みを模索する

3. 松戸地区の連携強化による事業安定

(ア) 松戸ニッセイ聖隷クリニックとの協力・連携体制を推進する

【横須賀愛光園】

1. 「最高の質」のサービスの追求と未来を担う人材の育成

(ア) 認知症専門研修、事業所間交換研修、接遇研修、マネジメント教育の実施

(イ) 聖隷の歴史・創設の精神と事業の歩みを学ぶ研修による理念の浸透

2. 聖隷DXと健康経営の推進による働きやすい職場づくり

(ア) AIや自動音声入力を活用した記録業務の定着、ペーパーレス化の推進

(イ) 「Pep Up」の登録率向上、インシビリティ教育の実施

3. 地域との連携強化による信頼度向上

(ア) 地区ボランティアセンターとの連携強化、地域向け認知症講座の実施

(イ) 高齢者、障がい者ニーズの把握、展開サービス・エリアの検討

浦安市高洲高齢者福祉施設

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

2026年度は浦安市高洲高齢者福祉施設の指定管理者として第5期〔2026年度～2030年度〕の初年度となる。1999年度から浦安市にて高齢者福祉事業の運営を開始して26年が経過し、その時代の中で浦安市民に必要とされるサービスを提供し続けてきた。今後5年間の浦安市は急速な高齢化を迎え多様なサービスが必要とされることが予測される。常にその時代に必要とされるサービスを探求し、浦安市市民が住み慣れた地域で安心安全に生活できる「インフラ」としての役割を果たしていきたい。

【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する
 - (ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
 - ① 認知症ケアの充実を図るため、個々の認知症状を分析、その人の人生の歩みを深く理解し、「その人らしく」を支援できるケアプランを立案・実施・評価を行う
 - ② アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を実践する。施設ケアマネジャー、相談員、介護職員、看護職員が中心となり、「もしもの時の話し合い」を繰り返し行い、入居者の望む生活を支援する
 - ③ 嚥下評価を定期的に行い、入居者・利用者の特性に応じた食事提供と健康状態を把握し、医療機関との連携を図る。
 - ④ 入居者・利用者アンケートの実施、家族会を定期的を開催することにより、入居者・利用者、家族の思いを共有し、サービスの質の向上につなげる
 - (イ) ケアハウス
 - ① 入居者の社会性維持・閉じこもりやフレイル予防のための地域交流とプログラムを強化する

- ② 入居者の状態に応じた機能維持を図るとともに、生活不便を低減する
- ③ 事故・感染予防に関する入居者への啓蒙・啓発と予防を強化する
- (ウ) 通所介護
 - ① 地域の利用者に対する個々のニーズに寄り添った生活支援サービスの提供を行う
 - ② 利用者と家族の在宅生活継続に向けた課題を把握し、状態変化をケアマネジャーや他事業所関係者と共有し、新たな課題の発見と支援方法の見直しを行う。
 - ③ 総合事業指定基準緩和通所事業デイサービス A 型については、対象者の外出機会、フレイル予防対応を継続する

2. 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う

- (ア) 各専門職のラダー評価、目標参画により、職員個々のやりたいこと、実現したいことが達成できる職場環境をつくる
- (イ) 入居者個々のニーズに合ったケアプランを立案・実践・評価を行い、個別ケアの充実を図り、職員のやりがいに繋げる
- (ウ) 特定技能 1 号外国人をはじめ、すべての職員が相互理解し安心して業務に携われるよう受け入れ体制を整備する。
- (エ) 認知症介護基礎研修受講支援・介護支援専門員資格取得支援・喀痰吸引研修受講支援等により、職員のケアの質向上に努める
- (オ) 介護技術スキルアップ体制の充実やインカム等の ICT 活用、介護機器を用いたサポート体制により業務の標準化と効率化を進め、入居者・利用者に関わる時間を増やす

3. 経営の安定化

- (ア) 特別養護老人ホーム
 - ① ICT の活用により、待機者の現在の状況を定期的に確認、可視化することで退居後の空床日数を 7 日以内とする
 - ② 施設ケアマネジャーを中心に入所待機者の情報収集を行い、入所準備を円滑に進める
 - ③ 多職種が連携し、入居者の日々の健康管理を徹底することで、入院者数の軽減を図る
- (イ) 短期入所生活介護
 - ① 多職種による利用前の自宅訪問により個々のニーズに合ったサービスを提供、また、ICT 等活用により、利用者の増加を図る
 - ② 緊急、措置利用の受け入れの際、迅速な調整、支援を行う
- (ウ) ケアハウス
 - ① 退居が必要な方への情報提供等適切な対応を強化する
 - ② 入居者が安心できる生活継続とともに建物設備の有効活用に向けた検討をする
- (エ) 通所介護
 - ① 居宅支援事業所と連携し、地域の特性に合わせた生活支援サービスの提供を図り、安定した稼働を維持する
 - ② 職員個々のスキルアップを図り、医療ニーズのある利用者等中重度者の受け入れ体制を整備する

- ③ 中重度者のケア継続のため、介護老人保健施設や短期入所事業所とケア方法等についての情報連携を強化する
- ④ ショートステイとの合同送迎を実現し、両サービスを利用される方を包括的に支援することで、効率的な事業運営を目指すとともに、新規利用者獲得に繋げる

4. 災害対策・感染症対策の体制確立

- (ア) 協力医療機関と連携強化、感染症予防のための研修の実施、定期的な情報交換を行う
- (イ) 防災及び感染 BCP の研修と訓練を定期的に行い、緊急時の対応体制を整備する

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 介護福祉士・社会福祉士・看護師・歯科衛生士等の実習生を積極的に受け入れる
- (イ) ボランティアを積極的に受け入れる仕組みを整備し、地域との交流を活性化する
- (ウ) うらやす健康・元気コンソーシアムに継続参加し、新たな取組みを地域に発信する

【数値指標】

	特 養	短 期	ケア ハウス	高 洲 デイ	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	225 名
利用者延数	34,857 名	15,068 名	4,505 名	6,223 名	60,653 名
一日平均利用者数	95.4 名	41.2 名	12.3 名	20.3 名	—
稼働率 (%)	95.4%	82.5%	24.6%	81.3%	—
稼働日数 (延べ)	365 日	365 日	365 日	306 日	—
単価 (一人一日当り)	—	—	—	—	—
サービス活動収益 (千円)	727,821 千円	313,035 千円	111,823 千円	69,427 千円	1,222,106 千円
職員数 (常勤換算)	85.5 名	29.3 名	6.2 名	10.6 名	131.6 名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

2025年度は高洲地区相談部門の連携強化を図り、地域の課題と向き合い個々のニーズに合った受け入れを行った。2026年度も連携強化を継続し、地域ニーズに迅速に対応し、地域包括ケアシステム的一端を担う施設として役割を果たしていく。

また、介護人材不足ではあるが、新たな人材確保として、特定技能1号職員の雇用継続と定着化を図り、入居者個々のニーズに沿ったサービス提供を行っていく。安心・安全なサービス提供ができるよう、定期的な理念・運営方針の継承、高洲地区内の研修・外部研修への積極的な参加を促し、サービスの質の向上に努めていく。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 入居者個々の意思を尊重し「その人らしさ」を大切にしたサービスの提供
 - (ア) ACPを実践することで、個々のニーズを把握し「その人らしい」施設サービス計画書を作成する
 - (イ) 施設サービス計画書を基に多職種が連携し、充実した個別ケアを提供する
 - (ウ) 認知症チームケア推進委員会を中心に、定期的にケアの見直しを行い、個々の認知症状に合ったサービスを提供する
 - (エ) 日々のレクリエーション、誕生日等のイベントを充実させQOL向上を図る
2. 職員がやりがいをもって仕事ができ、長く働き続けられるような職場環境の整備
 - (ア) 各専門職のラダー評価、目標参画を通して、個々の強みを活かす
 - (イ) 積極的に外部研修へ参加し、個々のスキルアップを図る
 - (ウ) 事業団・施設理念の継承、介護福祉士の倫理綱領について定期的に考える場を設け、自身のケアを振り返る
 - (エ) 年間有給取得日数を8日以上とする
 - (オ) 外国人材の受け入れ体制を整え、介護職員の人材確保・育成をしていく（高洲地区）
 - (カ) 若手職員同士が悩み等を話せる場を設ける
3. 地域共生社会の実現
 - (ア) 障がいを抱えた方が様々な制度を活用しながら自立した生活が送れるよう、地域の機関と連携し、複合・複雑化したニーズに対応する地域包括ケアシステムを推進する

- (イ) 医療ニーズのある方が住み慣れた地域で適切な医療が受けられるよう、同法人の聖隷訪問看護ステーション浦安や浦安ベテルホームショートステイとの連携を強化する
- (ウ) 様々な課題を抱えた世帯のニーズにも対応できるよう、地域の事例検討会や研修会を通じて学びの場を作り、相談支援専門員としての相談援助技術を向上する

4. 経営の改善と業務効率化の継続

- (ア) 入居と空床ショートステイを合わせて稼働率 97.5%以上を維持する
- (エ) 生産性向上委員会を中心に ICT を効率的に活用し、業務の省力化・簡素化を行う
- (オ) 老朽化した設備・機器等の更新、修繕を計画的に行う
- (カ) 地域ニーズを把握し新たな事業展開を模索する

5. 防災・防犯体制の強化

- (ア) BCP 業務継続計画に沿った研修と訓練を実施しマニュアルを更新する
- (イ) 災害発生時に実際に職員が行動できるよう、浦安地区・園内での訓練を実施する
- (ウ) 防犯対策における必要物品を見直し整備する

6. 地域における公益的な取組みと地域貢献

- (ア) 高洲地区の地域貢献プロジェクトを通して、地域活動に積極的に参画する
- (イ) 浦安市介護事業者協議会が主体となって開催する小学校での介護講座を支援する
- (ウ) 地域交流を促進し、積極的にボランティアの受け入れを行う

【数値指標】

	特養 (ユニット型)	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74 名	-	-
利用者延べ人数	26,428 名	420 名	-
一日平均利用者数	72.4 名	-	-
稼働率	97.8%	-	-
稼働日数 (延べ)	365 日	241 日	-
単価 (一人一日当たり)	16,526 円	15,190 円	-
サービス活動収益 (千円)	440,457 千円	6,380 千円	446,837 千円
職員数 (常勤換算)	52.0 名	1.0 名	53.0 名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

介護老人保健施設である浦安ベテルホームは包括的ケアサービス施設として、①在宅復帰を目指したケア、②在宅生活が継続出来るケア、③療養先を選定する支援、④ターミナルも見据えたACP実践を多職種協働の理念のもとでご利用者へ提供をしている。

2025年は、浦安市唯一の介護老人保健施設として役割を果たすため高い稼働率と積極的な在宅復帰支援を目標に掲げたが、各専門職の定着が進まず目標達成に至らなかった。特に中核的な役割である、充実したリハビリテーションの実施が難しい状況になったことにより、経営的に大きく影響を受けることとなった。

2026年は、こうした厳しい経営環境を改善していくために、介護テクノロジーを活用しつつ、職員相互が支えあう働きやすい職場づくりを進め、ご利用される地域の皆様のために質の高いサービスを継続して提供していけるように、以下の目標に取り組んでいきたい。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 全職員がやりがいを持って働き続けられる職場づくり
 - (ア) 職員同士の傾聴と承認、相談しやすい環境作りに取り組み、心理的安全性の高い職場風土を醸成する。
 - (イ) 介護テクノロジーを活用することで職員の負担の軽減と業務の生産性の向上を推進する。
 - (ウ) 全職員が職種別ラダーに基づく目標参画を活用し、目標に挑戦し達成できる職場環境を作ることで、自身の成長と利用者への貢献が実感出来る。
 - (エ) 人材育成プログラムを活用し新人・中途採用者のOJTを計画的に行うことで人材育成と職員の定着を図る。
 - (オ) 職場長、リーダー職員の指導力の向上に取り組む。
 - (カ) 中堅職員が職場の課題に気付き、我が事として課題解決に取り組む機会を通して次世代のリーダー職員を目指せるよう支援する。
2. 質の高いサービスを提供し、選ばれる施設になることで経営を安定化
 - (ア) 各専門職のアセスメント力を向上させ、積極的に多職種協働でのケアマネジメントに取り組み、共通のエビデンスに基づくケアを実践できる。
 - (イ) 福祉職チェックリスト、不適切ケアのアンケートを継続的に活用し、全職員の接遇力向上に取り組む。

- (ウ) 全職員が認知症ケアや身体拘束・虐待防止など施設内外の研修への参加や資格取得をめざし、専門職としての知識・技術の向上を通じてケアの質の向上に取り組む。
- (エ) 全職員がリスク管理能力を高め、多職種協働で転倒事故、誤嚥性肺炎、尿路感染症、脱水を予防する。
- (オ) 全職種が在宅復帰・在宅療養支援を継続的に行う仕組みづくりに取り組む。
- (カ) 周辺の医療、介護、福祉、行政機関と顔の見える関係づくりを進め、利用者を積極的に受け入れることで、ベテルホームの認知度を上げる。
- (キ) LIFE のフィードバック情報を活用し、エビデンスに基づくリハビリテーション、ケアの進捗管理を行い、「卒業ができる」通所リハビリテーションの運営を行う。
- (ク) 入所サービス・短期入所療養介護・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションが連携し、シームレスなサービス提供を行うことでご利用者の在宅療養支援に取り組む。

3. 防災・防犯体制の強化

- (ア) 災害発生時に全職員が対応できるように、研修や訓練の参加・伝達をおこなう。
- (イ) BCP 訓練に合わせて内容の見直しを行い災害発生時に備える。
- (ウ) 協力病院と連携し市中の感染状況に合わせた感染対策を行うことで施設内での感染拡大を予防する。

4. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

- (ア) ボランティアの積極的な受け入れや、地域貢献活動の企画実施、地域行事へ出向くことで、地域の人々との交流を深める。
- (イ) 小中高校生の福祉体験活動を積極的に受け入れ、医療、介護、福祉の仕事に触れる機会を増やすことで、未来の人材確保、育成に繋げる。

5. 社会福祉施設の役割遂行

- (ア) 生活保護受給者の受け入れ、無料又は低額老人保健施設事業を積極的に地域に広め、事業基準（10%）を満たした運営を行う。

【数値指標】

	入所		短期入所	通所リハビリ	総計
	従来型	ユニット型			
利用定員	56名	44名	空床型	35名	135名
利用者延べ数	18,542名	12,337名	1,533名	8,624名	41,036名
一日平均利用者数	50.8名	33.8名	4.7名	28.0名	116.8名
稼働率	90.7%	87.5%		80%	—
稼働日数(延べ)	365日			308日	—
単価(1人1日当り)	15,250円	18,931円	20,281円	12,162円	—
サービス活動収益(千円)	556,620千円			105,525千円	662,145千円
職員数(常勤換算)	65.9人			16.9人	82.8人

聖隷訪問看護ステーション浦安

浦安市は年々高齢化率が上昇しており、訪問看護の果たす役割は一層大きい。2026年度は聖隷訪問看護ステーション浦安の開設10周年を迎える年となる。東京海上BLSの居宅・訪問介護事業所との連携し、協働して地域住民のその人らしい生活の支援を継続していく。2026年度も2025年度同様、機能強化型の算定はできないが、新規依頼数も回復しているため、黒字経営の継続を目指す。今後も収支バランスを取りながら運営と経営を安定させ地域貢献していきたい。

【施設理念】

ご利用者の一人ひとりの自己決定を大切にし、その人の選ぶ医療と生活を質の高いケアで支援する

【経営方針】

1. 一人ひとりのご利用者の意思決定支援を最優先し、その人らしい生き方を支援する。
2. 協同運営している東京海上日動ベターライフサービス株式会社との連携を続け、さらにサービスの質の向上を目指す。

【事業計画】

1. 理念浸透を目指し、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護の継続
 - (ア) 週1回のカンファレンスを通してケアの質向上を目指す。
 - (イ) 受講後は事業所の強みになれるために、5月より看護師1名の特定行為研修受講の協力体制を作る。
 - (ウ) 新しく始まる医療観察制度の訪問看護の情報収集を行い安全な訪問を目指す。
2. 外部環境に合った運営と経営が維持できる
 - (ア) 浦安市の地域ニーズを知り、病院・クリニック・居宅支援事業所との連携を深める。
 - ① 毎月各事業所に受け入れ空き情報を送り、往訪等により営業活動で顔の見える連携を継続する。
 - ② 順天堂浦安病院地域連携室との相互研修の実施。
 - ③ 東京海上日動ベターライフサービス株式会社と3ヶ月に1回の連携会議で情報交換しながら協働し、法人の枠を越えた地域を支援する体制を推進。
 - (イ) 利用者の確保を目指し、選ばれる訪問看護を模索する
 - ① 人員換算訪問件数72件以上目標を維持する。
 - ② 取得できる加算を取り、より高い訪問単価を目指し経営を安定させる。
3. 管理者の育成と引き継ぎ
 - (ア) 職員の動機付けを行い、育成と引き継ぎ計画を共有する。
 - ① モチベーション維持ができる働きかけをし、次期管理者の選定をする。

- ② 訪問看護管理者研修など必要な研修の参加。
- ③ 管理者マニュアルと管理業務の伝達。
- (イ) 職場全体で新しい組織作りを構築する動機付けを行う。

4. 健康経営とメンタルヘルス対策で働きやすい職場を継続する。

- (ア) 聖隷 DX の推進で記録等の省力化を図り、効率の良い業務改善を行うことで、超勤時間を短縮できワークライフバランスにつなげる。
- (イ) 目標参画システム・職種別ラダーを通して、各職員の得意分野の学びを深め、職場の勉強会で共有していく。
- (ウ) 業務改善と有給休暇取得率を上げ、働きやすい職場を維持することで離職率の低下を目指す。
 - ① 有給休暇取得日数を正職員、年間 12 日を目指す
 - ② 超過勤務時間正職員、月間 20 時間以下を目指す

4. 地域における公益的取組

- (ア) 次世代を担う看護大学の実習生を受け入れ、地域で働く訪問看護師の役割を伝えていく。
- (イ) 地域で取り組む連携会議や研修会に出席し、浦安市の地域医療と包括ケアシステムにつながる貢献ができるように参画していく。

【数値指標】

	平均 利用者数	訪問件数 (月間)	訪問件数 (年間)	単価	サービス 活動収益	職員数 (換算)
訪問看護 ST 浦安	96 人	589 件	7,068 件	10,754 円	76,236 千円	9.3 人

浦安市高洲地域包括支援センター

浦安市は千葉県内で最も高齢化率が低く、さらに当センターが担当する地区は高齢化率 15%台と市内でも若い地域である。一方で築 30 年を超えるマンション群では 30%を超えており担当地区内での格差や、マンションが多いことで今後の高齢者数が急増する見込みとなっていることが特徴である。

高齢者が自身の人生を選択・決定できるよう情報発信を重ね、さらに地域で暮らし続けることができるよう地域包括ケアシステムの深化・充実を目指す。

【事業・運営計画】

1. 支え合いの地域づくり

- (ア) 地域で見守る体制づくりのため、老人クラブや自治会、医療機関や関係事業所などへ挨拶回りを行い、地域包括支援センターの周知と顔の見える関係を築き多世代他分野での連携体制を強化する。
- (イ) 総合相談やケア会議などから地域ニーズを把握し、介護情報、認知症、ACP 等出前講座を行い、住民の自己選択・決定のための「備え」として情報提供をする。
- (ウ) 地域関係機関との協働による地域むけ活動（介護予防普及啓発、家族介護者支援、転入者向けサロン）の開催。

2. 多様化する相談への継続的かつ専門的な支援

- (ア) 朝礼や職場内会議、ケース検討にてセンター全体で相談内容を共有、検討する。必要な場合は複数名で対応する。
- (イ) 相談支援スキルラダーの活用と研修参加により、各職員の能力の向上を目指す。
- (ウ) 各職種が学んだ知識や技術について伝達研修を実施し、センター全体のスキルアップに繋げる。

【数値指標】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	職員数 (常勤換算)
51,960 千円	予防支援 1,393 件	72 件	4,800円	61,921千円	8.4名
	マネA 660 件	42 件	4,800円		

猫実高齢者デイサービスセンター

2025年度は、地域での暮らしを支えられる支援体制の充実と創造を図ることを重点目標とし、在宅で健康な暮らしができるように栄養、運動、口腔機能の維持・向上を目指し、他職種と協働で、朝・夕食、栄養補助食品の支援の開始や、その支援の定期的な評価を行ってきた。

2026年度からは浦安市の指定管理ではなく直営となるが、地域にとっての社会資源として、より一層の役割を果たすべく、定員数の増加や新たな取り組みを行っていく。また、DXを積極的に進め、業務の更なる効率化を図るとともに、サービスの質の向上につとめ、利用者へ還元していく。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業計画】

1. 地域に必要とされるサービスの提供
 - (ア) 多職種共同で朝・夕食、栄養補助食品の支援を継続するとともに、利用者・家族へフィードバックを行っていく。
 - (イ) WEBでの行政手続きをサービス利用中に行うことができる支援開始を検討し、家族・ケアマネジャーと連携し、利用中に手続きができるような体制を整える。
 - (ウ) 家庭事情などにより買い物不便のある利用者に対し、利用時に注文・受け取りができるような買い物手続き支援サービスの体制を整える。
 - (エ) 利用定員数を25人から30人へ増やし、より多くの高齢者を支援できる体制を整える。
2. 職場への「理念浸透」
 - (ア) 法人理念浸透のために職場にて研修を実施する。
 - ①法人理念と施設理念・経営方針を確認し、自分たちの行動に置き換えて考え実践する。
 - ②経営について考え、自分たちができることまで考える。
 - ③理念・経営についてなぜ考える必要があるのかを自分の言葉で表現する。
 - (イ) 職場内の職員全員が目にする場所へ理念、経営方針の掲示をする。
 - (ウ) ミーティングや職場会等、業務検討の場では理念を意識して進める。
3. 職員が安心して長く働ける職場づくり
 - (ア) 介護テクノロジーの積極的な導入により、業務の標準化と集約化で生産性の向上を進

め、職員の身体的負担の軽減、残業時間の削減を行う。

【数値指標】

	介護	総合
利用者定員		30名
利用者延べ人数	6,364名	744名
一日平均利用者数	21.9名	2.4名
稼働率	73.1%	7.9%
稼働日数（延べ）		308日
単価 （一人一日当たり）	8,971円	30,173円
サービス活動収益		71,730千円
常勤換算職員数		13.0人

介護老人福祉施設 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター
障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸

2025年度松戸愛光園では、松戸地区内での法人連携や松戸市との防災連携に取り組むことができた。各施設や各事業所で行っていた在宅サービス会議や防災訓練を合同で行うことで、より一体的なサービス支援と利便性の向上を図ることができ、災害時のリスク管理についてはより現実的な対応や対策が明確になった。また、権利と尊厳を守るケアの実践のため関東ブロック全体で聖隷の理念について理解を深めることができた。

2026年度は質の高いサービスを提供するために、法人理念の浸透と松戸地区での連携強化により総合力を生かす方法を検討する。質の高い介護サービスを継続的に提供するためには、職員が安心して長く働くことのできる職場環境の整備が不可欠である。人材育成の推進や生産性向上、ICTの活用を通じて働きやすく、専門性を発揮できる職場づくりに取り組む。

【施設理念】

『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する。』

【経営方針】

1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

【事業・運営計画】

1. 安心・安全で自分らしい暮らしを支えることでQOLの向上を図る
 - (ア) 利用者一人ひとりの生活歴や価値観を尊重した個別ケアを推進する
 - (イ) 日々の生活における選択や意思決定を大切にする利用者主体のサービスを提供する
 - (ウ) 自立支援・重度化防止のため、個別機能訓練・栄養管理・口腔管理を一体的に提供する
 - (エ) 入居時のアセスメントや在宅サービス・医療機関と情報共有し、ACPについて利用者・家族・職員が共通理解を持てる仕組みを構築する
2. 職員が安心して長く働ける職場づくり
 - (ア) 施設内外での職員交換研修を行い、広い視野を持った人材育成を進める
 - (イ) 職種別やリーダー層を地区で育成する仕組みを模索する

- (ウ) 身体機能に合わせた介護技術の実践や適切な福祉用具・機器の活用が浸透し、職員の腰痛予防・身体的負担の軽減に努める
- (エ) 既存 ICT の再評価と AI 議事録を促進するとともに、事業別 ICT を導入し業務省力化を進める
- (オ) 認知症介護実践者研修を受講した職員を中心に職員の認知症対応力向上を図る
- (カ) 職員の交流機会を作り、相談や話しやすい職場・人間関係を構築する
- (キ) 職場毎に 3~5 連休以上の休暇取得を促進する

3. 地域共生社会の実現

- (ア) 高齢者福祉と障害福祉サービスを統合的に提供できる体制の再検討を行う
- (イ) 短期入所・通所介護・訪問介護・居宅介護支援事業と相談支援事業では、各サービス事業の連携強化により地域ニーズに合わせた支援を行う
- (ウ) 介護予防から継続的な支援を行うことで安心して暮らし続けられる地域づくりに貢献する

4. 経営改善と松戸地区の連携を強化し事業安定を図る

- (ア) 空床ショートステイを本格稼働し機会損失を低減する
- (イ) 老朽化した設備や機器の更新を計画的に実施する
- (ウ) 松戸ニッセイ聖隷クリニックとの協力・連携体制を推進する
- (エ) SNS を通じてタイムリーな情報発信と地域の皆様の利便性向上を図る

5. 地域における公益的な取り組みと社会貢献活動の実施

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と合同で、地域清掃活動を行う
- (イ) 大規模災害に備え松戸市と合同で福祉避難所開設訓練を実施する
- (ウ) 地域貢献委員会を中心に地域ニーズを把握し新たな活動を開始する
- (エ) 介護保険利用者負担軽減制度の利用継続

【数値指標】

入所・短期入所・通所関係事業

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護保険	障害	介護	総合	障害
利用者定員	103名	21名		34名		
利用者 延べ数	36,659名	6,590名	176名	6,383名	1,452名	604名
一日平均 利用者数	100.4名	18.0名	0.5名	20.7名	4.7名	2.0名
稼働率(%)	97.5%	88.3%		80.6%		
稼働日数 (延べ)	365日	365日		308日		
単価 (一人一日 当り)	15,901円	15,988円	12,381円	10,505円	36,760 円/月	10,353円
サービス 活動収益 (千円)	582,905 千円	107,544 千円		80,233 千円		
職員数 (常勤換算)	74.6名	12.6名		13.6名		

居宅介護支援事業

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価 (円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換 算)
介護	予防	介護	予防				
2,246件	630件	17,805円	4,729 円	22件	4,400円	42,970千円	5.2人

障がい者(児)相談支援事業

年間請求件数	平均単価(円)	サービス 活動収益(千円)	職員数 (常勤換算)
247件	14,247円	3,519千円	1.0人

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園 横須賀愛光園デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷ケアプランセンター横須賀 聖隷看護小規模多機能横須賀
西第二地域包括支援センター

横須賀・三浦地域では、高齢化率の上昇と生産年齢人口の減少が加速しており、高齢者施設は増えている一方で福祉サービスの担い手はますます不足している。2026年度横須賀愛光園は、地域の将来の利用者や職員から「選ばれる施設」となるべく取り組んでいく。聖隷 DX を推進し組織の運営力をアップデートすると同時に事業所間連携により組織の柔軟性を高めることで、サービスの質を一層向上させ、地域との繋がりや信頼を高めていく。また、地域に出向くだけでなく現在と将来の地域ニーズを把握し今後のサービスの在り方も検討していく。これらを実現するために、一人ひとりの職員が心身共に健康で、聖隷の理念の実践を感じながら主体的に地域課題の解決に取り組んでいける施設づくりを推進していく。

【施設理念】

『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】

1. 地域ニーズに合わせて連携し切れ目のない地域福祉を展開する
2. 互いに補い合い安全でやりがいのある職場風土を醸成する
3. 職員の資質向上と多様な人材が活躍できる体制を構築する
4. 一人ひとりが決められた時間で良質なサービスを提供する

【事業計画】

1. 「最高の質」のサービスの追求
 - (ア) 認知症の専門研修と職場内 OJT 実践を通じて認知症ケアを向上させ、定着を図る。
 - (イ) 事業所間の職員交換・研修を行い、シームレスで一貫性のあるケアの提供体制を築く。
 - (ウ) 接遇研修や好事例の共有、利用者アンケートなどの客観的評価を組み合わせ、接遇レベルの改善サイクルを確立する。
 - (エ) 生産性向上活動を継続し、専門職が専門性の高い業務を効率的に行える環境を実現する。
2. 未来を担う人材の育成
 - (ア) 事業団理念、施設理念の浸透を図る。
 - ①聖隷の歴史・創設の精神と事業の歩みを学ぶ研修を実施し、全職員で共有する。
 - ②各職場で対話型研修を実施し、業務の意義や理念との結びつきを再確認する。
 - (イ) 相談部門や訪問介護へ職場体験を実施し、資格取得や専門性向上の意欲を高める。

- (ウ) 資格取得のための支援制度や、資格取得後の継続的な支援体制を構築する。
- (エ) マネジャー層へマネジメント教育を実施し、組織の指導・育成体制を強化する。

3. 聖隷 DX と健康経営の推進による働きやすい職場づくり

- (ア) AI や自動音声入力を活用した記録業務を定着させ、記録に費やす業務時間を削減する。
- (イ) 各職場や委員会での業務プロセスを見直し、ペーパーレス化を推進する。
- (ウ) デジタルチャネルを活用した広報機能を強化し、利用者・家族、未来の職員、地域社会へ向けて園の魅力を発信し、園の認知度を向上させる。
- (エ) 「Pep Up」の登録率を向上させ、職員の健康維持・増進の取り組みを推進する。
- (オ) インシビリティ教育を定期的実施し、各職場の心理的安全性を高める。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域のイベントや社会貢献活動に参画し、地域との連携強化、信頼度向上を図る。
- (イ) 地区ボランティアセンターと協働し、地域住民向けの認知症講座などを企画、実施する。
- (ウ) 地域住民によるボランティア活動、学生の福祉体験、慰問活動を積極的に受け入れる。
- (エ) 高齢者・障がい者などの地域ニーズを把握し、今後のサービスやエリア展開を検討する。

【数値指標】

	特養入所		短期入所	通所介護		看護小規模多機能型居宅介護	地域包括支援センター
	従来型	ユニット型		介護給付	総合事業		
利用者定員	65名	40名	15名	30名		25名	—
利用者延人数	23,132名	14,279名	4,161名	6,667名	708名	4,803名	—
一日平均利用者数	63.4名	39.1名	11.4名	21.7名	2.3名	13.2名	—
稼働率	97.5%	97.8%	76.0%	81.2%		—	—
稼働日数	365日	365日	365日	308日		365日	—
単価	13,526円	16,285円	12,960円	11,055円	6,153円	367,310円	—
サービス活動収益	312,900千円	232,540千円	55,840千円	80,580千円		91,240千円	54,300千円
常勤換算職員数	40.1名	29.2名	5.4名	9.8名		12.9名	7.3名
	訪問看護		訪問介護			居宅介護支援	
	医療給付	介護給付	介護給付	総合事業	自立支援	介護給付	予防給付
利用者延人数	3,305名	7,369名	6,720名	720名	2,100名	1,812名	264名
一日平均利用者数	9.1名	20.2名	18.4名	2.0名	5.7名	—	—
稼働日数	365日		365日			365日	
単価	10,977円	9,700円	5,100円	4,300円	4,900円	17,500円	4,500円
サービス活動収益	108,330千円		45,580千円			33,280千円	
常勤換算職員数	13.5名		4.1名			4.1名	

在宅・福祉関西ブロック

地域で必要とされる聖隷であり続けるために、地域ニーズを掴み、新たな事業・取り組みを進め、既存・新規それぞれの業務が、相互に繋がっていることを意識し、その結果として利用者に質の高いサービスを提供できる組織体制を目指す。また、在宅・福祉事業だけでなく、同じ地域で事業展開している他事業部とも積極的に連携をはかり、互いの事業理解を深めることで、より地域に根差した福祉事業の展開を進めていく。

2025 年度に行った宝塚エリアの給食委託業者の変更は、費用削減と提供方法を大きく変更することとなった。DX 化推進も継続して取り組んでいく中、業務内容も更新していく必要がある。

【2026 年度目標】

地域に必要なサービスを捉え、提供体制を整える

【2026 年度重点目標】

1. 業務の ICT 化をさらに進め、サービスの質の向上、職員のモチベーション向上へ繋げる
2. 地域福祉の成長に貢献する
3. 地域が必要とするサービス提供の実現に向けて取り組む
4. 法人理念を浸透し、職員個々が基本理念や行動指針に基づいた目標に取り組む
5. 職員がやりがいを持って働きたいと思う職場環境、健康経営を継続する
6. 地域課題に対し、老築化した建物・設備も踏まえた将来計画を構想する

【宝塚第 1 エリア】

地域に必要な事業として 2025 年度に開設した、就労支援・就労移行支援事業、24 時間定期巡回訪問介護看護事業は、宝塚第 1 第 2 エリア全体で育てていかなければならない。特に就労支援事業は、事業所利用希望者とのマッチングに向けた取り組みを進めていく。

結いホーム宝塚は、近隣に同様施設の開設が相次ぐ中、厳しい運営が続いている。選ばれる施設、入居することに価値を見出して貰えるよう、丁寧な営業活動を継続していく。

- ① 2 年目事業の運営安定化
- ② 結いホーム宝塚の稼働率向上

【宝塚第 2 エリア】

花屋敷せいの里内において、看護小規模多機能型居宅介護事業所を開設し総合力を活かし、地域福祉に貢献していき、花屋敷栄光園では大規模修繕を実施し、利用者が安心して暮らせる施設運営に取り組む。また宝塚第 6 地区西地域の中山地区においては拠点を活用し宝塚第 1 エリアと協同して地域活動と並行して既存の在宅事業の展開を継続して進めていく。

- ① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の運営安定化
- ② 北神戸エリア（訪問看護、居宅介護支援）の事業強化

【淡路エリア】

淡路エリアにおける vision2030 に向け、聖隷淡路病院と地域に根差した継続可能な事業展開を計画的に進める。施設・在宅サービス事業においては、聖隷 DX の検証と更新及び在宅医療・介護の充実、看取り・口腔ケア・リハビリテーション・認知症・高医療・重度者への対応を強化する。保育事業においては、一般保育の充実と児童発達支援、子育て支援等に重点を置く。生産性向上ガイドラインに基づいた業務改善と機器・設備更新を推進し、サービスの質の向上と生産性の向上の両立を図る。

- ① 聖隷淡路病院と連携した事業スキーム、最適な人材確保の整備
- ② 淡路市の人口動向を見据えた、事業展開の構想

【保育宝塚淡路エリア】

宝塚市、淡路市共に少子化は大きな課題であり、数年先を見越した運営を考える必要がある。また、職員が異動を通して各園の良いところに目を向け、それを活かせる人材の育成を心がけ、4園が安定した保育を行っていくことを目指す。職員採用の対応として、早期に就職フェアや学校訪問、若手職員と学生の交流会等を計画し人事部関西採用センターと協力しながら進めていく。

- ① こども園夢舞台と児童発達支援事業の連携
- ② 児童館運営の在り方を行政と協議
- ③ 逆瀬川あゆみ保育園の事業存続、テナント契約の協議

宝塚せいのりの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター
聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護支援センター
聖隷チャレンジ工房すみれ

2025年度、在宅事業は収益増加や経費抑制にて収支改善が見られたものの、特養・短期入所・就労支援事業に関しては非常に苦戦した。それぞれの事業が自事業の稼働や収支に意識的に取り組むとともに、相互が関連していることも認識し、どう連携することがより効率的・効果的な運営、サービスの質の向上に繋がるのかをテーマに一体感を持って取り組んでいく2026年度としたい。

人員体制については、不明瞭な理由による退職者は減少しているものの、疾病や心身の不調による傷病休職者は一定数おり、職員定数を維持した職場運営が難しかった2025年度だった。職員の健康管理や変化の早期発見に対する意識を高めるとともに、職員個々が自身の強みを発揮できる機会を持ち、ワークエンゲイジメントの向上や働き続けたいと思える施設運営・職場作りに継続的に取り組む。

2025年度は補助金を活用しながら設備の更新を行った。ICT機器や介護ロボットの導入は2026年度も引き続き計画的に行っていくが、職員が主体的に情報収集や選定に関わり職員間に浸透していくことを大切にしながら、入居者の生活の質やケアの質を上げることができているのか、導入後の検証も行いながら進めていく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 「安心・安全と穏やかに過ごせる」質の高いサービスの提供
 - (ア) アセスメント力を高め専門的見地で根拠を持った支援を実践する
 - (イ) 地域の多様なニーズに柔軟に応えられる職員を育成する
 - (ウ) ACPを浸透させ、利用者・家族と対話を重ね、ケアプランや日々のケアに反映させる
 - (エ) 誤嚥性肺炎・尿路感染・転倒骨折による入院者減少に向けたチームケアを強化する

- (オ) 利用者の個別性を押さえた基本的なケアの質を再確認・向上させる
- 2. 施設や事業機能を活かした繋がりあるサービスの提供
 - (ア) 権利擁護に対する意識を強化し、個人の尊厳や権利を大切にされた支援を行う
 - (イ) 障害分野と高齢分野の垣根のない連携とサービス提供体制を構築する
 - (ウ) 送迎サービスを効率的に行う
 - (エ) ショートステイと宝塚せいの里内施設の空床利用との一体的運営の精度を上げる
 - (オ) 地域交流や社会参加を意識した支援を行う
- 3. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり
 - (ア) マネジャー・リーダーを中心としたフロアマネジメントを確立する
 - (イ) 職員個々が自身の強みを生かすことができ、ストレスチェックにおけるワークエンゲイジメントが2025年度比で向上する
 - (ウ) 介護ロボットやICT機器、AIを職員個々が主体的に活用し、利用者の満足度が2025年度比で向上する
 - (エ) 喀痰吸引等医療的ケアと認知症ケアの専門性を高める
 - (オ) 事務部門の人材育成と機能強化を計画的に実施する
 - (カ) 目標参画において、各職員が基本理念や使命を体現する目標を設定し、C判定がない
- 4. 運営安定化の推進
 - (ア) 部署間の応援体制の柔軟性向上と非常勤職員の業務範囲拡大を図る
 - (イ) 給食提供体制変更に伴い、安定した提供と食数管理に努める
 - (ウ) 施設の特長を外部へ効果的に広報し、新規利用者を確保する
 - (エ) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
 - (オ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- 5. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域生活支援会議を継続的に共催し、地域のセーフティネットを構築する
 - (イ) 福祉避難所・地域の拠点として、コミュニティの防災活動に参画する
 - (ウ) 施設周辺の環境活動に地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護	聖隷チャレンジ工房すみれ	
	ユニット	ユニット	一般	就労支援B型	移行支援
利用者定員	100名	20名	30名	14名	6名
利用者・請求延べ数	35,587名	7,117名	7,637名	1,653名	702名
一日平均利用者数	97.5名	19.5名	24.7名	6.9名	2.9名
稼働率	97.5%	97.5%	82.3%	49.2%	48.3%
稼働日数(延べ)	365日	365日	309日	241日	241日
単価(一人一日)	17,907円	16,405円	12,769円	11,390円	13,708円
サービス活動収益(千円)	637,282千円	116,756千円	97,521千円	18,828千円	9,623千円
職員数(常勤換算)	80.2名	13.8名	16.3名	2.7名	2.5名

	居宅介護支援		権利擁護 支援センター	合計
	介護	予防		
年間請求件数	2,984件	180件		
平均単価(円)	18,080円	4,260円		
サービス活動収益(千円)	55,521千円		25,018千円	960,549千円
職員数(常勤換算)	8.7名		4.1名	128.3名

宝塚せいの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

2025年度、ケアハウス宝塚では入院者・退居者が例年よりも多く稼働に影響を与えた。長くケアハウス宝塚で生活されていた方が年齢と共に入院やご逝去となることが増えてきた。新たに入居される方の高齢化も相まって平均年齢は年々上昇している。2026年度も入院者数や退居者数が2025年度並みに想定される中で、近隣には競合施設が開設しており、待機登録者の獲得は非常に困難な課題となっている。施設検討者や地域の方々が知りたいコンテンツを届けるために、法人内の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所とは継続的に連携し、効果的な広報活動を行っていく。

ケアハウス宝塚は、2024年度より夜勤体制の変更、ユニット体制から1フロア体制への移行、入浴や夜勤業務におけるフロア間のフォロー体制構築、レクリエーション等でのフロア間交流、職種を問わない連携体制構築、ノーリフティングケアへ向けた機器検討等、人員体制が整わない中でも、具体的な取り組みを進めてきた。2026年度これらを継続・浸透させていくことで、さらにチーム力を高めていく。

ケアハウス宝塚は特定施設入所者生活介護の介護保険施設として、特養に比べ幅広い介護度の入居者をこれからも受け入れていく。入居しても自宅で送っていた生活の継続を意識し、買い物、外出、趣味活動などが続けられるよう支援していくと同時に、ケアハウス宝塚で最期までどのような生活を送っていくのか、ACPを入居者・家族と共に考え、支援していくことができる職員の育成を図る。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援の提供
 - (ア) 自宅での生活からの継続性と、地域交流や社会参加を意識した支援を行う
 - (イ) ACPを浸透させ、入居者・家族と対話を重ね、ケアプランや日々のケアに反映させる
 - (ウ) 入居者同士の交流も意図したレクリエーションや季節を感じられるイベントを継続的に実施できる体制を構築する

2. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

- (ア) マネジャー・リーダーを中心としたフロアマネジメントを確立する
- (イ) 入居者の尊厳や想いに寄り添える姿勢・接遇を強化する
- (ウ) 入居者の意向や変化に対して、多職種で合意形成する力と実践力を高める
- (エ) 誤嚥性肺炎・尿路感染による入院者減少に向けたチームケアを強化する
- (オ) 入浴・排泄場面でのノーリフティングケアを進める
- (カ) 職員個々が自身の強みを生かすことができ、ストレスチェックにおけるワークエンゲイジメントが2025年度比で向上する
- (キ) 目標参画において、各職員が基本理念や使命を体現する目標を設定し、C判定がない

3. 運営安定化の推進

- (ア) フロア間の応援体制の柔軟性向上とケアサポーターの採用・業務範囲拡大を図る
- (イ) 給食提供体制変更に伴い、安定した提供と食数管理に努める
- (ウ) 施設の特長を外部へ効果的に広報し、安定した待機登録者数を確保する
- (エ) ICT機器・AIの活用にて、申送りや事務作業の効率化を図り、超過勤務を20%削減する
- (オ) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (カ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域生活支援会議を継続的に共催し、地域のセーフティネットを構築する
- (イ) 福祉避難所・地域の拠点として、コミュニティの防災活動に参画する
- (ウ) 施設周辺の環境活動に地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付きケアハウス
利用者定員	70名
利用者延べ数	24,911名
一日平均利用者数	68.2名
稼働率	97.5%
稼働日数（延べ）	365日
単価（一人一日当り）	14,986円
サービス活動収益（千円）	373,325千円
職員数（常勤換算）	42.4名

宝塚せいのりの里

介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2025年度は、昨年につき、競合する有料老人ホームの新規開設が増加した影響により、待機者確保はもちろん新規入居契約も厳しい状況が続いた。また、入居者のご逝去が例年比べると多く、入居率が上がらない状況で苦戦した。入居率の回復と空き居室の利用を目的で6月より、ショートステイの受け入れを開始し、毎月約3名の方が利用され、2居室分の利用をしてもらっている状況であり、入居としても5名の方が新規入居につながっている。入居者獲得に向け、新たな広告媒体を利用し、結いホームを知ってもらい興味を持ってもらうこと、戦略会議として、介護・看護職場長と相談員が集まり、入居募集活動の在り方、渉外活動方針決め話し合い入居者獲得をするために何が必要なのかを議論し行動に移している。入居者生活における活動としては、レクリエーション活動、季節感が感じられる行事企画、リハビリ活動など日々の生活の中でメリハリが持ち充実できるよう取り組んでいる。

2026年度は、職員の質の向上（待遇・虐待防止）と介護技術の見直しを重点として、勉強会の実施、誰もが指摘できる環境作りを行う。また、入居者のレクリエーション活動、行事企画を増やし、入居者、家族が安心・安全・やりがいを持ち日々の生活を送れるようにしたい。機器に関しては、眠りスキャン、移動リフト、歩行ロボットなどICT機器や介護ロボットを導入し業務効率に向けた評価をしているが、入居者ケアの質に関しては評価ができていないため評価を行い入居者アセスメントに活用していく。人件費・運営費は増加し、設備面では想定よりも早い段階で故障が発生しており、安定した運営を続けるためにも、収入・支出のバランスを常に考えた運営を目指しいき、聖隷理念・施設理念を周知し職員ひとり一人が行動に移せるように取り組む。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもってお一人おひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

【事業・運営計画】

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供
 - (ア) 聖隷理念の継承と行動指針に基づいた取り組み
 - (イ) 不適切ケア・身体拘束・虐待の防止の取り組み
 - (ウ) 相手が不快に思わない接遇

- (エ) 入居者・家族・地域にも楽しんでもらえるイベント・家族との外出企画
- (オ) ACP の考えを多職種と共に考え、毎日の生活に生きがいを持ってもらう
- (カ) 食べることの楽しみ、満足できる食事の提供を委託業者と考える

2. 職員一人ひとりを大切にできる職場環境・職員育成の推進

- (ア) 職場の魅力・強みを語れる職員、次世代役職者・リーダーの育成
- (イ) フロアを跨いだ応援・勤務体制をより一層強化
- (ウ) 職場でのストレス軽減できる取り組み
- (オ) 介護ロボットの新たな導入と AI 議事録を活用した業務負担の軽減
- (カ) 施設内外交換研修を行い有料老人ホームの職員の役割を知り実践

3. 安定した施設運営

- (ア) 有償利用や体験利用も視野に入れた新入居調整を行い、予算稼働率を維持
- (イ) 渉外活動の強化、毎月の収益・周知を把握し取り組むべきことを考え実行
- (ウ) 防げる空床や退去（骨折、尿路感染などの入院）をなくす
- (エ) 職員採用を意識した情報発信など採用センターと協力
- (オ) 経年劣化を見越した計画的な修繕を実施

4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

- (ア) まちづくり協議会活動やサロン活動において協働・側面的支援
- (イ) 介護者や地域のニーズを把握しながら、宝塚せいいの里介護技術講座を展開
- (ウ) 宝塚市社会福祉法人連絡協議会や第 4 地区地域生活支援会議にて具体的なセーフティネット形成に参画

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 水光熱の効率的運用を図り、使用量の前年比減
- (イ) 施設周辺の環境活動

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100名
利用者延べ人数	35,040名
一日平均利用者数	96.0名
稼働率	96.0%
稼働日数（延べ）	365日
単価（一人一日当り）	18,183円
サービス活動収益（千円）	637,147千円
職員数（常勤換算）	63.3名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園、短期入所生活介護

2026年度は宝塚市内で最も歴史のある特別養護老人ホームとして開設48年目を迎える。特別養護老人ホームは、地域の方にとって『最後のとき』を安心してむかえたい」という希望を叶えるための「介護における『最後の砦』」である。宝塚栄光園はそのために存在し、職員は利用者サービスを提供している。2026年度も利用者の想いに寄り添い、QOLの維持・向上、利用者へのサービスの質を確保していく。そのためにも介護ロボットやICT機器のデータ活用を積極的に行い、業務の効率化を確実なものとする。また、地域へ赴き、多様なニーズへの対応を行える人材育成を行い、これからも地域で必要とされる福祉施設であると同時に、地域の方々が自立した生活を継続できるよう発信、関りをもっていきたい。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい・疾患・要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

【事業・運営計画】

1. 利用者のために

- (ア) 看取りケアの質が向上するため、入居者の状態変化を逃さず、状態に合わせたACPアプローチを実施する。
- (イ) 利用者の拘縮予防・安心安全な移乗を実践するため、ノーリフティングケアを実施する。
- (ウ) 認知症ケアの質を向上するため、認知症介護実践者研修を3名以上が受講し、受講済みの正職員数が過半数以上を維持する。
- (エ) 利用者へ安心・安楽・安全な質の高いケアを提供するため、導入しているICT機器及びデータの活用を実施する。
- (オ) 利用者へ質の高いサービスを提供するため、法人理念・施設理念が浸透する研修会を年2回実施する。

2. 職員のために

- (ア) 職員の夜間体制の負担軽減のため、勤務体制の見直しを実施する。
- (イ) 職員の身体的な負担軽減のため、ノーリフティングケアを実施する。
- (ウ) 職員の知識・技術の向上のため、認知症やノーリフトケアの専門資格の取得・外部研修の参加を推進する。

3. 施設を守る

- (ア) BCP の対策強化のため、感染予防・防災対策・防犯対策・離設捜索・非常食の調理体験など定期的に訓練を実施する。
- (イ) 経営を安定させるため、入居・短期入所のベッドコントロールを図り、稼働率を維持する。
- (ウ) 利用者・職員が心地よい環境で過ごせるため、施設内の改修や整理整頓を実施する。

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 自治会活動に積極的に向き、地域との関わりを深める。
- (イ) ゆずり葉公園で実施している、阪神大震災の追悼行事への参加を継続する。
- (ウ) 地域の方々が安心して住み慣れた地域で過ごせるため、地域包括ケアシステムの施設の役割を地域の方々に伝える場を地域包括支援センターと協力して設定する。

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ。(個室：21室、2人室：3室、4人室：15室)

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70名	17名	87名
利用者延べ人数	24,637名	6,022名	30,660名
一日平均利用者数	67.5名	16.5名	84名
稼働率	96.4%	97.1%	96.6%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日
単価(一人一日当り)	14,521円	14,747円	14,630円
サービス活動収益	358,008千円	88,806千円	446,814千円
職員数(常勤換算)	46名	10.8名	56.8名

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区中州在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚、

聖隷巡回ヘルパーつなぐ宝塚、

聖隷逆瀬川デイサービスセンター

【事業・運営計画】

1. 「年を重ねても住み慣れた街に住み続けたい」その人の想いをかなえるための支援を提供する
 - (ア) 重度利用者、障がいがある利用者、喀痰吸引が必要な利用者、看取りケアが必要な利用者など、様々な利用者の想いに寄り添ったケアを実践していく
 - (イ) 活動と参加に目を向け、利用者同士の繋がりを大切にしたプログラムの実践を行っていく
 - (ウ) デイサービス利用者への機能訓練に ICT を活用し、利用者にとって目標やモチベーションにつながるリハビリを実施するとともに、リラクゼーションの空間を作り、サービスの質向上につなげる
 - (エ) 訪問介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護を一体的に運営し、在宅生活の継続を支える「切れ目のない支援」を実現する

2. この地域を支えるために、サービス継続可能な体制づくりを行う
 - (ア) 宝塚第二地区の事業所間での連携を強化し、在宅事業所とも連携を図りながら利用者を支えていく
 - (イ) 各事業所の職員がやりがいをもってチャレンジできる環境を整える
 - (ウ) 法人内外の研修に積極的に参加し、ケアの質を確保する
 - (エ) 各業務において ICT の活用を行い、記録業務の短縮と業務の効率を図り、生産性を向上させるとともに働きやすさ・サービスの質の向上を行う

3. 地域に必要なことは何かを考え、利用者がこの地域で安心して生活できるよう、「聖隷」の理念を実践できる人材の育成を行う
 - (ア) 各専門職が、他事業所へ根拠やアセスメントをもって情報を発信する
 - (イ) 各職員の目標に沿った人材育成・人事交流を行う
 - (ウ) SNS 等を活用し、地域に向けたブランディング戦略を実施する

4. 地域で必要とされる聖隷であるために、地域における公益的な取組み
 - (ア) 2022 年度より実施している地域サロン「あい会いサロン」を継続しつつ、クールシェアスポット等、住民が気軽に立ち寄ることができる場所として、また地域における介護の相談窓口「困ったときに頼れる聖隷」としての認知度を上げて、その役割を担っていく
 - (イ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)		
48.1人	1,462件	17,543件	36.8人	442人	4,250円	17,600円	94,756円	14.8名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	総合(月)		
29.9人	772.3人	9268人	96人	1,153人	11,000円	37,000円	109,205円	18.9名

地域密着型訪問介護事業（聖隷巡回ヘルパーつなぐ）

介護給付			単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	介護(人)			
12人	730件	8,756人	107,406円		15,500円	3.1名

宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚、聖隷ケアプランセンター宝塚、逆瀬川地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. その人が望む「在宅で最期まで過ごせる」が実現できる地域包括ケアシステムの構築
 - (ア) 施設を含め、地区内の看護職・医療技術職・介護職・相談職が連携し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を聖隷の総合力を活かし、在宅で支援できる体制を強化する。日々進化する在宅医療に対応できる人材の育成を推進する。
 - (イ) 各職種の強みを生かし、地域包括支援センターを中心に地域住民とのつながりの中で、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の啓発を継続して行う。また、法人内の施設に対しても、ケアセンター宝塚が中心となり、宝塚市全体でACPを実践できる働きかけを実施する。

2. 職員同士で支え合い成長していける環境、長く働き続けられる職場づくりと「聖隷」の理念を実践できる人材の育成を行う
 - (ア) 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する
 - (イ) 各事業所の職員がやりがいをもってチャレンジできる環境を整える
 - (ウ) 在宅事業にとどまらず、施設職員を含めた中での人材育成を目的とした交換研修の実施や人事交流を行う
 - (エ) ケアプランセンター宝塚において、看取りケースや困難事例に対して副担当を置くことにより事業所内でサポートができる体制を継続する
 - (オ) SNS等を活用し、地域に向けたブランディング戦略を実施する

3. 資源の効率的活用と生産性の向上
 - (ア) ICTを活用して、サービス提供表実績のやり取りの効率を上げる。また事業所間の記録の電子化を行う
 - (イ) 各業務においてICTの活用を行い、記録業務の短縮と業務の効率を図り、生産性を向上させるとともに働きやすさ・サービスの質の向上を行う

4. 地域で必要とされる聖隷であるために、地域における公益的な取り組み
 - (ア) 2022年度より実施している地域サロン「あい会いサロン」を継続し、クールシェアスポット等、住民が気軽に立ち寄ることができる場所として、地域における介護の相談窓口「困ったときに頼れる聖隷」としての認知度を上げ、その役割を担っていく
 - (イ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療	56人	584件	7,006件	10,308円	176,134円	24.6名
介護	146人	848件	10,181件	9,427円		
予防	20人	52件	627件	7,700円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
326 件	13 件	20,100 円	4,200 円	2,340 件	4,950 円	91,442 円	16.3 名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
予防	予防(委託)	予防	委託(委託)		
3,533 件	1,740 件	4,839 円	619 円	93,402 円	17.4 名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

2025年度は、介護職員、作業療法士の補充ができた一方で、人件費は増加したため、2026年度は、稼働向上の運営が求められる。重度の利用者だけではなく、軽度者向けの短時間サービスを継続させ、魅力あるデイサービスを目指し、今まで以上に職員各自が役割と責任を持ち、やりがいを感じながら仕事ができる施設づくりを行う。

【経営方針】

1. 利用者が在宅生活を継続できるよう、利用者の立場に立ったケアを提供する
2. 多職種と連携を行い、利用者に最適なサービスを提供する
3. 利用者、介護者がともに心豊かな生活を実現できる事業所作りに努める
4. 法人理念の浸透と職員の健康経営に取り組む
5. 地域に信頼される事業所として、地域貢献活動に積極的に取り組む

[事業・運営計画]

1. 利用者が在宅生活を継続できるよう、最高の質のサービスを提供する
 - (ア) 利用者・家族が安心できる、安全な介護サービスを提供する
 - ① 中重度・医療依存度の高い利用者であっても受け入れることのできる体制の継続
 - ② 職員への介護技術のOJT・OFF-JT機会を創出し、人材育成に努める
 - (イ) ICT機器（送迎表自動作成）の導入検討を行い、利用者1人ひとりの条件に合わせた対応と、作成時間の削減を行う。
2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるように支援する
 - (ア) 利用者それぞれが穏やかな時間を過ごせる個別ケアを提供する
 - ① 利用者個々の周辺症状に対応するために、生活歴を紐解いた個別の関わりを深める
 - ② 作業療法士と協働し、行動変化や日常生活における認知症の影響を評価する
 - (イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるように関わる
 - ① 介護負担尺度評価により、介護者自身の身体的・精神的健康を可視化する
 - ② 事業所と利用者家族が関係構築できる場「運営推進会議」「家族懇談会」を定期的に設ける
3. 法人理念を浸透と職員が健全に働けるように取り組む
 - (ア) 職員が理念を意識し連帯感を持って業務を行う
 - ① 聖隷の理念は浸透できる研修会を年2回（4月、10月）実施する
 - (イ) 健全な健康経営の継続を行い施設の活性化を図る
 - ① 働き方を変え、職員全体の超過勤務時間10%減少（2025年度比）に努める
 - ② 健康増進に向けた研修会を実施する（6月）

4. 地域における公益な取り組み

- (ア) 施設の地域開放を進め、地域活動の活性化を図る(クラブ活動、いき 100 体操等)
- (イ) 近隣の小学校との交流を行い福祉教育につなげる(車椅子体験、レクリエーションの参加)
- (ウ) 学生ボランティアや実習性の受け入れを行う

【数値目標】通所介護事業(聖隷逆瀬台デイサービスセンター)

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
24.4人	630人	7,564人	11.3人	780.1人	14,150円	31,712円	112,058円	22.8名

【数値目標】地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業(聖隷デイサービスセンターあゆむ)

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
6.8人	175.1人	2,101人	0人	0人	18,700円	0円	39,412円	6名

聖隷デイサービスセンター結い

2026年度は、地域密着型通所介護事業・地域密着につながる総合事業として、宝塚市第2地区の地域に貢献する事業所としての事業をこれまでより拡大して実施する。また、通所事業の利用者に対しては、自宅で転倒せずに活動できる生活を目標として、エビデンスに基づく転倒予防のための機能訓練の流れを再構築する。

【施設理念】

愛をもって人と地域に寄り添う

【経営方針】

1. 利用者が住み慣れた町、自宅で生活を続けられる「自分でやりたい！」を支援する
2. 地域貢献を積極的に行い繋がり「絆」を大切にする

【事業・運営計画】

1. 転倒を予防する質の高い機能訓練の提供
 - (ア) 専門的な評価を実施し、エビデンスのある機能訓練を個別に提供する
 - (イ) ご自宅環境や生活状況を的確に聞き取り、転倒予防計画を作成する
 - (ウ) モニタリングや運動メニューの見える化によるご利用者様の理解の向上
 - (エ) 「活動」「参加」の促進や継続ができる機能訓練を遂行する
 - (オ) 他機関のセラピストと共同し建設的な機能訓練計画をたてる
2. 利用者が「休まない」魅力的なデイサービスの実現
 - (ア) 満足度調査を実施し、ご利用様の意見を運営に反省させる
 - (イ) 他施設への見学や交換研修を行い、取り組みを参考にする
 - (ウ) 運動の間に短時間で行える季節の行事を取り入れる
3. 地域における公益的取り組み
 - (ア) 施設設備を開放し、地域住民が機能訓練を体験できる場をつくる
 - (イ) 地域の集会や避難訓練などに参加し、つながりを構築する
3. 働きがいのある事業所の運営
 - (ア) ICTを活用し、職員が安心して勤務できる環境を整える
 - (イ) 事業団理念を浸透させ、目的に向けた事業目標・内容をスタッフと共有する

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用件数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（日）	予防（月）		
16.1 人	413 件	4952 件	73.6 人	883.5 人	7,000 円	30,000 円	61,418 円	10.6 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

施設理念に立ち返り、聖隷福祉事業団の他事業所等との連携の強みを活かしたシナジー効果による利用者サービスの質の向上を目指す。利用者や関係者のご要望に対して「できる方法」を考えて必ず「実行」する姿勢を示し、地域から感謝され感動を与える事業所運営を行う。

【施設理念】

地域の方のいのちと尊厳を守る為、福祉用具の専門性をもってサポートを行う

【経営方針】

1. 専門職としての連携に努め、法人内サービスとの相乗効果を高める働きかけをする
2. 活動地域の選択と集中、運営方法の見直しによるコストパフォーマンスの向上
3. 福祉用具の専門職としての専門性向上
4. 地域における公益的取り組み

【事業・運営計画】

1. 専門職としての連携に努め、法人内サービスとの相乗効果を高める働きかけをする
(ア) 福祉用具貸与を事業の軸に置き、付帯して住環境を整えるよう住宅改修工事や福祉用具販売を行う。「利用者の納得と安心を得る」ことを目的に多職種連携に努める
(イ) 請求ソフトの更新、ケアプランデータ連携システムの導入を行う
2. 活動地域の選択と集中、運営方法の見直しによるコストパフォーマンスの向上
(ア) 逆瀬川、花屋敷地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携を大切にする
(イ) 職員同士が協同して業務遂行できる運営体制を作
3. 福祉用具の専門職としての専門性向上
(ア) 利用者やケアマネジャーからのご要望に対して「何とかする力」を向上させる
(イ) 事例検討を行い、福祉用具専門相談員としての価値を再確認する
4. 地域における公益的取り組み
(ア) 地域住民向けのイベントに参加し、福祉用具の無料相談会を開催する

【数値指標】

年間 貸与件数	年間 貸与収益	年間 販売収益	年間 住宅改修収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
8,496 件	93,456 千円	65,900 千円	14,000 千円	175,956 千円	9.9 名

花屋敷せいのりの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション山本
花屋敷地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター花屋敷
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
聖隷看護小規模多機能花屋敷

2026年度も、人件費・物価高騰の中いかに安定した経営が継続できるかを求められる。ICT機器導入・評価を継続し、必要などころに人材を集中しスマートな運営を継続する。また、新たな事業開設や大規模修繕により利用者・職員にとってもやりがいと魅力ある環境につなげる。

2025年花屋敷栄光園は、利用者・家族・地域・職員その他多くの方に支えられ、在宅事業含め地域福祉に対して多角的な貢献を行った。2026年度はそれぞれの価値観の多様化が加速する中で、花屋敷せいのりの里の総合力を発揮し、地域福祉に大きく貢献し続ける1年とする。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

【経営方針】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり
4. 運営安定化の推進
5. 地域における公益的な取組み

【事業・運営計画】

1. 「安心して暮らせる」サービス機能を生かした繋がりある支援と定着
 - (ア) 看護小規模多機能型居宅介護事業所を開設し、必要な地域ニーズにより手厚く対応する。
 - (イ) 中山台地区の拠点を活用し、聖隷の総合力で地域福祉に貢献する。
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する。
 - (ア) 早期感染予防の取り組みを強化し、感染予防対応施設としてのモデル施設を目指す。
 - (イ) 多職種連携により、体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化を抑制する。
 - (ウ) リフトを活用したケアに取り組み、安心・安全の定着を図る。
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり
 - (ア) 目標参画を通して、職員全員が基本理念や行動指針に基づいた目標を立て取り組む。
 - (イ) 他法人と意見交換会等の場を開催し、役職者の知見を広げ育成を図る。
 - (ウ) 情報通信技術（ICT）を活用し、労働環境を向上させ、退職者が2025年度比で半減する。

4. 運営安定化の推進

- (ア) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する。
- (イ) BCP(事業継続計画)を見直し職員間で共通理解を深め、より実践的に訓練する。
- (ウ) 健全な健康経営を継続し、ストレスチェックにおける偏差値で全国平均以上を維持する。

5. 地域における公益的な取組みを通して、「聖隷ブランド」を発信する。

- (ア) 地域に向けた健康フェスタ・体力測定会等を通して地域活動に取り組む。
- (イ) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める。
- (ウ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む。

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業・複合型サービス

	特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護						
					通常	予防					
利用者定員	108名		12名		35名						
利用延数	38,349名		4,240名		7,513名	1,176名					
一日平均利用者数	105.1名		11.6名		24名	3.8名					
稼働率(%)	97.3%		96.8%		79.8%						
稼働延日数	365日		365日		311日						
平均介護度	4.0		3.0		2.0						
単価(一人一日)	16,431円		17,487円		9,913円						
サービス活動収益(千円)	631,745千円		74,148千円		87,649千円						
職員数(常勤換算)	73.3名		8.9名		12.7名						
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)						
宝塚市受託収入(千円)	37,976千円		—	—	13,557千円						
年間請求件数	予防プラン 請求件数	2,700件	632件	440件	—						
	予防プラン 委託件数	360件									
平均単価	予防プラン 単価(円)	4,382円	19,008円	22,024円	—						
サービス活動収益(千円)	64,928千円		12,147千円	10,008千円	千円						
職員数(常勤換算)	10.5名				5.4名						
	聖隷訪問看護ステーション					聖隷ケアプランセンター					
	平均 利用者数	月訪問 件数	年訪問 件数	単価 (円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換 算)	年訪問 件数	単価 (円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換 算)	
	医療	41人	333件	3,995件	11,200 円	131,913 千円	16.9 名	—	—	—	—
	介護	104人	632件	7,590件	9,350円			3,806件	19,000円	72,629千円	10.4名
予防	40人	144件	1,773件	9,050円	72件			4,800円			
聖隷看護小規模多機能花屋敷											
登録定員	平均登録者 数/月	平均通い者 数/月	平均宿泊者 数/月	単価1人/月	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)					
29名	13.5名	130名	40名	35,000円	48,683千円	9.5名					

花屋敷せいのりの里

ケアハウス花屋敷

2025年度は継続的に入居待機者を確保でき、安定した事業運営を維持することができた。また、訪問介護事業所との連携により病院付き添いなどの外出援助にも対応できるようになっている。2026年度も「安心・安全なケアハウス花屋敷」を目指し、4月に花屋敷せいのりの里内に開設する看護小規模多機能型居宅介護事業所と連携を取りながら、体調が変化していく入居者の様々なニーズに対応できるようにシステムの構築に取り組み、花屋敷せいのりの里全体で支えていく。

【施設理念】

高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります。
2. よりよいサービスを提供します。
3. 地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1. 自立した生活が困難となった時に、希望される方が最期まで花屋敷せいのりの里内で過ごせるように、ケアハウス花屋敷での対応を強化し、花屋敷栄光園、在宅事業との連携強化を図る。
 - (ア) 状態が変わる入居者への対応力の強化を図る。
 - ①1年に1回以上の入居者モニタリングを行い、サービス必要性の有無を確認し、人生の最終段階においての意思確認を行っていく。
 - ②入居者満足度調査を年1回行い、入居者が必要とされるサービスを検討していく。
 - (イ) 職員の対応力向上のため、年間で計画した研修に職員が参加し、スタッフ全員で共有する。
 - ①アドバンスケアプランニング（ACP）・一次救命処置（BLS）は定例研修として1年に1回開催する。
 - ②認知症の研修会に職員が参加し、認知症ケアの理解を深める。
 - (ウ) 入居者の状態が変化し、回復が望めない場合の継続支援会議を定着させ、ケアハウス花屋敷で対応できる支援の幅を広げる。
 - ①多職種が参加できる会議とし、入居者に必要なサービスやケアを考える。
 - ②看護小規模多機能型居宅介護事業所と連携をはかり、ケアハウス花屋敷での生活を維持できるよう検討する。

(エ) 家族との連携を強化するため、デジタル技術を活用し定期的に家族へ情報を発信するシステムを構築する。

①入居者自身の考えや思いを定期的に確認し、日常の様子や言動から入居者個々の考え方・希望を把握し、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）などを活用し家族へ発信する。

2. 生活の中で楽しむこと、心地よく過ごせる環境を入居者のアイデアや協働により創っていく。

(ア) 喫茶運営が円滑にできるように、ロビーのシステムキッチンを入れ替える。

(イ) レクリエーションの充実をはかり、楽しみを持っていただくとともに入居者間のコミュニケーションを促進する。

①1年に1回以上の長時間外出レクリエーションを開催する。

②喫茶の利用者を増やし、入居者の閉じこもりを減らしていく。

(ウ) 入居者が社会に貢献できるようボランティア活動ができる仕組みを作る

①入居者企画のレクリエーションを開催する。

②定期的なボランティア活動の機会を提供する。

3. 人材確保と定着を図るための職場環境改善をはかり健康経営に努める。

(ア) 職員との面談を通して、やりたいことややりがいにつながることを共有しながら一人一人が企画したレクリエーションなどのサービスを実施していく。

(イ) ケアハウス花屋敷の認知度をあげるために、花屋敷せいの里内外で地域に向けたイベント開催に協力する。

4. 地域における公益的な取組みを通して、「聖隷ブランド」を発信する。

(ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める。

(イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む。

【数値指標】

利用者定員	100人
利用者延べ数	36,135人
稼働率(%)	99%
単価(一人一日)	4,454円
サービス活動収益(千円)	160,929円
職員数(介護:常勤換算)	5.8人
(相談員:常勤換算)	1.0人
(管理栄養士:常勤換算)	0人
(宿直員:人数)	4.0人

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

【事業・運営計画】

1. 理念の浸透を図り、日々の実践に反映できる人材と組織づくりを進める。

(ア) 専門性の強化と対応力のある人材を育成し、利用者が望む在宅生活を支援する。

- ① 小児病棟、小児訪問看護研修に参加し医療依存度の高い小児看護の対応力向上を図る。
- ② 心不全・呼吸不全療養者の再発重症化予防、精神科訪問看護の知識を深め、さらなるケアの質向上を目指す。
- ③ アドバンスケアプランニング (ACP) の取り組みを継続し、利用者の意思決定を支援する。
- ④ 退院時や発症直後の早期介入、切れ目のない支援体制と質の高いマネジメントを目指し、聖隷訪問看護ステーション北神戸、聖隷ケアプランセンター北神戸が連携し、在宅療養を強化する。

2. デジタル技術によるサービス向上及び業務の効率化を実現する。

(ア) 情報通信技術 (ICT) を活用し、病院、在宅医師を含む関係機関とタイムリーに情報共有し、迅速な対応と協働を進める。

(イ) やりがいからくる充実感を感じながら長く働き続けられるように、スケジュール作成ソフトの使用や生成型人工知能 (AI) 議事録作成を活用し、業務改善・効率化に取り組むことで、超過勤務の削減や有給消化率の向上を図り、健康経営および持続可能な事業運営を目指す。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 神戸市北区認知症初期集中支援チーム員に派遣し、初期対応に取り組み、その後の支援についても自施設での訪問看護・居宅介護支援の利用移行につなげる。

(イ) 神戸市委託事業介護予防講座の講師として派遣し、地域住民の運動、社会参加に協働する。

(ウ) 神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床教授、臨床講師を務める。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

年間件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
医療	介護・予防	医療	介護・予防		
6,435 件	5,530 件	9,847 円	9,169 円	50,704 千円	16.4 人

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
1,697 件	94.4 件	17,200 円	3,600 円	30,763 千円	4.9 人

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター
聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっこ
聖隷在宅介護支援センター淡路

2026年度の聖隷カーネーションホームは、淡路エリアにおける vision2030 に向け地域ニーズと人口動向に合わせた事業展開ができる基盤整備とリデザインを最優先とし、継続的に安定した質の高いサービスを提供できる施設を目指す。引き続き、医療と福祉の総合的なサービス連携と地域交流活動の充実に取り組み、利用者満足・職員満足・地域満足を高めていく。また、理念に基づくケアの提供が実践できる組織作り・人材育成を継続し、淡路島北部における総合福祉拠点の役割として、利用者に「安心と楽しみのある暮らし」を、職員に「働きやすい職場環境とやりがいのある仕事」を提供し、利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある福祉施設を目指していく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる
～『ともに咲き続ける』ために私たちは、～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 利用者や家族の意向を踏まえ、安心で楽しみのあるサービスを提供するとともに、障害・高医療・重度認知症など困難ケースの受け入れにも積極的に取り組む
 - (イ) 安全・安心・安楽な生活環境を構築するために、見守りカメラやリフト等の機器導入、居室の個室化を計画的に進めていく
 - (ウ) 利用者の QOL 向上のため、地域に向けた施設内行事の実施と地域行事への参加を企画し、社会性維持、地域交流の充実を図る

2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進
 - (ア) 理念や事業計画と連動した目標管理に取り組み、各職場や職員一人一人の目標達成を支援するとともに、次世代リーダー候補者の発掘・抜擢・育成を行う
 - (イ) 職員の安全確保及び身体的負荷軽減介護のために、移乗支援機器の推進と機器更新に向けた検討と継続し、より長く働きやすい介護環境を整備する
 - (ウ) 地域での福祉人材発掘と雇用を促進するため、職員紹介制度の活用、地域雇用プラットフォーム事業に参画し、継続的な人材確保ができるスキームを確立する
3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善
 - (ア) 新規 ICT システムの導入により利用者管理業務の標準化、日常業務の効率化を図り、サービスの質の向上と生産性向上の両立を図る
 - (イ) 適切な加算管理・稼働率管理と聖隷淡路病院も含む合理的な人員配置を随時行い、より多くの利用者に対して付加価値の高いサービスを提供し、経営の安定化を図る
 - (ウ) 災害・感染症・事故の影響を最小限に抑え安心して生活できるよう、BCPに基づく訓練を計画的に実施し、リスク管理体制の強化を継続する
4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓
 - (ア) 在宅介護支援センター淡路を中心に「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続し、地域における潜在的な福祉ニーズを発掘する
 - (イ) 東浦地区における福祉避難所としての役割を意識し、防災・防犯を含む地域活動・交流を計画的に実施し、近隣地域との繋がりを深めていく
 - (ウ) 淡路地域全体の福祉の向上のため、施設間での相互支援、聖隷淡路病院との医療・福祉間連携、行政機関・他法人施設との連絡・連携を強化する

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54名	18名	25名		12名
利用者延べ人数	19,177名	6,405名	5,950名	866名	2,690名
一日平均利用者数	52.5名	17.5名	19.2名	2.8名	8.6名
稼働率 (%)	97.3%	97.5%	88.0%		72.2%
稼働日数 (延べ)	365日	365日	310日		311日
平均介護度	4.04	3.5	介護 2.4	支援 1.7	2.6
単価 (1人1日当り)	13,108円	12,141円	9,370円	5,416円	11,962円
サービス活動収益 (千円)	251,312	78,582	60,446		34,015
職員数 (常勤換算)	32.7名	8.0名	8.4名		3.7名
聖隷在宅介護支援センター淡路					
サービス活動収益 (千円)	6,200千円				
職員数 (常勤換算)	0.9名				

淡路栄光園

特別養護老人ホーム淡路栄光園
淡路栄光園デイサービスセンター

2026年度の淡路栄光園は、引き続き「生活の質向上」を最重要課題と位置づけ、安心して快適な生活を支える支援の質をさらに高めていく。これまでの取り組みを基盤としつつ、ICTの活用や地域とのつながりをさらに強め、職員の専門性を高めていくことで、利用者にとって満足度の高いサービスと、職員にとって働きやすい職場の実現を進めていく。また、看取りケアや医療的ケア、重度の認知症ケアなど、近年求められている支援への対応力を高め、社会の変化に合った地域福祉サービスを提供できる施設としての役割を果たせるよう、着実に取り組みをすすめる。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 愛情と思いやりのあるサービスの実践
2. 地域の方々に信頼され、喜ばれ、選ばれるサービスの実践
3. 利用者の尊厳を守り、その人らしく安心して生活できるサービスの実践

【事業・運営計画】

1. 利用者、家族の期待に応えるサービスの提供
 - (ア) 利用者・家族意向に寄り添い、健康と安全をまもるケアを実践する
 - (イ) 医療機関と連携し、医療的ケアを必要とされている利用者の受け入れを拡大する
 - (ウ) 利用者の生活の質を高められるよう、介護・看護の専門スキルを向上させる
 - (エ) 目標参画を通して、職員全員が基本理念や行動指針に基づいた目標を立て取り組む
2. 働きやすい職場環境の構築
 - (ア) 介護負担の軽減につながる介護機器を選定し、導入計画を策定する
 - (イ) 職員研修を計画的に実施し、OJTやOFF-JT、視察研修で効果的な人材育成を図る
 - (ウ) 介護記録、計画書作成等のデスクワークの行程を再点検し、効率化案を策定する
 - (エ) 老朽化した設備の修繕を計画的に実施し、快適な生活環境を提供する
3. 生産性向上につながるICT機器の活用
 - (ア) 紙・口頭・個人判断に依存していた業務を整理し、ICT前提の業務手順へ見直す
 - (イ) 新規導入ICTシステム（ペーソート・LINEWORKS）活用にて、利用管理業務の標準化を図る
 - (ウ) 既存ICT機器については、「より使いやすくなる」活用の高度化と次段階への展開を図る
 - (エ) 利用者のバイタルサインを機器で検知し、タイムリーな看取り介護を実践する

4. 住み慣れた地域での暮らしを支えられる在宅サービスの提供

- (ア) 通所介護と短期入所の連携を強化し、包括的なサービス提供を実践する
- (イ) 地域行事、サロン等の活動参加を通じ、地域の方々と顔の見える関係性を構築する
- (ウ) 「施設入所しても地元に戻ることができる」よう、利用者が地域活動に参加できるように図る
- (エ) 地域ケア会議での情報共有を通じ、地域の困りごとへの協力と支援の可能性を模索する

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 兵庫県認定地域サポート施設として、岩屋地域の高齢者見守り活動を実施する
- (イ) ほっとかへんネット淡路の参加を通じ、市内の地域課題解決に向け関係機関と協働する
- (ウ) デイサービス営業時間内に移動販売を誘致し、買い物を通じて社会参加を支援する

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60名	19名	18名	
利用者延べ数	21,309人	6,748人	4,340人	279人
一日平均利用者数	58.4人	18.5人	14.0人	0.9人
稼働率	97.3%	97.3%	83%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	310日	
単価(一人一日当り)	12,904円	12,171円	9,803円	5,787円
サービス活動収益	274,975千円	82,128千円	43,950千円	
職員数(常勤換算)	38.0人	6.1人	6.3人	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路
聖隷ヘルパーステーション淡路
聖隷ケアプランセンター淡路
聖隷ライフサポート津名

2026年度の聖隷ケアセンター津名は、センター内事業所間の更なる連携強化と利用者から選ばれる事業所づくりを目標とし、聖隷 DX の推進を図り各事業所内での運営と経営の安定に努める。また淡路エリア内の組織力を活かすために、組織力推進の課題を見つける。そして聖隷福祉事業団の理念に基づいた人材育成とケアの提供を実施し、その人らしい在宅生活を支援できるようにする。

【施設理念】

聖隷ケアセンター津名の全事業所および全職員は利用者様の「その人らしい暮らし」が継続できるよう、お一人おひとりの価値観や意向に寄り添いながら、専門職チームでプロのケアを提供する。

【事業計画】

1. 質の高いサービス提供を行うための人材育成と人材活用
 - (ア) 各職種の専門性を伸ばせるよう、勉強会、研修会を企画実施する。(e ラーニング・オンライン研修の活用、外部研修への参加)
 - (イ) センター内事業所での事例検討会やカンファレンスを継続し、意見交換を活発に行い相互理解の促進と共有を行う
 - (ウ) 淡路エリア内における人材活用(他事業所への応援、人事交流)を推進する
 - (エ) 地域の方に必要とされるサービスが継続できるよう人材確保に努める
2. 働きやすい職場をつくる
 - (ア) 働きやすい職場づくりについて考え、実施する
 - (イ) 時間外勤務の削減の取り組みと有給や長期休暇取得推進を継続する
 - (ウ) 職員が交流する機会や場づくりを行う
 - (エ) 職場内で DX 推進を行う
3. 経営の安定化を図る
 - (ア) 各事業所が収入を意識した運営を行う
 - (イ) センター内での連携を図ることで加算要件取得を推進する
 - (ウ) 次期報酬改定を見据えた取り組みを行う
 - (エ) センター内連携の取り組みを発信する
4. 地域における公益的な取り組みを図る
 - (ア) 2027年3月にケアセンター祭りを開催し地域住民と交流を図る
 - (イ) 地域のボランティア活動等へ積極的に参加する
 - (ウ) 地域住民などに対する情報提供や相談、人材育成のための研修の実施を行う

(エ) 障害者雇用の促進を図る

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
352 件	10920 円	885 件	8810 円	60 件	8700 円
サービス活動収益		146,696 千円	職員数（常勤換算）		22.2 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

月間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
271 件	40 件	16660 円	4210 円	2 件	56,165 千円	9.7 名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
1110 件	4450 円	96 件	2800 円	173 件	4230 円	12 件	4520 円
サービス活動収益		72,235 千円		職員数（常勤換算）		7.6 名	

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

	介護給付		予防給付	
	延べ利用者数		延べ利用者数	
利用定員	6100 名		3273 名	
25 名	1 日平均数	23.7 名	1 日平均数	12.7 名
営業日数	単価（1 人 1 日）	6850 円	単価（1 人 1 日）	5200 円
日	サービス活動収益	58,876 千円	職員数（常勤換算）	10.9 名

聖隷こども園夢舞台

聖隷こども園夢舞台・聖隷こども発達支援事業所夢舞台

「2025年問題」と呼ばれる少子化による利用児童数がピークアウトを迎えている。自園においても入園児数の減少と建物の修繕費・人件費高騰に加え、食材費や教材費の高騰も経営を圧迫することが予想されるが、2026年度、新規事業として児童発達支援事業所が開設される。単なる「治療」や「訓練」に留まらず、子どもたちが社会の一員として豊かに生きていくための土台を築けるように尽力する。職員の負担増も懸念されるが、地域の多様なニーズに応えるべく、職員ひとり一人が理念について再度理解を深め、これまで以上に地域に愛される園を目指す。地域の特性や保護者の困りごとに寄り添い、細やかなサポートを提供していく。職員にとっても幸せや、やりがいを感じられる職場を目指し、ウェルビーイングな経営を心掛ける。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」（マタイによる福音書 22:39）

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活をする。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する
 - (ア) ひとり一人の子どもの発達段階や特性を理解し、それぞれに合った保育を提供する。
 - (イ) 子どもたちが自ら考え、選択し行動する機会を多く用意し、自主性や探求心を育む。
 - (ウ) 疾病管理やアレルギー対応、発育状況など看護師を中心として細やかな対応をする。
 - (エ) 子どもの発達、心理、健康に関する専門的な知識を獲得し、遊びの引き出しや危機管理能力など実践的なスキルを身に着ける。
 - (オ) 子どもへの愛情や共感、保護者への専門的なアドバイス・傾聴など利用者が安心できる関りを心がける。
 - (カ) 研修や自己研鑽を通じて常に最新の保育知識や技術を学び保育の向上に努める。
2. 聖隷こども発達支援事業所 夢舞台
 - (ア) 子どもたちの地域社会への参加・インクルージョンを推進するため、支援機関等の関係機関との連携を進める。
 - (イ) 「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「人間関係・社会性」の5領域をもとに個別支援計画を作成し、総合的な支援を展開する。
 - (ウ) 小集団療育を通じ仲間づくりや社会性を育むため、子どもの状態に応じて最適な療育形式

を組み合わせる。

(エ) 保護者の育児不安や困りごとに対して傾聴し、日々の小さな成長を伝えることで信頼関係を構築する。

(オ) OODA ループを意識することで、日々の支援の中で計画を柔軟に修正し、より効果的なアプローチを見つける。

3. 信頼され、選ばれ続ける園となるために

(ア) 園行事の様子や子どもたちの日常をドキュメンテーションや映像で保護者に発信していく。

(イ) 重大な事故にならないようにヒヤリハット報告を PDCA サイクルに組み込み、事故防止と業務改善を効果的に行う。

(ウ) BCP を活用し南海トラフ地震、その他の災害に対し実践的な判断・行動ができるように日頃の避難訓練を充実させる。

4. 地域における公益的な取組を継続実施する

(ア) 大学生・専門学生の受け入れを積極的に行い、雇用へ結び付けられるようにしていく。

(イ) 地域の子育て家庭の支援のひとつとして、必要な時に病後児保育事業が利用できるように、地域に向けて利用方法等の案内をしていく。

(ウ) 地域の子育て支援拠点として、給食試食会・ベビーヨガなど子育てイベントの充実を図り、毎週の園庭開放により、子育てで孤立する母の交流スペースを確保する。

【数値指標】

聖隷こども園夢舞台

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	5名	5名	15名	21名	22名	22名	90名
利用定員(1号)	—	—	—	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	5名	5名	15名	26名	27名	27名	105名
一日平均入所者数	5.3名	11.9名	19名	25名	19.3名	21名	101.5名
年間入所延人数	64名	143名	228名	300名	232名	252名	1219名
入所率	106%	238%	126.6%	96.1%	71.5%	77.8%	96.7%
開所日数(延べ)	289日(教育週数 49週)						
サービス活動収益	169,072千円						
職員数(常勤換算)	22.9名						

【実施事業】延長保育、障がい児保育、一時預かり保育、病後児保育

聖隷こども発達支援事業所 夢舞台

利用定員	10名	稼働率	36.0%
利用者延べ人数	858名	稼働日数(延べ)	240日
一日平均利用者数	3.6名	単価(一人一日あたり)	14,115円
職員数(常勤換算)	4.0名	サービス活動収益	12,111千円

野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ にじっこくらぶ (放課後児童クラブ)

クラスの垣根を越えて保育を保障し合い、自分以外のクラスの保育にも目を向け、互いの共通認識を持つことを意識し合う。他保育士の子どもへの声掛けや関わり、他クラスの保育の流れを知る中で、助け合う集団を作る。そして新しいことにも挑戦しながら保育の質の向上をめざしていく。仕事の優先順位に基づく取捨選択をし、保育のねらいに照らした業務の見直しを行う。事務作業を効率的に進め、ゆとりを持って子どもに向き合うために、定期的に各クラスの事務時間を確保することを目指す。

【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」 —エフェソ 5-2—

【経営方針】

1. 私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る
2. 職員と保護者が、良い関わりをもち、子どもたちの成長を共に喜び合う
3. 地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上への取り組み
 - (ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、園の理念や思いを分かりやすく保護者に伝えていく。子どもの主体的な活動の場を保障し、色々な企画を皆で構築する。子どもや保護者の些細な変化に気づき、早期アプローチを心がける
 - (イ) 異年齢児や小学生などとの交流を通して、子どもの視野や社会性を広げる。また、自ら活動する中で、SDGsを意識して取り入れられるよう環境を整えていく
 - (ウ) 子どもたちの姿や育ちについて保護者に伝える場として行事や懇談会、保育参加会を開催し、保育の可視化を図る。保護者が園の保育に積極的に参加できるような企画を検討する。子どもの個々の特性を職員間で共有し対応を考えていく
 - (エ) 野菜を栽培し生長に関わることで収穫することを喜び、日々の食に興味を持ったり料理に対して感謝したりする気持ちが育つよう年齢に応じた食育を展開する
 - (オ) 2つの放課後児童クラブ同士や小学校との情報交換や共有を深めていく。子ども達の安心できる生活の場となるよう意識を持ちつつ、保護者と共に考える姿勢を大事にし、子どもの育ちを支えていく
 - (カ) 保育園と児童館、放課後児童クラブが連携を取り、地域の子育て家庭に対する支援を行う。子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感し、保護者自身が子育てに自信を持ち、子育てを楽しいと感じることができるよう支援する
 - (キ) 会議では参加者全員が意見を言える場を設け、意思決定できるような在り方を継続する。また正職員やパート職員は互いの役割を尊重しつつ、繋がりを大切にして円滑な保育が実践できるようにする

2. 施設の安全管理

- (ア) 職員全体の防災意識を高めるよう、様々な事態を想定した避難訓練を実施する
- (イ) 引き渡し訓練を実施し、保護者への防災意識を高め、また取り組みを共有する
- (ウ) ヒヤリハット等の事例を検証し、再発防止に向けて取り組む。マニュアル等の確認を定期的に行い、いざという時に各自が主体的に行動できるよう日頃から備えていく
- (エ) 園庭の環境整備、園内の整理整頓など園全体で継続して取り組んでいく

3. 地区施設との連携

- (ア) 法人内の高齢者施設と定期的な交流を持つ
- (イ) 隣接の高齢者施設と交流を持ち、地域との関わりを大切にする

4. 「人づくり」への取り組み

(ア) 研修への参加など

- ①教育アドバイザーから助言を受けながら、実践を伴った研修の積極的な参加
- ②聖隷保育学会・階層別研修・あゆみ合同研修・キャリアアップ研修に参加
- ③逆瀬川あゆみ保育園の4歳児受け入れに向けての交流・引継ぎを実施
- ④園内研修で興味のある事に取り組み自主性や積極性を養い保育の質の向上を目指す
- ⑤保育職ラダーや目標参画、自己評価の活用により目的意識の明確化を図る

(イ) 次世代育成

- ①トライやる・ウィークや宝塚西高校生の実習、大学生ボランティアの受け入れを実施する。
実習生や学生アルバイトを積極的に受け入れ採用へつなげる

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 安全な環境のもと、積み木遊び、足育講座、伝承音楽遊びや観劇を計画する
- (イ) 地域のニーズを探り、子育て支援プログラムの充実化を図る
- (ウ) 子育て支援担当者による相談事業の充実

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	9名	10名	12名	14名	22名	23名	90名
一日平均入所者数	9名	15名	15名	14名	27名	24名	104名
年間入所延人数	108名	180名	180名	168名	324名	288名	1248名
入所率	100%	150%	125%	100%	122.7%	104.3%	115.6%
開所日数(延べ)	292日						
サービス活動収益	196,969千円						
職員数(常勤換算)	26.4名						

【実施事業】

一時保育事業、延長保育事業、障がい児保育、子育て支援事業、放課後健全育成事業

野上児童館

職員一人一人が児童館の役割を理解し、健全育成、子育て支援を意識して来館者に適切に支援できるようにしたい。子どもの遊びの拠点と居場所となり、必要に応じて家庭や地域の子育て環境の調整を図ることによって、子どもの安定した日常の生活を支援する。

子育て家庭に対する相談・援助を行い、子育ての交流の場を提供する。また、乳幼児を対象とした活動を実施し、参加者同士の交流を促進する。さらに、地域における子育て支援ニーズを把握するよう努める。来館者とのコミュニケーションを通し、配慮を必要とする家庭の早期発見に努める。また、関係機関との情報共有など連携をとり、児童館としての支援を行っていききたい。

【施設理念】 地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す

【経営方針】

1. 来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める
2. 地域のもつニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや子育てに不安を抱える保護者にとって、心やすらぐ児童館として地域の子育て支援の拠点を目指す
3. 関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティーワークを進める

【事業・運営計画】

1. サービスの質の向上
 - (ア) 乳幼児親子、小学生が気軽に参加できるプログラムを企画する
 - (イ) 食への関心、食への大切さが伝わるプログラムを企画する
 - (ウ) 2階ホールを、乳幼児親子、小学生が有効に使用できる方法を考える
 - (エ) 玩具、ゲーム等、安心安全に遊べる環境作りを目指す
 - (オ) 放課後子ども教室等、地域の活動に協力できるよう体制を整えていく
 - (カ) 保育園、学童保育と協力し、行えることを考える
 - (キ) 中高生世代対象の TeensTime、TeensRoom を居場所として定着させる
2. 地域との連帯の強化
 - (ア) 小学校、中学校などの関係機関との連携、地域連携交流会の参加を通し、地域との関りを深め、地域の子育て力の向上を目指す
 - (イ) 出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し地域の協力を得ながらニーズに見合った実施を進め定着させる
 - (ウ) 学校や地域とのつながりを意識し、行事等、児童館ができることを検討する
 - (エ) 来館者の悩み、心配ごとに寄り添い、来館者とともに考えていく
3. 職員の資質向上
 - (ア) 宝塚市児童館交流研修等へ積極的に参加をする
 - (イ) 子育て支援研修などより専門性を高めるための研修へ参加する

逆瀬川あゆみ保育園

少子化に歯止めが利かない現状と養成校の閉鎖など、今後の保育運営に対する不安は多々あるが、子どもの遊びに目を向け、無目的な遊びを見守り、そこから子ども自身で目的を見つけ、その目的が移り変わっていくプロセスを大事にする保育者の目を養いたい。

また、子どもと同様、保育者自身の声も尊重され、お互いに育ちあいながら、自分たちの望む保育の場を、子どもと共に楽しみながら作り出していけるような職場づくりを目指したい。

【施設理念】 キリスト教保育 「愛によって歩みなさい」

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る
2. ひとりひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する
3. 楽しい環境の中で主体性、創造性を育む

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育の基本方針について職員理解の統一を図る

- ① 保育理念を念頭におき、遊びの中で生まれる発想を観察し、遊びをより充実させられるような保育の環境設定を意識していく
- ② 適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、穏やかな関わりなどを保育者が実践し、主体的に行動する。また、子どもへのかかわり方を振り返る機会をもっていく
- ③ 子どもの興味・関心があることに目を向け、時期を逃さず環境を整える

(イ) 保育者として基本に立ち返る

- ① 子どもひとり一人の違いをよく観て知ろうとし、気持ちを受け止め、適切な関わりと援助を行う
- ② キリスト教保育指針を学び、聖隷の保育士として日々を大切に過ごす
- ③ わらべうたやリズム遊びを積極的に保育に取り入れ、楽しみながら体の使い方や体幹を育てることを意識する

(ウ) 保育者研修の充実・人材育成

- ① あゆみ合同研修、年度末研修、保育学会を通して、専門生を養う
- ② 職員自ら興味を持った外部研修（リモート研修）を積極的に受講する
- ③ 保育の中での気づきを掘り下げて研究し、学会などで主体的に発表する
- ④ キリスト教保育冊子を使った毎月の学びや、グループディスカッションを多く取り入れ、コミュニケーションをとりながら学びを深める

2. 保護者との交流

(ア) 保育参観や保育参加・懇談会・個別面談・コドモンによるおたより・連絡ノート・こど

もの遊びに目を向けたドキュメンテーションを通して活動の様子を知らせる

(イ) コドモンに頼りすぎることなく、出来るだけ保護者との対面コミュニケーションを大切に
にする

3. 野上あゆみ保育園・御殿山あゆみ保育園との3園連携

(ア) 合同研修や学会を通して職員同士も保育の情報交換をしていける機会を作る。また、研
修委員は、「自分達で学会や合同研修を組み立てていく」という意識を持ち、委員会を進め
ていく

(イ) 野上あゆみ保育園の3歳児との交流や園庭活動を日常の活動の中に取り入れ、保護者や
3歳児の不安を軽減できるようにする

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 育児孤立を防ぐため、担当職員が、保護者との信頼関係の構築を目指し、安心できる場
所、人となれるよう丁寧にかかわっていく。園庭開放、室内開放（看護師相談・足育・運
動遊びなど）を通して保護者同士の繋がりを育てる。

(イ) トライやるウィーク（職業経験）の中学生や高校生ボランティア、保育実習生、子育て
支援員見学実習などの受け入れを積極的に行っていく

(ウ) 一時保育に対する地域ニーズにタイムリーに応え、子育てに難しさを抱える保護者の支
援も行っていく

(エ) 3歳児クラスの子どもと共に、近隣の公園のごみ拾いなどを経験してみる

5. 食育

(ア) 簡単なクッキングを日常的に行い、香りや音など、五感で楽しめる機会を増やす。ま
た、乳児クラスも植物の生長過程を感じとれるような環境設定を考えていく

(イ) 給食を通じて旬の食材の名前や味、食べることの楽しさを子ども達を感じとれるよう
に
していく

6. 防災・防犯訓練

(ア) 毎月の防災訓練内容を職員が立案、実践していく。災害時、園舎周辺で過ごす設定も想
定して訓練を行っていく

(イ) 災害時や事故などの対応時、現場の職員がよりわかりやすい形の優先順位マニュアルを
職員と共に作成していく

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
利用定員（2・3号）	5名	8名	11名	11名	35名
一日平均入所者数	5名	10名	13名	13名	41名
年間入所延人数	60名	120名	156名	156名	492名
入所率	100%	125%	118.2%	118.2%	117.1%
開所日数（延べ）	292日				
サービス活動収益	153,450千円				
職員数（常勤換算）	20.0名				

御殿山あゆみ保育園

子どもの主体性を大切にしつつ、安心安全な環境を整えていく。保育のねらいを意識しながら、職員の心身の負担が軽減できるよう業務改善を試みる。職員個々の振り返りからキリスト教保育を行事ごととしてとらえている傾向やクラス以外の園児や保護者とのかかわりが希薄であるように感じられる場面もあるため、喜びと感謝、信頼の上、保育とは何かを問い続けながら日々の歩みを成していきたい。また、園児全体へのかかわりを気に留められるよう保育のあり方を話し合っていきたいと思う。

【施設理念】

「あなたがたも愛によって歩みなさい」 エフェソの信徒への手紙 5:2

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いに認め合いながら共に過ごす
3. 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる

【事業・運営計画】

1. 事業団理念や施設理念、保育の基本方針の確認
 - (ア) 事業団理念をもとに保育目標やキリスト教保育を理解し園理念や思いを保護者に伝える
 - (イ) 研修や会議の場を通して、個々の子どもにあった実践や環境を職員全体で考える
 - (ウ) パート会議で保育の共有を行い、また行事について資料を基に説明や、ディスカッションを行い理解していけるよう努める
2. 保育の質向上への取り組み
 - (ア) 愛着関係を基盤にありのままを受け止め認められる環境の中で、自己肯定感や他者に対する基本的な信頼感を育てる。一人ひとりの声や気持ちに寄り添い子どもの「やってみよう」を大切にしながら、社会性、学びに向かう力等を培う
 - (イ) 異年齢で過ごす時間を自然に持てるようにし、慈しみや憧れの気持ちを育てる
 - (ウ) 父親同士が交流する機会を開くことで学年を超えたつながりを作り、父親の育児参加をサポートする。また、母親にも機会を設け、隔たり無く共に子育てを楽しめるようにする
 - (エ) 子どもや保護者の些細な違和感を拾い上げ、専門機関と連携を取りながら個別対応が必要な家庭へのサポートを行う。また、各家庭に沿った支援の方法を考えていく
3. 食育の推進
 - (ア) 保育士や管理栄養士、栄養士、調理師と連携し、子どもの「食を営む力」の基礎を培える取り組みを行う
 - (イ) 保護者や子どもに向けて、食に関する様々な情報の発信や相互の関わりを持つ
 - (ウ) 種や苗からの野菜の栽培、収穫の喜びを通して食への関心を持ち、感謝の気持ちを育む
4. 児童館と包括的な地域子育て支援の充実

- (ア) 児童館と連携しながら保育室開放や園庭開放、看護師相談などを実施する。子育て中の保護者の様々な思いに寄り添い、地域における子育て支援のニーズを模索していく
- (イ) 子育て講演会、給食（離乳食・乳幼児食）の試食会、子育て相談など、地域の社会資源であることを意識し取り組んでいく
- (ウ) 保育士が専門性と自身の強みを活かした独自の子育て支援プログラムを計画し実施する

5. 職員研修の充実と人材育成

- (ア) 各自の課題に沿った外部研修に、主体的に参加する
- (イ) 聖隷保育学会や階層別研修、あゆみ合同研修、キャリアアップ研修への参加
- (ウ) 興味ある事柄を園内研修として取り組み、自主性や積極性を養い保育の質向上を目指す
- (エ) 保育職ラダーや自己評価、目標参画の活用により、自身の役割を考え、責任を持って仕事に従事する。自己評価の振り返りをグループで行い課題を模索し共有する
- (オ) コドモンを利用し保育の可視化から保護者理解につなげる。また、保護者が子育ての喜びを感じられるよう子どもの成長や環境について保育士等の専門性を発揮する

6. 他施設との連携

- (ア) 同法人保育園と行事交流や研修を行い、保育の質の向上につなげる
- (イ) 他法人高齢者施設との交流から幅広い年齢層との関わりを大切にする

7. 防災対策の強化・充実（地域と共に）

- (ア) 防災委員を中心に課題を見出し、職員と共に考えながら防災対策に取り組む
- (イ) 危機管理委員会での検証や外部の事例をもとに、危険な事柄を看護師の意見を踏まえつつ検討し、日頃から備えられるよう園内でのミニ研修を重ねる
- (ウ) 災害マニュアルが実践に即したものとなるよう、内容の見直しをしていく
- (エ) 避難訓練や引き渡し訓練を実施することで、子どもや保護者の防災意識を高める

8. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 近隣の幼稚園や保育所、卒園児、小学校との交流
- (イ) トライやる・ウィーク（職業体験）や学生ボランティア、実習生、大型児童センター企画の中高生の受け入れ

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	8名	19名	20名	20名	21名	22名	110名
一日平均入所者数	9.0名	20.0名	24.0名	25.0名	25.0名	22.0名	124名
年間入所延人数	108名	240名	288名	300名	300名	264名	1,500名
入所率	112.5%	105.3%	120.0%	125.0%	119.0%	100.0%	113.6%
開所日数（延べ）	292日						
サービス活動収益	233,125千円						
職員数（常勤換算）	33.0名						

【実施事業】

一時保育事業、産休明け保育事業、延長保育事業、地域活動事業、特別支援保育事業

御殿山児童館

御殿山児童館は、次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とする。地域に信頼される児童館であるために2026年度も『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や機会の提供、相談・援助の実施や情報の提供、子育て講習の実施等、乳幼児親子への子育て支援の拡充に努める。また、小学生児童や中高生の余暇の居場所づくりの充実に加え、子ども同士のさまざまな課題について、保護者・地域・関係機関と協議し、地域の実情や時代の変化に応じた対応を併設の保育園と連携しながら進めていく。さらに、虐待等に関する情報収集を行い、必要に応じて社会資源につなげていく。

【施設理念】 地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す

【経営方針】

1. 子どもや子育てに関わる大人からの声を大切にニーズに応えられるような環境づくりや、活動に遊び心を持って取り組む
2. 個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施する
3. 地域や諸機関との連携を図りながら、コーディネーター的役割を担う

【事業・運営計画】

1. 児童館施設の利用児童の把握と支援
 - (ア) 日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる環境を整え、提供する
 - (イ) 利用児童の背景を把握することで必要な支援を的確に行う
2. 乳幼児親子支援
 - (ア) 発達年齢に応じた遊びや仲間作りを目的とした活動を提供し「子育て」「親育ち」を支援する
 - (イ) 保護者の子育てを支援し、保護者対象の講座を実施する
3. 小学生集団あそび及び支援
 - (ア) 運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する
4. 中高生居場所づくり
 - (ア) 自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する
5. 出前児童館
 - (ア) 児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作り、プログラムなどを提供し支援する
6. 地域組織活動の育成及び関係機関との連携・社会資源の活用
 - (ア) 地域における子育て支援の拠点として、的確な社会資源の活用、家庭や学校、関係機関との連携・協力を図る
7. 児童館運営委員会の実施
 - (ア) 適正な運営を展開・維持するため、運営委員会で広く意見を求め運営に活かす
8. 職員の資質向上
 - (ア) 児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に取る
 - (イ) コーディネーター機能の強化のため、職場内研修を行う
 - (ウ) 子育て支援に必要な内部研修（発達、保育、障がい等）を行う

在宅・福祉奄美ブロック

ブロック体制が始まり3年目を迎え、各施設が自主的に組織作りやサービスの向上に努め、マネジャーの輩出、育成、及び新規事業の開始や準備等着実に進んでいる。その一方、業績が拡大している施設と不調の施設が明確化している。

この課題は、国の政策動向や利用者ニーズの変化等も影響しているが、組織内部の要因もある。最大の内的課題は複数領域の事業を実施しているが、聖隷福祉事業団の特徴でもある総合化力が十分に発揮されていないことである。運営面においてはそれぞれの事業が連携しお互いに相乗効果を発揮し、事務や給食など、どの施設でもある共通業務は集約する。また希少職種の兼務化をすすめ、デジタル技術の利用と併せ効率化を進め、近年稀にみる人件費の高騰を収入増や設備・備品投資による効率化で無く、業務の革新で経営の安定化をはかる。

法人の理念浸透が重要視されるなか奄美ブロックは理念に基づく運営が深く根付いていると自負している一方、意識的に理念実践をできているかは課題がある。今こそ地域課題を明確化し聖隷理念を意識した運営を進めて行く。

【ブロック運営方針】

地域への感謝と貢献 私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【中期事業計画における奄美ブロック目標】

私たちの仕事は自動化される

Society5.0時代を見据えて全てが繋がり、共有され、新たな価値が生まれる。

【2026年度ブロック目標】

組織の総合化力を発揮することを通じ、先人の事業精神を継承する。

【2026年度重点目標】

1. サービスの質を向上、経営の安定化する為、各種加算取得による単価の向上に努めるとともに各種費用の見直しを行う。
2. 事務・給食業務、施設共通業務の統合を実施し、経営の効率化、スピード化、職員の心理的安全性を高める。
3. 業務のデジタル化を進め、生産性向上と、働きやすさ、サービスの向上を図る。
4. 奄美佳南園の通所介護、居宅介護支援の事業再編について決定、遂行する。
5. 春日保育園の大規模修繕計画を実施すると共に、2027年度の児童発達支援事業所開設の準備を進める。

(事業における主な取り組み)

【奄美佳南園】

- ① 嘱託医の業務内容を見直し、協力医療機関との連携強化を図ると共に引き続きチームでの入退去管理能力を高め、看取り加算算定数の増加、入所稼働率の安定化を図る。(介護と医療の連携)

- ② 在宅事業（通所介護、居宅介護支援、訪問介護）の再編を検討、実施する。
 訪問介護）登録ヘルパーの更なる獲得と事業の拡大
 通所介護）現状の収入規模に合ったサテライトの営業日の変更。
 居宅介護支援）業務改善をはかり一人当たり計画件数を増加する。
- ③ 高騰を続ける給食費に対応し、利用者負担の軽減並びに、食事の質の均質化を目標に給食業務の直営化を可能な限り早期に実施する。
- ④ 聖隷チャレンジ工房サービス向上の為、就労移行支援事業の就職定着率 30%を達成する。
 就労継続支援 B 型においては、工賃向上を目指し、新たな作業品目を開発する。

【春日保育園】

- ① 1 年間に渡る、運営継続しながらの大規模修繕となる為、周到的な準備を行い、安全にサービスを提供し計画を遂行する。
- ② 稼働管理や一時保育、誰でも通園制度等の導入など、運営計画を策定し、安定化を図る。
- ③ 若手職員の役割の明確化、積極的な参画を進め、やりがいを醸成するリーダー育成の為主任、副主任、分野別リーダーの役割を明確化し、権限移譲を進める
- ④ コドモンも含め、更なる業務の効率化を進め、職員の心理的安全性や質向上に努める

【のぞみ園】

- ① 児童福祉の中核施設として更なる、他機関との連携を深める
- ② 基幹相談支援センターと連携して、地域課題の明確と関係機関への発信を行う。
- ③ 臨床心理士等希少職種の採用促進と併せて、法人内施設間連携を強化しサービスの質の向上を目指す
- ④ 聖隷こども家庭総合支援センターと連携して、サービス利用に至れていない利用者やその家族支援を広げる

【聖隷かがやき】

- ① ~④ のぞみ園と同様
- ⑤ 人材獲得に努め、稼働率を向上させ、地域のニーズに応える

【共通】

- ① 各施設の事務職員を運営管理室で一体管理し、業務の集約・効率化をして費用削減を検討し、本部機能の強化を図る。併せて現下の物価高騰を踏まえて各種費用の見直しを行う。
- ② 春日保育園の児童発達支援事業の開設準備については運営管理室が事務局となりブロック全体で準備を行う。
- ③ 管理栄養士を含む食事サービス部門の一体的な運営を検討し、児童福祉施設の発注献立業務の統一や、奄美佳南園での完調品の導入、直営化を検討する。
- ④ 施設を横断する会議の事務局を運営管理室とし、会議体の見直しや議事進行の適切化・効率化を進める。

奄美佳南園

2025年度は、「人材確保」「業務効率化」「働きやすい環境作り」の取組みが一定の成果を上げ評価を受けた一方、事業経営の課題や建物の老朽化と物価高騰対策、感染症流行など突発的な経営環境変化への対応、深刻化が予測される人材不足対策など、今後の課題も明確化した年でもあった。加えて、医療との連携体制構築は、包括的な福祉サービスを提供する奄美佳南園の最重要課題と考える。

2026年度は、この課題への対応として国の政策動向だけでなく、地域の状況をしっかりと見通しながら、既存の福祉事業の強化と医療との連携体制づくり、新たな事業展開への準備、奄美ブロックとしての業務の効率化と集約化、事業コストの見直しなどに着手し、経営の安定化と、地域における事業価値を高める取組みを推し進める。

また、その実現のために大事なものは、やはり「人」である。職員が安心して働ける環境があってはじめて、理念の実践と事業継続が実現できる。その実現に向けて職員がやりがいを持って、利用者一人ひとりに寄り添い、地域から必要とされる福祉を提供し続けることができるように、働く環境整備と人材育成についても並行して推し進めていく。

【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

～私たちを必要として下さる方々を支え、このことを通じて

私たち自身も共に幸せになれる奄美佳南園になる～

【経営方針】

①ES（職員満足度向上）→②CS（利用者満足度向上）→③経営の安定化→①の循環を実現する

1. サービス向上のために、高齢者・障害者複合サービス拠点としての機能を高める
2. 働きやすさ向上のために、聖隷DXの推進と人材育成、ウェルビーイング経営に取り組む
3. 健全経営推進のために、既存事業の見直しと生産性向上、経営の効率化に取り組む
4. 地域社会貢献のために、公益的な事業活動に積極的に尽力する

【事業・運営計画】

1. サービス向上のための取組

(ア) 個別性と主体性を大事にした利用者中心の支援の実践

- ① 生活・既往歴、心身状態の把握と個別性のあるケアプラン・個別支援計画の作成と実践
- ② 利用者一人ひとりの経験や強み、主体性を大事に「生きがい」を感じることができるように環境と支援内容を見直す

(イ) 地域・在宅とのつながりを大事にした支援の実践

- ① 施設、在宅に関わらず、家族や地域とのつながりを感じることができる支援を実践する
(面会方法や環境の見直し・地域性を取入れた行事やレクリエーションの開催・カンファレンスへの家族参加・在宅生活の継続性を意識した支援の実践)
- ② 嘱託医、協力医療機関との連携体制を構築し、本人・家族が望む「その人らしい生活」が

最期まで送れるような看取りケアを施設・在宅でも実践する

(ウ) 多様な利用者のステップアップを支えるための職場作りと人材育成

- ① 工賃向上と自立支援を目的に、地域の特産性を活かした新たな作業品目の開発を行う
- ② 個々の障がい特性の理解と生活課題解決に向けた支援を実践するため、支援者が学ぶ機会を作る（内外研修参加・家族・関係機関との連携等）

2. 働きやすさ向上のための取組

- (ア) 導入した ICT 機器や AI 議事録の活用、電子請求への変換、訪問介護事業のシステム導入、会議体の見直しなどの取組みを進め生産性の向上と業務効率化を実現する
- (イ) 人事交流（エリアツアー・きぼう会等）や資格取得・スキルアップ研修派遣を積極的に行い、職員個々がキャリアデザインを描ける環境整備と具体的取組み支援を実践する
- (ウ) 職員のワークライフバランス、安全と健康確保実現のために、超過勤務削減、腰痛予防対策の徹底、健康診断後の有所見者の受診勧奨の徹底に精力的に取り組む
- (エ) 職員の成長支援と理念浸透を目的に、聖隷発祥の地研修への継続派遣と目標参画面談時に事業団キャリアパスの「求められる役割と能力」について動機づけと振り返りを実践する

3. 健全経営のための取組

- (ア) 多職種での入退所、入退院管理と、看取り加算を含む算定可能加算の取得に取組み入所の高稼働維持と経営の安定化を図る。（介護と医療の連携）
- (イ) 在宅事業の再編を検討、実施する
登録ヘルパーの更なる獲得と事業の拡大（土日のニーズに対応できる体制）・通所介護事業の地域密着型への変更と営業日数の変更、人員配置の見直し・収支バランスに応じた在宅事業所の運営費（家賃、駐車場代等経費）の検討・訪問看護事業開設に向けた準備
- (ウ) 奄美佳南園食事サービスの直営化と管理栄養士を含む食事サービス部門の一体的な運営管理体制（人材育成・リスク管理・発注献立業務の統一等）を確立する
- (エ) 事務職員を運営管理室で一体管理し、ブロック全体の業務集約と効率化・費用の見直しや削減・人材確保（外国人材確保も含む）などを運営管理室で実施する
- (オ) 老朽化した設備の修繕と導入した ICT 機器の効果検証と精査・新たな業務革新機器導入の検討を進める

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 福祉拠点施設として、地域支えあい活動や介護者教室の開催、福祉避難所としての体制整備に取り組む
- (イ) 地域の防災・防犯活動（自治会との合同訓練・登校時の見守り活動への参加等）への協力と、自治会との交流・美化活動などを通して近隣地域との繋がりを深める

【数値指標】

	特養入所		短期入所		在宅介護支援センター	
	従来型	ユニット型	従来型	障害		
利用者定員	50名	30名	10名			
利用者延べ人数	17,520名	10,622名	3,833名	99名	1,200名	
一日平均利用者数	48.0名	29.1名	10.5名	0.27名		
稼働率	96.0%	97.0%	105.0%	2.7%		
稼働日数（延べ）	365日	365日	365日	365日	257日	
単価（一人一日当り）	13,912円	16,121円	14,300円	13,800円		
サービス活動収益	243,741千円	171,228千円	55,527千円	1,357千円	5,760千円	
職員数（常勤換算）	48.8名	23.7名	3.0名		1.7名	
	奄美佳南園デイサービス			春日デイサービス		
	通所介護	総合事業	生活介護	通所介護	総合事業	
利用者定員	15名			15名		
利用者延べ人数	3,315名	195名	585名	2,106名	842名	
一日平均利用者数	12.8名	0.8名	2.3名	8.1名	3.2名	
稼働率	85.0%	5.0%	15.0%	54.0%	21.6%	
稼働日数（延べ）	260日	260日	260日	260日	260日	
単価（一人一日当り）	11,082円	5,297円	7,200円	11,000円	5,300円	
サービス活動収益	36,736千円	1,033千円	4,212千円	23,166千円	4,464千円	
職員数（常勤換算）	9.9名					
	就労支援		ホームヘルプ		居宅介護支援	
	移行支援	継続B	介護	障害	介護	予防
利用定員	6名	14名	—	—	—	—
利用者延べ人数	830名	4,310名	4,312名	924名	744名	120名
一日平均利用者数	3.2名	14.0名	11.8名	2.5名		
稼働日数（延べ）	260日	308日	365日	365日	260日	260日
単価 （一人一日当り）	9,333円	11,900円	4,801円	5,158円	17,306円	4,300円
サービス活動収益	7,746千円	51,290千円	20,702千円	4,766千円	12,876千円	516千円
職員数（常勤換算）	7.9名		7.8名		1.2名	

春日保育園

2026年度は、保育園の持続化と新たな事業展開を視野に園舎内外のリニューアルに着手する。運営を継続しながらの実施となるため、子どもたちの安全を優先しながら年度内での工事を進めていく。利用園児や保護者、地域の方々には、多くの理解と協力が必要不可欠であり、そのうえで保育サービスの質を落とすことなく経営の安定化を目指す。保護者ニーズも多様化する中、利用者視点を常に考え、子どもも大人も尊重し合い、つながりを意識した組織作りと変化する社会状況に対応できる力を身につけたい。また、職員一人ひとりが長く働き続けられるよう業務の見直しや休憩確保を継続的に取り組み、心も身体も健康で魅力ある職場づくりに努める。在園児の家庭はもちろん地域の子育て家庭や住民の居場所として必要とされ、成長できる保育園でありたい。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

～子どもたちの心身の成長を私たちが幸せと受けとめ共に育つ春日保育園でありたい～

【経営方針】

1. 専門性の向上と経営の安定化
2. 働きやすい職場環境作りとリーダー人材育成への取り組み
3. 地域交流と地域貢献を積極的に行う

【事業・運営計画】

1. 専門性の向上と経営の安定化

(ア) 保育の質向上への取り組み

- ① 法人の理念であるキリスト教精神に基づく「隣人愛」について、あらためて職員と共に考え、福祉・保育の原点に立ち返りサービスの向上につなげる
- ② クラスの枠組みを超え、異年齢交流を図りながら、子ども理解を深め、保育環境や関わり方等について考え、互いに学び合える機会を作る
- ③ 感染症や事故、災害時の対応と安全確保についてマニュアルの共有及び連携を職員と定期的に確認し、事故予防とリスク管理意識を高める
- ④ 保育システムを活用し、保育園での様子や子育て情報等保護者へ可視化しながら積極的に発信し相互理解を深めると共に行事や保育参観等を通して、顔の見える関係作り、コミュニケーションを大切にする
- ⑤ 親子支援はもちろん保護者同士のつながりも大切にし、保育参観や親子教室を通して保育者自身のスキルアップにつなげる
- ⑥ のぞみ園と連携しながら児童発達支援事業についての勉強会を計画・遂行し、準備をすすめる

(イ) 経営の安定化

- ① 計画的な稼働管理を行い、高齢者等活躍促進加算や保護者のニーズに合わせた延長保育事業に力を入れ、経営の安定化に取り組む
- ② 奄美ブロックにおける子どもの食事提供において献立の統一化や業務の標準化を図るため、職員をのぞみ園や聖隷かがやきへ派遣する
- ③ 奄美市と大規模修繕に関し、2026年度の事業を着手する。運営と並行して工事を実施するため、行事の縮小、異年齢交流など保育の質を保ちながら取り組む

2. 働きやすい職場環境作りとリーダー人材育成への取り組み

(ア) 働きやすい職場環境作り

- ① ICT や AI 議事録を活用し、業務省力化、超勤削減に努める
- ② 働きやすい環境（勤務体制、休憩、業務量）を整え、心身の健康維持に努める
- ③ 運動など健康管理を促進するとともに、インシビリティの研修を取り入れハラスメント予防に努める

(イ) リーダー人材育成への取り組み

- ① リーダー層の育成に注力し、職務内容、役割を意識した働きかけを行い取り組みを支援する
- ② キャリアアップ研修受講（2科目）や外部の視察及び研修を促進し、学びの機会経験をもとに向上心へとつなげる

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の高齢者や子育て家庭の憩いの場となるよう園庭開放を実施し交流を図る
- (イ) 中学・高校生の職場体験やボランティア、施設見学を積極的に受け入れ次世代育成に貢献する

【数値指標】

定員 110 名	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
利用定員（2号・3号）	6名	20名	21名	21名	21名	21名	110名
平均入園者数	6.7名	20.8名	21名	21名	21名	20名	110.5名
年間入園者数	80名	250名	252名	252名	252名	240名	1,326名
入園率	111.1%	104.1%	100%	100%	100%	95.2%	100.5%
開園日数（延べ）	289 日						
サービス活動収益	156,941 千円						
職員数（常勤換算）	27.2名						

【提供事業】 延長保育事業 一時預かり

のぞみ園

児童発達支援センター、放課後等デイサービス、特定相談支援、基幹相談支援センター

2025年度は相談支援事業所の協働体制構築と、奄美地区障がい者等基幹相談支援センター受託運営を実施したことで、様々な地域課題と向き合うことができ支援の幅が広がりつつある一方で、人材不足や専門性の高い人材育成が大きな課題となっている。

2026年度は人材不足の課題解決に向け AI 議事録等デジタルツールを積極的に取り入れることと、奄美ブロック内の業務集約化などを通して、効率化と生産性向上を実現していく。また、サービス提供においてはライフステージに応じた継続性のある支援を実現すべく、青年期以降も含めた関係機関との連携体制作りに取り組んでいく。

このような取り組みを通して、今まで、のぞみ園が大切にしてきた発達支援を土台に、成長した先を見据えた幅広い支援体制作りを実現していく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～こどもたち一人ひとりの育ちと親子の願いに寄り添う支援～

【経営方針】

1. 事業所としての機能強化と経営の安定化
2. 専門職としての成長と活躍できる環境作り
3. 地域交流と地域貢献（公益的な事業活動への取り組み）
4. 利用者主体の地域を支援者と共に作っていく（基幹相談支援センター）

【事業・運営計画】

1. 事業所としての機能強化と経営の安定化

ア) 児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業

- ① 専門職（臨床心理士、作業療法士等）や関係機関との連携を通して一人ひとりの発達段階を正確に把握し、個別や集団の中でこどもの成長、発達をサポートする
- ② 保護者が気軽に相談しやすい機会作りを行う（親子登園・個別面談・保護者勉強会・ペアレントプログラム・保護者会、職員との共同活動）
- ③ 職員の学びの時間確保を行い一人ひとりの経験年数に沿った専門性を高める（AI議事録活用で時間の確保、WEB会議や研修での学び）
- ④ 年齢・発達状況を踏まえながら、本人の意思決定支援と将来の自立に向けた体験型支援や聖隷チャレンジ工房カナンとの交流、地域移行支援を実践する

イ) 保育所等訪問支援事業

訪問支援実施件数増加を目指す（2025年度登録者 20%、2026年度登録者：40%）

ウ) 相談支援事業

基幹相談支援センターと連携して、多様な相談（きょうだい児支援、不登校支援、青年期の移行支援）に対応できる体制作りに取り組む。

エ) 経営の安定化

- ① 奄美ブロックにおける発達支援の連携と運営面の協力体制を強化する（春日保育園、聖隷かがやきとの連携・給食提供体制・事務・人材育成等）
- ② 待機児への丁寧なフォローを行い、継続した利用につなげる（経営の安定化）
- ③ 利用者の利便性向上と業務の効率化に向けて ICT 機器を積極的に活用する（電子請求の導入・超過勤務削減）

2. 専門職としての成長と活躍できる環境作り

- ア) WEB 会議やオンライン研修を活用して人材育成に取り組む（法人内外の人材との交流や専門研修への参加情報交換会への参加）
- イ) 健康を意識できる職場作りを目指す（PepUp 活用の推進、健診後の再受診勧奨、女性特有の病気やライフステージに応じた健康推進）

3. 地域交流と地域貢献

- ア) 地域向け親子教室や公開療育、園庭開放などを通して子育て支援、保護者の交流促進、療育施設を知ってもらう取り組みを行う（公益的な取り組み）
- イ) 地域の視察研修・福祉体験・実習受け入れや関係機関との情報交換会を行う。また、地域行事への積極的参加を行うことで療育支援についての理解を広める
- ウ) 市町村の親子教室や発育・発達クリニックに職員を派遣し、地域の保健師と連携し保護者の「気づき」へのアプローチや乳幼児期の早期支援へのつなぎに関与する
- ウ) 配慮が必要な地域の子ども、その家族の災害時における避難場所として活用できるよう発信する（基幹相談支援センターとの連携、ホームページの活用）
- エ) 聖隷の理念のもと、困っている人々がどの地域においても質の良いサービスを受けられるよう適した人材配置を行う（聖隷家庭支援センター、奄美ブロック内での連携）

4. 利用者主体の地域を支援者と共に作っていく（基幹相談支援センター）

- ア) 自立支援協議会こども部会において保育所等訪問支援の活用及び適正運用のためのルール化を行う（利用者の個別性の尊重）
- イ) 就労支援事業所増加に伴い奄美独自の就労系サービスの申請、運用ルールについて、鹿児島県、5 市町村と一緒に検討していく（利用者の自立支援と尊厳の保持）

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス
利用者定員	25 名		20 名
利用者延べ人数	5,936 名	54 名	4,541 名
一日平均利用者	24.84 名	0.23 名	19.00 名
稼働率	99.40%		95.00%
稼働日数（延べ）	239 日	239 日	239 日
単価（一人 1 日当り）	16,345 円	17,815 円	8,965 円
サービス活動収益	97,024 千円	962 千円	40,710 千円
職員数	17.8 名	0.8 名	9.2 名

	相談支援	障害児 相談支援	基幹相談
利用者延べ人数	15名	401名	
一日平均利用者	0.06名	1.68名	
稼働日数（延べ）	239日	239日	241日
単価（一人1日当り）	21,867円	23,978円	
サービス活動収益	328千円	9,615千円	18,182千円
職員数	2.4名		2.4名

聖隷かがやき

児童発達支援センター 放課後等デイサービス 特定相談支援

子どもの発達への不安や、子育てで困り感を抱える保護者にとって北大島地区での療育施設として「聖隷かがやき」の施設名の周知も広がり、地域の中で定着してきた。「個別」と「集団」のバランスを求めた発達支援の提供は今後もニーズとして求められ小集団の療育で幼児期の「親子の関係性」を構築しその子の将来を見通して関わる大事さが伝わってきている。一方、専門家や医療機関の少ない離島においては関係機関との連携が厳しく、より個別的な対応となると専門家につながりづらい現状となり、家庭への負担も大きく地域課題となっている。

2026年度は個別のニーズや地域の課題を抽出し、関係機関とのICTを活用した連携を構築すると共に、子育て支援の拠点としての役割の強化に努めていく。また、地域で見守る保育所や学校との関係性も深め、利用する子ども、家族にとって取り組むべき支援を提供していく。そのためにも安定した支援の提供として職員の心理的な安心、安全と健康保持を重点に「働きやすい職場」作りをすると共に支援の質の向上に努め、成長し続ける施設として邁進していく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～親子の「今」を大切に子供の将来を見つめた発達支援～

【経営方針】

1. 子育て支援の拠点としての機能強化と経営の安定化
2. 職員の働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 子育て支援の拠点としての機能強化と経営の安定化
 - (ア) 安定した支援の提供への取り組み
 - ① 年齢や発達特性に即した支援内容の充実を図るために職員間での協議の場を多く設け段階的な支援内容の構築に努める
 - ② 「できる・楽しい」気持ちを高め、コミュニケーション力へとつながるICT等のツールを活用し支援の幅を広げ利用者満足に努める
 - (イ) 療育の質向上へ向けての取り組み
 - ① 日々の振り返りの中でPDCAサイクルによる支援体制の充実に取り組む
 - ② 外部研修の受講や勉強会を積極的に取り入れ専門性の向上を図る
 - ③ 奄美エリア内の専門職採用を継続し多職種連携を通じ療育の質の向上を目指す
 - ④ 発達ラダーに向けての準備から実践に向けて取り組む
 - (ウ) 関係機関との取り組み
 - ① 保育所、子ども園向けの公開療育や施設見学の受け入れ、地域向けの勉強会開催な

ど中核機能の役割を通して、地域と顔の見える関係性を構築する

- ② 地域の子育て支援「遊びの広場」における親子遊びを提供し、障害の有無に関わらず子育ての相談できる支援施設としての普及を行い、地域課題の抽出に努め、関係機関との連携を行う
- ③ 就学前の親子への学習環境の情報提供や学校見学など寄り添った支援を行い並行通園先の関係機関や学校との連携を実施する

(エ) 経営の安定化と健康経営の推進

- ① 地域のニーズに応えるように稼働率を向上させ人材獲得に努める
- ② 利用に至れていない親子への相談や医療的ケア児の受け入れに備えた講習などWEB等を利用した聖隷子ども家庭総合支援センターとの連携を構築する
- ③ 職員の健康保持としての取り組みを行い労災防止に努める（超過勤務削減、ウォーキングイベント参加促進、メンタルヘルスケア、食生活改善）

2. 働きやすい職場環境作りと理念浸透における人材育成への取り組み

- (ア) 法人及び施設の理念を念頭に職員同士が意見を言いやすく共に学びあい成長できる環境作りを行う
- (イ) 奄美エリア施設職員とのレクリエーション交流を実施して施設間の関係性を構築する
- (ウ) 電子請求、AI 議事録の活用による利用者サービスの向上、業務改善につなげ、職員のやりがいを引き出し奄美エリアの統合力を高める

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域向けの親子あそびの場の提供の利用方法の促進を行い、孤立した家族の解消へと努める
- (イ) 施設開放を通じた地域の高齢者の方達との交流による施設理解を広げる
- (ウ) 中学生、高校生の福祉体験学習や専門学校等の実習、ボランティアの受け入れを通して、将来の福祉人材として次世代育成に貢献する

【数値目標】

	児童発達 支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利用者定員	20名		10名		
利用者延べ人数	4,769名	37名	2,667名	264名	117名
一日平均利用者数	19.95名	0.15名	11.16名		
稼働率	99.8%		111.6%		
稼働日数（延べ）	239日	239日	239日		
単価（一人一日当たり）	15,363円	14,000円	10,654円	23,818円	21,495円
サービス活動収益	73,267千円	518千円	28,414千円	6,288千円	2,515千円
職員数	11.1名	0.1名	7.3名	0.9名	0.3名